Mamiya leaf

User Guide

Credo Digital Backs

Mamiya 645DF+/645DF Camera

On Rights

©2012-2014 Leaf Imaging Ltd. All rights reserved.

Colorspace images created in CROMiX ColorThink.

On Liability

The information in this User Guide is provided “as is”.

Under no circumstances, including negligence, shall Leaf Imaging Ltd. be liable for any incidental, special, direct, indirect or consequential damages arising out of or relating to use of the information provided in this guide with or without the software and/or hardware described in the guide.

Trademarks and Acknowledgements

Mamiya and Mamiya Sekor are registered trademarks.

Capture One and Phase One are either registered trademarks or trademarks of Phase One A/S in the European Union and/or other countries.

All other trademarks are the property of their respective owners.

This product includes DNG technology under license by Adobe Systems Incorporated.

Contents

1.0 イントロダクション 7
1.1 保証規定 8
1.2 ソフトウェアのインストールとアクティベーション 8
1.3 アクティベーション 9
1.4 モニターのキャリブレーション 10

2.0 645DF+ カメラとCredoデジタルバックシステム 11
2.1 Credoデジタルバックのバッテリーをチャージする 11
2.2 電池の入れ方 12
2.3 スリープモード 13
2.4 レンズの着脱 14
2.5 ストラップの取り付け方 15
2.6 Leaf Credoデジタルバックの着脱 16
2.7 各部の名称 17
2.8 ディスプレイ 18
2.9 外部液晶表示(カメラ)の表示例 19
2.10Credoデジタルバックのボタン 20
2.11LEDランプ 20
2.12日時の設定 21
2.13 視度調整 21
2.14アイピースシャッター 22

3.0 ベーシックファンクション 24
3.1 ISO感度設定 24
3.2 ホワイトバランス設定 24
3.3 全自動での撮影 25
3.4 測光モードについて 27
3.5 フォーカスモード 28
3.7 フォーカスロック撮影 31
3.8 ドライブモードについて 32
3.9 露出モードについて 33
3.10ストロボ撮影 38
3.11ストロボ調光補正について 41

4.0 Leaf Credoデジタルバックについて 44
4.1 クイックスタート(スタンドアロン撮影) 45
4.2 セッティング 46
4.3 パワーインジケーター 47
4.4 CFカードスロットのLED 47
4.5 接続撮影とスタンドアロン撮影 48
4.6 コンパクトフラッシュカード(CFカード) 50
4.7 ストレージチェックシステム(3S) 51
4.8 CFカードのフォーマット 52

5.0 Credoユーザーインターフェースとメニュー 53
5.1 ソフトボタン 54
5.2 タッチスクリーンの操作 55
5.3 ISO感度 56
5.4 ホワイトバランス 57
5.5 カスタムホワイトバランス 58

6.0 ブラウズモード 59
6.1 ブラウズモード ビュー 60
6.2 ダイナミックメニュー 61
6.3 インフォメーションバー 62
6.4 ブラウズ時の操作 62
6.5 ズーム 62

6.6 レーティング 63
6.7 B/Wで画像を確認する 63
6.8 画像の消去 64
6.9 ブラウズモードからの画像消去 65
6.10グリッド 66
6.11ツール 68

7.0 セットアップ 71

7.1 カメラの設定(カスタムファンクション設定 72
7.1.1 使用中のカスタムセット 72
7.1.2 露出プログラム 72
7.1.3 AFエリア 72
7.1.4 測光 72
7.1.5 カスタムファンクション 73
7.1.6 カスタムA、B、C設定 73
7.1.7 EVステップ 73
7.1.8 レンズ゛交換 73
7.1.9 スリープ時間 73
7.1.10 バッテリータイプ 74
7.1.11 ブラケッティング段数 74
7.1.12 前/後ダイヤル 74
7.1.13 後ダイヤルPモード 74
7.1.14 ダイヤル管理 74
7.1.15 AEL/AFLボタン入れ替え 75
7.1.16 リリースボタン 75
7.1.17 AEL 75
7.1.18 AFL 76
7.1.19 MモードAEL 76
7.1.20 AF補助光 76
7.1.21 フラッシュシンク 77
7.1.22 ブザー 77
7.1.23 シャッターTv/Av/P 77
7.1.24 M/Xのシャッター 78
7.1.25 AF優先 78
7.1.26 使用中のカスタムセット 79
7.1.27 デフォルトに戻す 79
7.1.28 システムについて 79
7.2 電源設定 80
7.3 CFカードのフォーマット 81
7.4 ディスクチェック 81
7.5 保存先 81
7.6 ファイル形式 82
7.7 カメラモード 82
7.8 レイテンシー 82
7.9 イメージの方向 82
7.10自動プレビューモード 83
7.11ディスプレイ 83
7.12ビープ音 84
7.13日付時間 84
7.14言語(L) 84
7.15デフォルトに戻す 85
7.16ファームウェア 85
7.17情報 86

9.0 645DF+ の高度な機能 88

9.1 露出補正 88
9.2 AEロック撮影 89
9.3 測光値差表示について 90
9.4 オートブラケット撮影 91
9.5 ミラーアップ撮影 93
9.6 ミラーアップディレイ撮影 94
9.7 長時間露出撮影 95

9.8　バックライトボタン 95
9.9　前/後ダイヤルロックの設定と解除 96
9.10セルフタイマー撮影 97
9.11インターバル撮影 98
9.12被写界深度 99
9.13赤外撮影 100
9.14カスタムファンクション 101
9.15カスタムファンクションの種類と内容 102
9.16C1、C2、C3モード 106
9.17ハッセルブラッドVレンズ用マウントアダプター 107
9.18マウントアダプターの取り付け 107

10.0 メンテナンス 108
10.1ファインダースクリーンの交換 108
10.2バッテリーについて 109
10.3三脚ねじ/補助レリーズ接点 109
10.4カメラ液晶のエラー表示 110
10.5レンズのメンテナンス 111
10.6デジタルバックのメンテナンス 111
10.7IRフィルター 111
10.8Mamiya 645DF+ カメラボディ仕様 112
10.9Mamiya 645DF+ Housing Specification 113

11.0 ソフトウェア 114

12.0 ユーザーサポート 115
12.1Webでの情報 116

1.0 イントロダクション

この度はMamiyaLeaf製品をお選びいただきありがとうございます。

Mamiya 645DF+とLeaf Credoデジタルバックはロケーション撮影、スタジオ撮影ともに最もパワフルなデジタルカメラシステムです。

Leaf Credo 80,60,50そして40デジタルバックはそれぞれ8000万画素、6000万画素、5000万画素、4000万画素の解像度を誇り、中判デジタルカメラの新しい標準となるシステムです。

Leaf Credoシリーズはお使いのフォトグラファーに、その卓越したイメージクォリティと洗練されたワークフローを提供します。
またLeaf Credoで撮影したRAWデータをクリエイティブに再現するために、Capture Oneソフトウェアが準備されておりMacOSXとWindows上で動作します。

IQシリーズと併用することにより、このプロフェッショナルRAWコンバーターとイメージエディティングソフトウェアは優れた色調とディテールのある、世界最高のイメージクオリティを配信します。このソフトウェアは効率の良いワークフローを実現するため、撮影、編集、シェア、プリントに必要な全てのツールを含みます。

Mamiya 645DF+は、フォーカルプレーン、レンズシャッターの両方のレ ンズタイプに対応し、驚くほどの多様性を実現します。Mamiya Leafは、プロフェッショナルフォトグラファーに最高のデジタルソリューションを提供するだけでなく、フォトグラファー各々がレンズ、ボディー、バック、ソフトウェアやアクセサリーなどを自由に選ぶことができるオープンな設計となっています。

Mamiya Leafでは常にプロフォトグラファーに最高のソリューションを提供することを約束します。このユーザーガイドはMamiya 645DF+とLeaf Credoシリーズの特徴と機能を取り上げています。また、一部の機能についてはMamiya 645DFと同等のものです。

この革新的なカメラシステムをお楽しみ頂けることを心から願っています。

1.1 保証規定

別途保証規定をお読みください。何らかの問題が発生した場合は、まずお近くの販売店(購入店)にお問い合わせください。またカメラを自分で修理·改造することはおやめください。お客様個人で修理·改造を試みられた場合は、保証対象外となります。

1.2 ソフトウェアのインストールとアクティベーション

CaptureOneをインストールするにはインターネットへ接続が必要です

Macへのインストール

Capture Oneソフトウェアには Mac OS Xにおいてアプリケーションを起動するために全ての必要なソフトウェアが含まれています。

1. Capture One DVDをロードするか、Mamiya Leafのサイト(www.mamiyaleaf.com)からアプリケーションをダウンロードする。
2. Capture One ディスクイメージ(.dmg)を開く
3. 提示されたライセンス契約にを読み、同意する。
4. Capture Oneアイコンをアプリケーションフォルダーにドラッグする
5. Capture Oneをアプリケーションフォルダーから開く

Windowsへのインストール

Capture Oneソフトウェアには Windowsベースのコンピューターにおいてアプリケーションを起動するために全ての必要なソフトウェアが含まれます。

1. Capture One DVDをロードするか、Mamiya Leafのサイト(www.mamiyaleaf.com)からアプリケーションをダウンロードする。
2. CaptureOne.x.x.x.exeを起動する
3. 提示されたライセンス契約にを読み、同意する
4. 画面上の指示に従い、インストールを完了させる

注意:Microsoft® .NET Frame- work 3.0がインストールされていない場合は、自動でMicrosoft® .NET Frame- work 3.0インストーラーが起動します。

1.3 アクティベーション(ソフトの認証をする)

Capture Oneをアクティベート(有効化)するにはインターネット接続が必要です。
Capture Oneを動作させるとアクティベーションのダイアログボックスが開きます(Windowsの場合、ダイアログボックスの内容が少し変わりますが、手順は同様です)

1. **Capture One DB**(デジタルバック専用)で使用する場合は「Use Capture One DB」を選びます
2. **Activate**を選ぶとアクティベーションが完了します。

Capture One Proのライセンスをお持ちの方は以下の操作でアクティベーションしてください

1. **Activate**ボタンを押すとライセンス入力のダイアログボックスが表示されます
2. 16文字のライセンスコードとプロフィール情報(メールアドレス・お名前)を入力して**Activate**をクリックしてください。アクティベート完了のダイアログボックスが表示されます。

トラブルシューティング

ソフトウェア起動に関する問題が発生している場合は、アプリケーションの指示に従うか、オンラインのソフトウェア取扱説明書を読むか、もしくはPhase Oneのウェブサイトを確認して下さい。http://www.phaseone.com/support

Capture Oneのディアクティベート

1. メニューの「Capture One > ライセンス」からライセンスアクティベーシ ョンダイアログボックスを開く。
2. **Deactivate**ボタンを押す
3. ディアクティベーションされると、Capture Oneはトライアルモードに戻ります。トライアル期間が終了している場合は、全ての処理がキャンセルされます。また再アクティベートするまで 使用することはできません。ディアクティベートを実行することを確認しま す。この処理をすることにより、他のコンピューターでCaptureOneをアクティベートすることが可能になります。

1.4 モニターのキャリブレーション

正確にキャリブレーションされたモニターは画像を閲覧･編集する際における重要な要素です。高い品質のモニターとキャリブレーションツールは画像を正確に閲覧･編集する場合の必須項目となります。モニターのキャリブレートは経時変化に対応する為、定期的に行って下さい。

ハードウェアベースのモニターキャリブレーターは比較的安価に手に入れることができます。プロセスはシンプルで簡単、そして自信を持って画像を表示することができるようになります。また数々のハイレベルモニターには、高精度のプロ用キャリブレーションモニターとして使えるよう、専用センサー･内部キャリブレーティングソフトウェアが備えられています。

注意!!

- チャージャーは専用バッテリー以外には使用しないでください。
- ぬれた状態または結露した状態では充電しないでください。
- お子様の手に触れない場所に保管してください。
- チャージが終了したら,チャージャーは電源から外しておいてください。
- 専用の電源アダプタ以外では使用しないでください
- バッテリー･ACアダプタの着脱時に無理な力を加えないでくださ
- 端子は常にきれいにしておいてください
- ショートさせないでください
- 長時間バッテリーを充電器にセットしたままにしないでください
- 過度の熱や裸火にさらさないで下さい
- 分解したり改造をしないでください･
- バッテリーを食べたり飲み込んだりしないで下さい

2.0　645DF+カメラとCredo デジタルバックシステム

Mamiya Leaf中判デジタルカメラシステムは、様々な撮影に対応できるよう柔軟でオープンなシステムとして考えられています。下記、セットアップの手順をご一読いただきMamiya Leaf中判デジタルカメラシステムを正しくお使い下さい。

2.1 Credo デジタルバックのバッテリーをチャージする

パッケージを開けたら、まず最初にバッテリーの充電をしてください。

Leaf Credoシリーズで使用するバッテリーは1つですが、撮影を始める前にすべて のバッテリーをチャージすることをお勧めします。

FireWireもしくはUSB3を使用しての接続撮影であっても、バッテリーは常 にCredoバックに入れておいて下さい(接続撮影時のバッテリーのチャージに 関しては80ページの詳細をお読みください)。

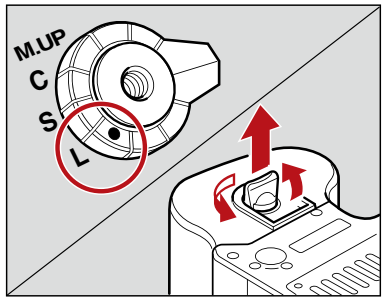
バッテリーチャージャーは110～250ボルトの電圧で使用することができます。このチャージャーにはインターナショナル電源アダプターがついています。お使いのコンセントに適切なものを選択し、しっかりと所定の位置にセットして下さい。

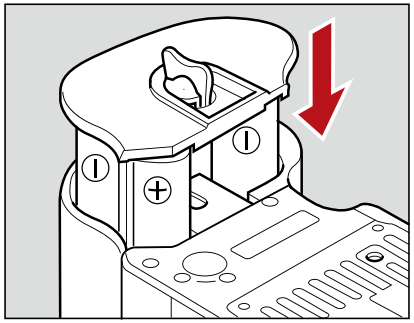
コンセントに電源アダプターを接続し、バッテリーを充電します。(約2.5～3時間かかります)。

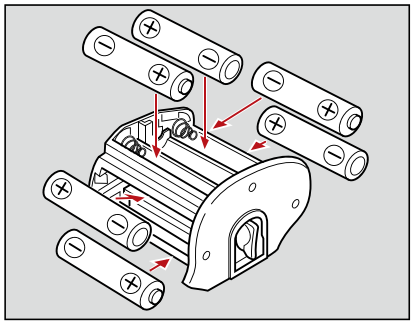
予備バッテリーの購入

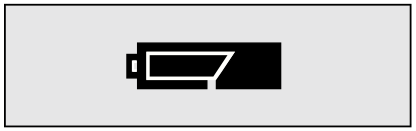
バッテリーは必ず純正のものをお使い下さい。

サードパーティー製のバッテリーの場合、微妙な厚みの違い等によりCredoシリーズのバッテリーボックスにうまく入らないものがあります。バッテリーを無理にバッテリーボックスに押し込む事は避けて下さい。バッテリーの取り出しが出来なくなってしまいます。

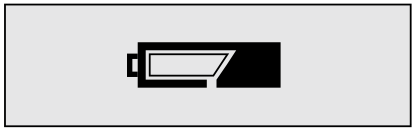




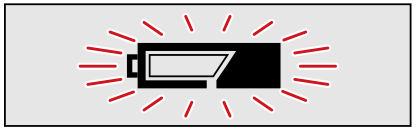




バッテリーに十分な残量が有ります



バッテリー残量が減っています。新しいバッテリーを手元に準備してください。撮影は継続できます。



バッテリー残量がほとんど有りません。残量表示マークが点滅するとシャッターは切れなくなります。ドライブダイヤルをLにして電源を切りバッテリーを交換してください。

電池容量が無くなると、シャッターボタンを押したとき外部液晶表示およびファインダー内液晶表示に"batt"が点滅表示します。

2.2 電池の入れ方

ドライブダイヤルを“L”にして電源をOFFにします。

Mamiya645DF+専用リチウムイオンバッテリーパックもしくは単三アルカリ電池、単三ニッカド電池6本を使用します（使用する電池の種別はカスタムファンクションC-04でセットしてください）。

専用リチウムイオンバッテリーパックのセット

1. バッテリーパックのロックツマミを“OPEN”側へ回します。
2. バッテリーパックを所定の位置にスライドしてセットします。
3. バッテリーパックを押し込むようにしながら、ロックツマミを時計方向に回して確実にロックします。

単三電池のセット

1. バッテリーケースロックツマミを起こして“OPEN”側の矢印方向に回してバッテリーケースを取り外します。
2. バッテリーケースと電池の+と−表示を合わせ正しく電池を入れます。
3. バッテリーケースを押し込むようにしながら、ロックツマミを時計方向に回して確実にロックします。

Note: バッテリーケースをおさめる前に電池の「+」と「−」が正しくセットされているか確認してください。

電池容量の確認

ドライブダイヤルを“S”にしてカメラの電源をONにします。

外部液晶表示のバッテリー残量表示で電池容量を確認します。

電池を交換する時は、種類の違うものや古いものを混ぜたりせず、すべての電池を同じ種類の新しい電池に交換してください。

電池の取り扱いについては電池に記載されている注意書きをご確認下さい。

この取扱説明書はデジタルバック、カメラの電源がオンになっている事を前提に説明をしています。

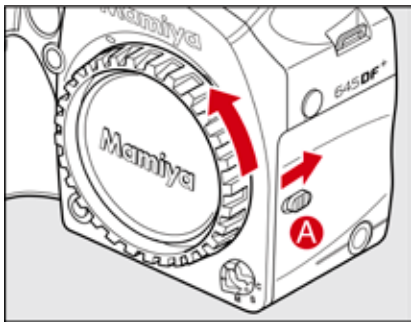
2.3 スリープ·モード

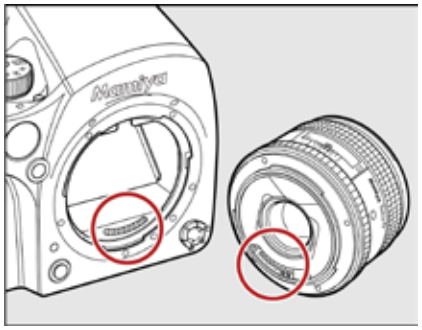
カメラの電源はドライブダイヤルを“S”、“C”、“M.UP.”のいずれかにセットされた時オンになります。カメラの電池の消耗を防ぐため、電源がオンの状態で長時間何のアクションもない場合は自動的にスリープモードに入ります(測光状態保持)。

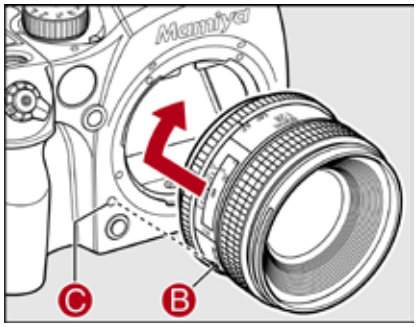
スリープモードではシャッターボタンや機能設定ボタンを操作するとON状態に復元します。

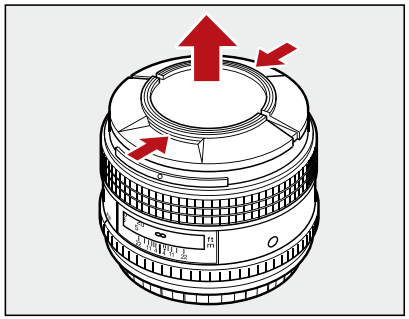
スリープモードでは、外部の液晶表示はシャッター速度·絞り値等が消え、図に示すマークが表示されるだけです(プログラムAEモードで表示)。

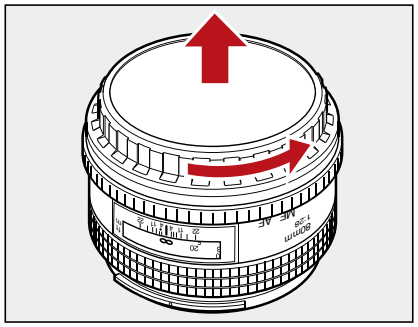
1. カメラに付属の電池はテスト用のため寿命が短い場合があります。
2. 電池接点の汚れや指紋は、乾いたきれいな布でふき取ってください。接触不良や腐食の原因となることがあります。
3. 旅行先により電池の入手困難な地域がありますので、予備の電池を用意することをお勧めします。
4. 電池は低温になると性能が低下します。寒冷地で使用する場合は新しい電池を使用し、カメラを防寒具や衣服で保温しながら使用してください。
5. 電池は直射日光を避けて、低温、低湿度の場所で保管してください。
6. カメラを長期間使用しない場合は、電池を外して保管してください。
7. 電池が切れた場合は、すぐに新しいものと交換してください。そのまま放置すると電池からの液漏れでカメラに不具合が出ることがあります。
8. 電池の取り扱いについては電池に記載されている注意書きをご確認下さい。

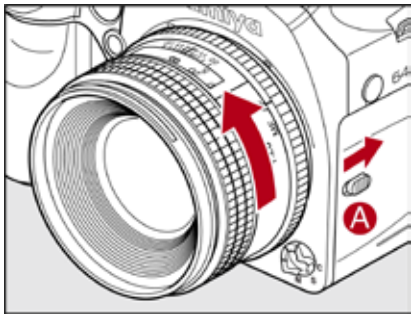












2.4 レンズの着脱

レンズの取り付け

1. フロントボディキャップを外します。レンズリリースボタンAを後方に押し、フロントボディキャップやレンズを反時計回りに回して外します。

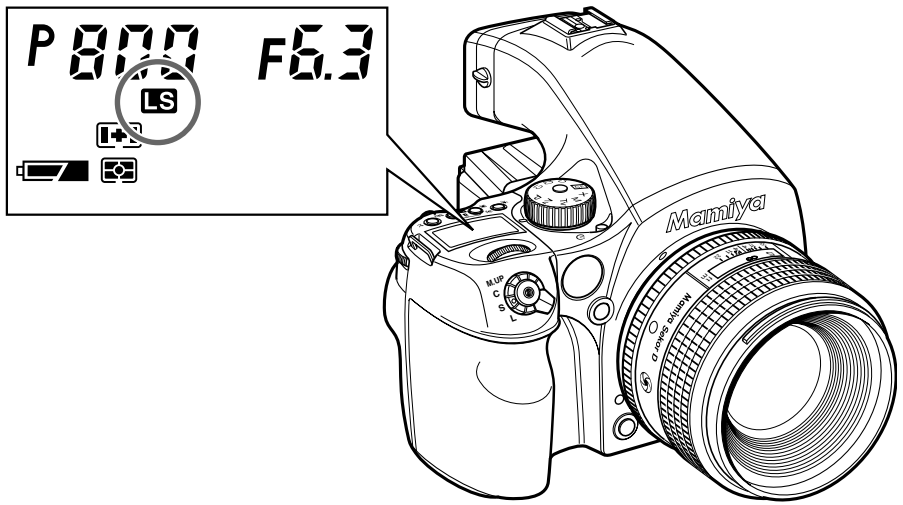
2. レンズ取り付け指標Bとカメラのレンズ取り付け指標Cを合わせます。レンズを取り付け、カチッと音がするまで時計回りに回転させます。

3. レンズキャップを取り外すには、矢印部分をつまんで持ち上げます。(一番左の画像を参照してください)。リアレンズキャップを取り外すには、反時計回りに回します。

レンズの取り外し

レンズ取り外しボタンAを矢印の方向に押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します。

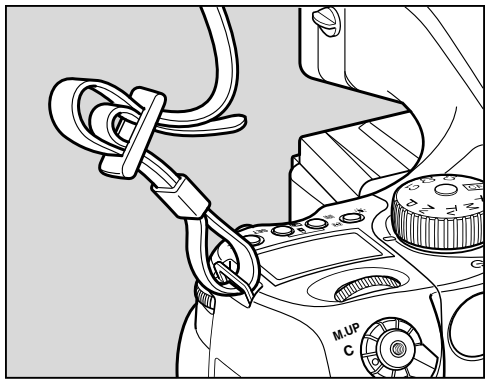
Note:
・取り外したレンズ、ボディには保護のためキャップをしてください。
・電子接点に油やホコリおよび指紋や水分が付着すると作動不良や腐食の原因となりますので、電子接点が汚れた場合、乾いた清潔な布で拭いてください。



シュナイダーLSレンズの着脱

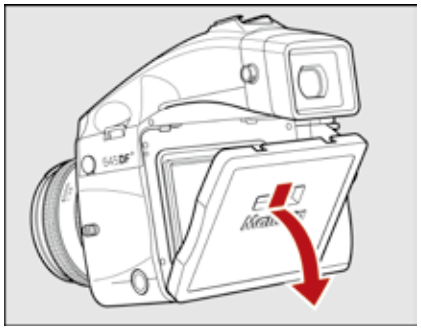
シュナイダーLSレンズにはレンズシャッターが装備されています。シュナイダーLSレンズは、1/800秒、もしくはCredoシリーズバックのフラッシュシン クロとの併用で1/1600秒と速いシャッターでの撮影が可能で、日中シンク ロ撮影時に特に有用です。

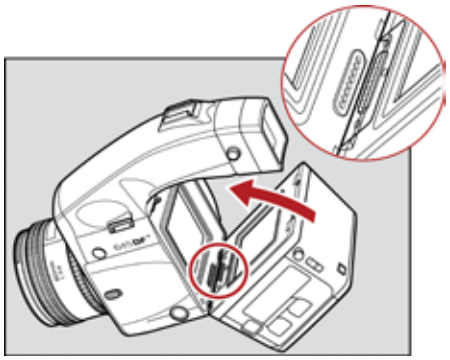
シュナイダーLSレンズが取り付けられていて、レンズシャッターが使われている場合、LSという文字が外部液晶に表示されます。

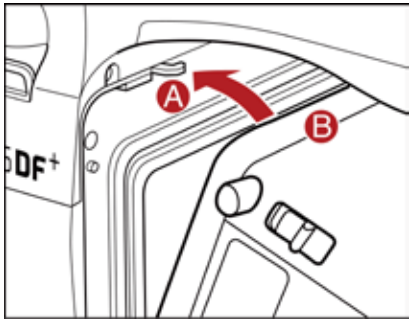


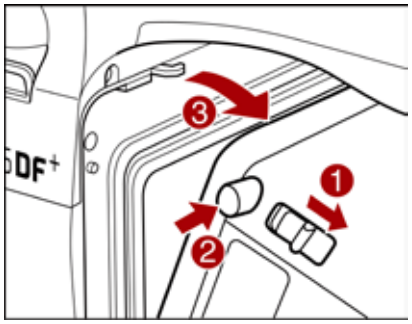
2.5 ストラップの取り付け方

カメラの吊り金具にネックストラップを図のように通して止めてください。安全のため、ストラップを強く引っ張り確実に吊り金具に止まっていることを確認してください。









2.6 Leaf Credoデジタルバックの着脱

Leaf Credoデジタルバックはカメラシステムの一部として設計されており、カメラ本体の機能と一体化されています。

デジタルバックが付いていないとき、Mamiya 645DF+のミラーがアップした状態であり、またフォーカルプレーンシャッターが開いていることを確認してください(シャッター幕保護のため)。

※カメラ本体にデジタルバックを取り付けると、シャッターが閉じ、ミラーが降りてきます。

カメラのボディ後キャップおよびデジタルバックの保護カバーを外します。ボディのデジタルバック取り付け金具(下)にデジタルバック下部の取り付け金具の溝を合わせます。

デジタルバックをボディ側に押しつけて、デジタルバック取り付け金具(上)Aをデジタルバック上部の取り付け金具の溝Bに差し込み固定します。作動音がしてシャッターとミラーがセットされます。

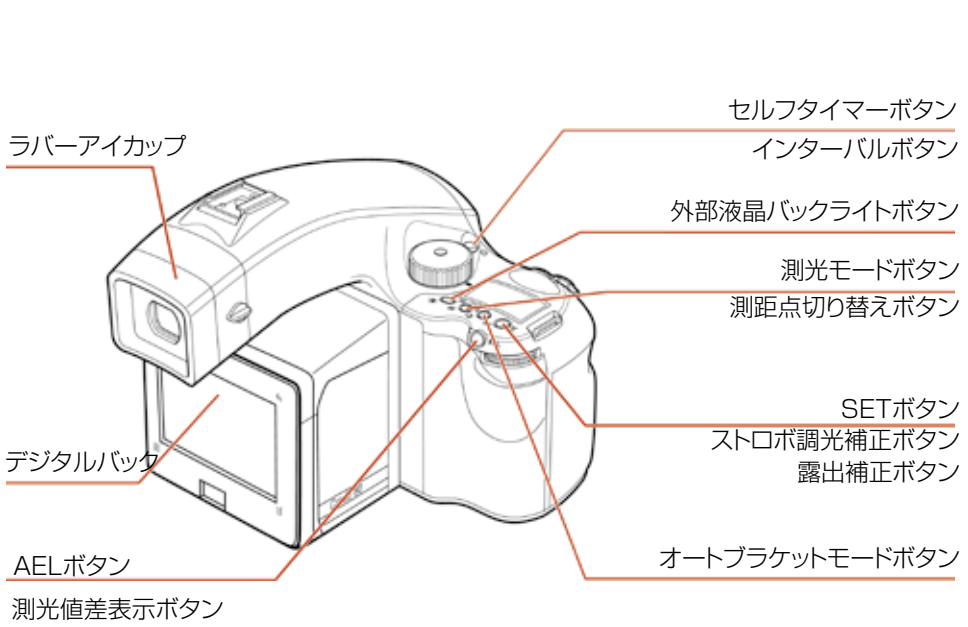
デジタルバック取り外しロック解除レバーを前に移動して、デジタルバック取り外しボタンを固定してください。

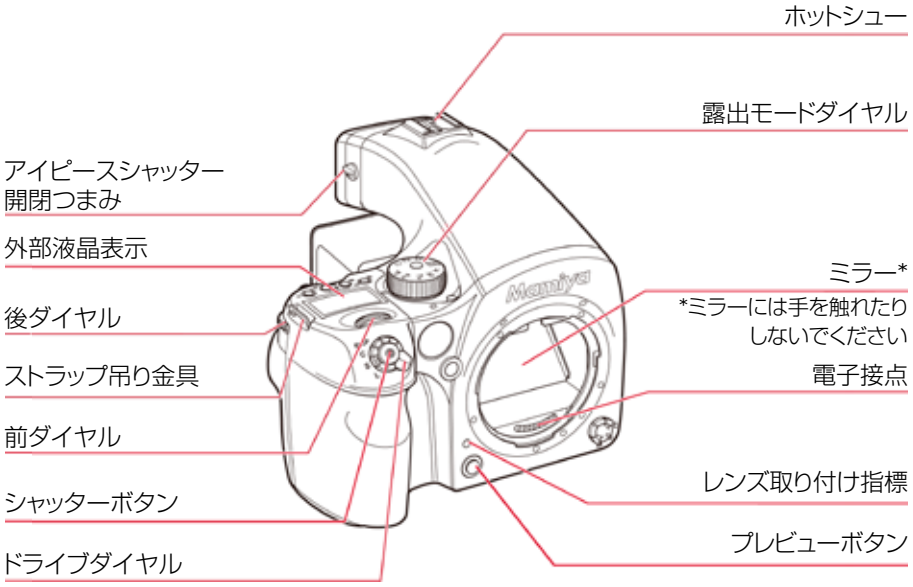
シャッター自動開閉装置
シャッター幕保護のため、カメラからデジタルバックを取り外すと自動的にミラーを上げ、シャッター幕を開いた状態にしてカメラの作動をロックします。カメラにデジタルバックを取り付けるとミラーとシャッターが定位置にセットされ、カメラの作動ロックを解除します。

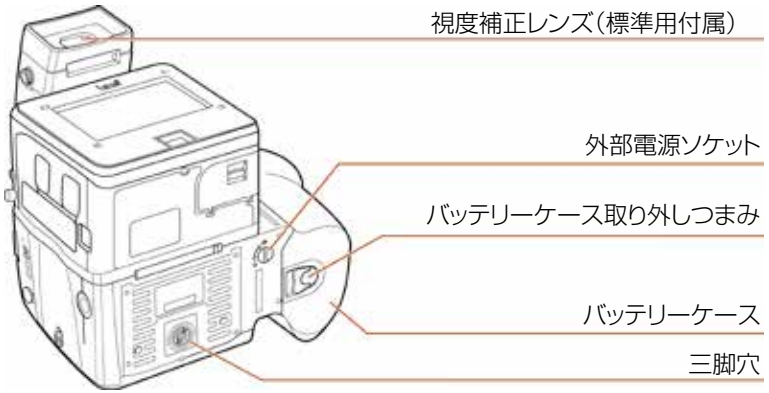
取り外し方

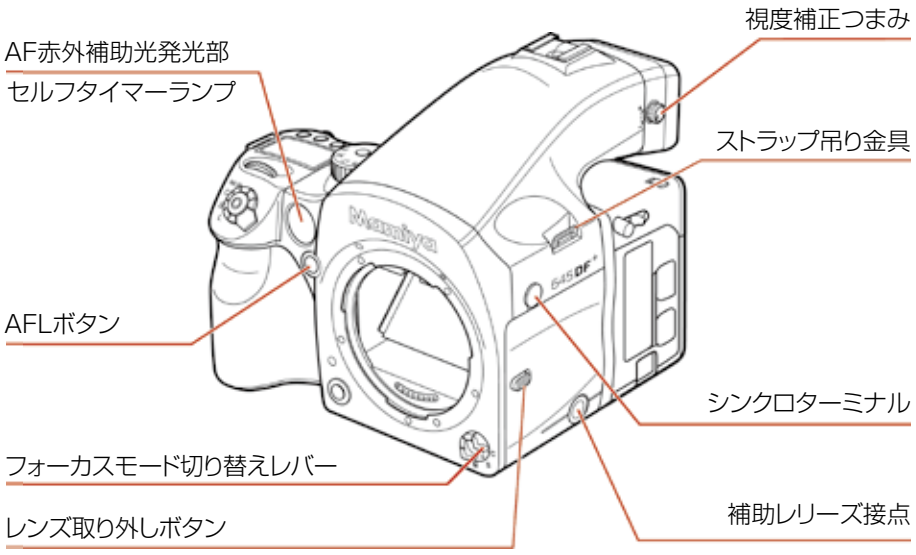
デジタルバックの取り外しロック解除レバー1を矢印の方にスライドさせ、デジタルバック取り外しボタン2を押し込みながらデジタルバック上部を手前に引くと外れます。
デジタルバックをカメラから外した場合は、センサー保護のために常に保護カバーを付けておいてください。

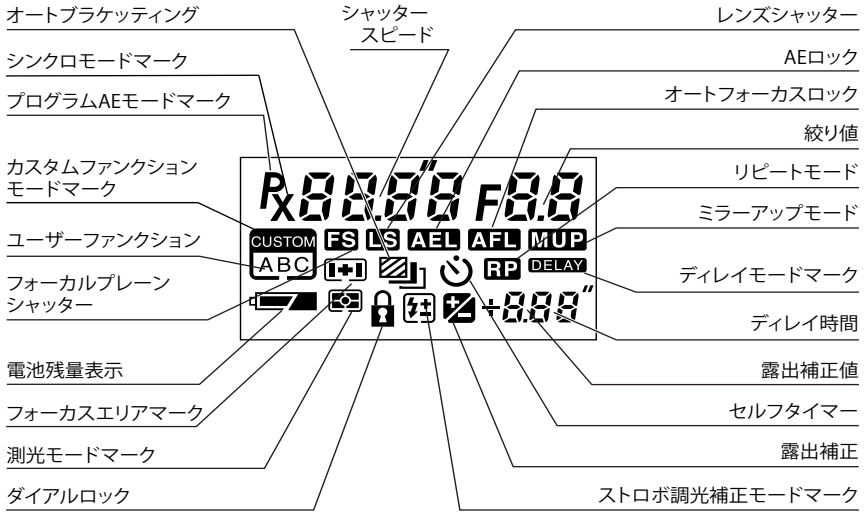
2.7 各部の名称


ラバーアイカップ
セルフタイマーボタン
インターバルボタン
外部液晶バックライトボタン
測光モードボタン
測距点切り替えボタン
SETボタン
ストロボ調光補正ボタン
露出補正ボタン
デジタルバック
AELボタン
オートブラケットモードボタン
測光値差表示ボタン

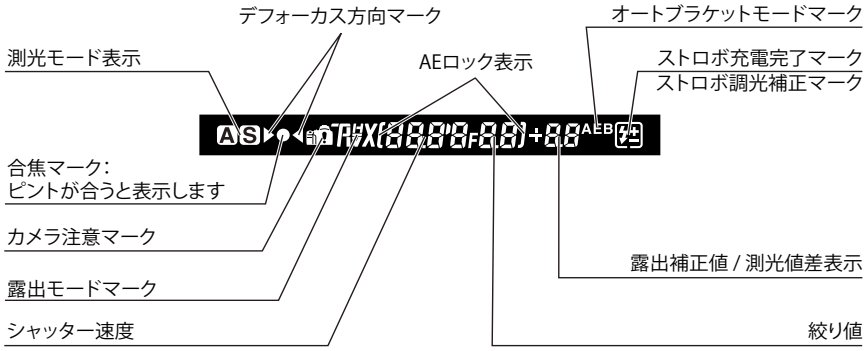

ホットシュー
露出モードダイヤル
アイピースシャッター
開閉つまみ
外部液晶表示
後ダイヤル
ストラップ吊り金具
前ダイヤル
シャッターボタン
ドライブダイヤル
ミラー*
*ミラーには手を触れたり
しないでください
電子接点
レンズ取り付け指標
プレビューボタン


視度補正レンズ(標準用付属)
外部電源ソケット
バッテリーケース取り外しつまみ
バッテリーケース
三脚穴


視度補正つまみ
AF赤外補助光発光部
セルフタイマーランプ
ストラップ吊り金具
AFLボタン
シンクロターミナル
フォーカスモード切り替えレバー
補助レリーズ接点
レンズ取り外しボタン



※この図は説明用です。実際の表示とはことなります。



※この図は説明用です。実際の表示とは異なります。

2.8 ディスプレイ

Mamiya 645DF+のディスプレイ

Mamiya 645DF+の外部液晶ディスプレイ(グリップ上部)は、シャッター速度·絞り値·測光モード·バッテリー残量等の重要な情報を表示します。

ファインダー内液晶表示は、撮影時に露出とカメラに関した情報を表示します。各種マークはファインダー下部の表示スペースに、必要な情報のみ表示されます。合焦マークとデフォーカスマークはマニュアルフォーカス時にも動作しフ ォーカスエイド機能として使用することが可能です。

Leaf Credoタッチスクリーン

Leaf Credoデジタルバックの液晶ディスプレイは、各種メニューと機能によってボタンが効率よく割り当てられる、多機能なタッチスクリーンとなっています。

また、各種操作のナビゲーションだけではなく、撮影画像の確認用ディスプレイを兼ねています。

2.9 外部液晶表示(カメラ)の表示例

液晶表示について

ディスプレイ上の表示はスペースや文字数の関係で一部省略されています。

メインディスプレイでの表示例

On	ON
OF	OFF
Err	Error
+	+ (Plus)
u	Under
o	Over
n	Normal
Loc	Lock
SELF	Self Timer
bulb	bulb
buSY	Busy
db	Digital Back
LS	Lens Shutter
CAP	Capture
rP	Repeat
TIME	Time
bAtt	battery

カスタムファンクションモードでの表示例

SEL	Selection
StEP	Step
Iris	Iris
HOLd	Hold
batt	battery
Sno	Shot No.
dF	Dial function
d_AC	Dial action
d_di	Dial direction
AEFL	AE, AF lock
HALF	Half press
AEL	AE lock
AFL	AF lock
OnEP	One-push exposure
AF_L	AF assist light
FLSY	Flash sync
bu	Buzzer
Sh_P	Shutter in Program
Sh	Shutter in Manual
AF_2	AF second mode

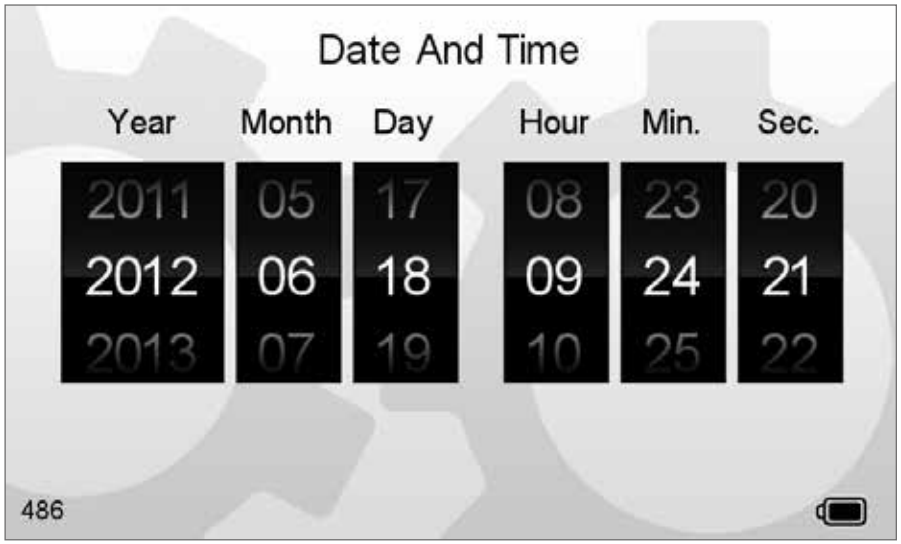
2.10 Credoデジタルバックのボタン

Leaf Credoには4つのソフトウェアボタンがあります。ソフトウェアボタンは選択したメニューに合わせて機能が変更されます。

2.11 LEDランプ

Leaf Credoには2つのLEDランプを持っています。ひとつは電源ボタンの横にある電源インジケーター、もうひとつはCFカードスロットのドアの中に有ります。

CFカードスロット内の赤のLEDはLeaf Credoがデータを CFカードに書き込んでいるときに点灯します。この赤色LEDが点灯している間は、カードスロットからCFカードを抜かないでください。赤色LED が点灯している間にCFカードを取り外すと、カードのフォーマットを損傷する可能性あり、画像やデータが失われたり、壊れる可能性があります。



2.12 日時の設定

日付と時刻のパラメータは、Credoデジタルバックのメニューで設定します。

Credoデジタルバックを長時間電源がない状態で置いていた場合など、日付と時刻を設定するように求められることがあります。

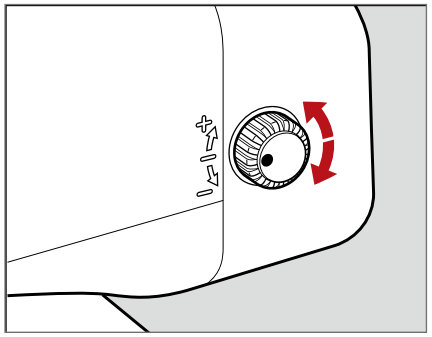
適切な日付と時刻を入力するには、画面をタップして数字をスクロールします。

日付と時刻は、Credoデジタルバックで撮影したすべてのファイルのEXIF情報に適用されます。

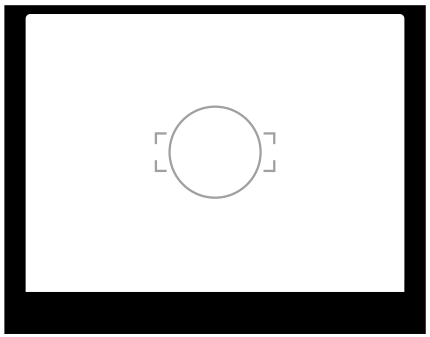
2.13 視度調整

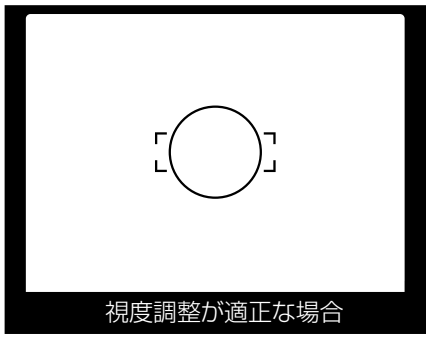
ファインダーをのぞきながらフォーカスフレーム(長方形と円)がくっきりと見えるかどうかを確認してください。もし合っていない場合は、視度調整ダイヤルを回して調整してください(近視であれば「-」、遠視であれば「+」方向)。ダイヤルだけで十分でない場合、オプションの視度補正レンズが必要になる場合があります。左の表でどの視度調整レンズが必要か確認してください。

この調整を行う場合は、白い壁のような明るい、無地の物体にカメラを向けて行って下さい。



視度調整レンズ	適応範囲
DE401 （標準･付属品）	-2.5 to +2.5
DE402 （近視の方）	-5.0 to -2.0
DE403 （遠視の方）	0 to +3.0





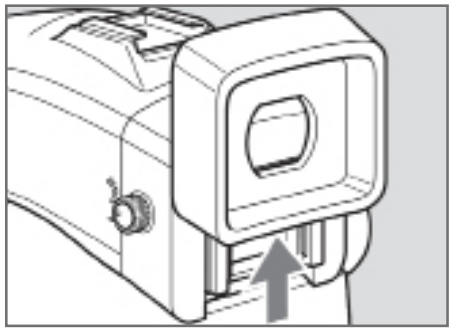
視度調整が適正な場合

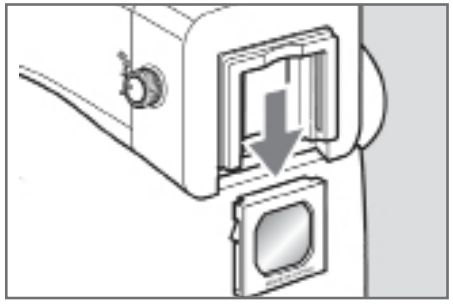
Notice:

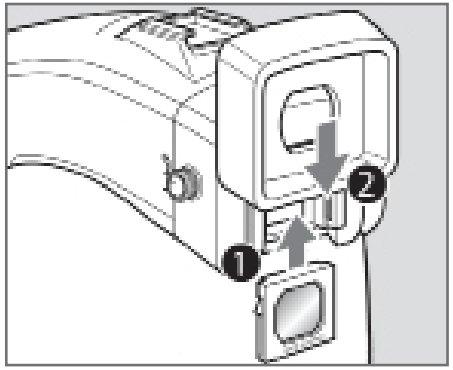
レンズ表面に汚れやほこりがある場合は、ブロアーでそれを除去するか、レンズブラシで軽く一掃してください。

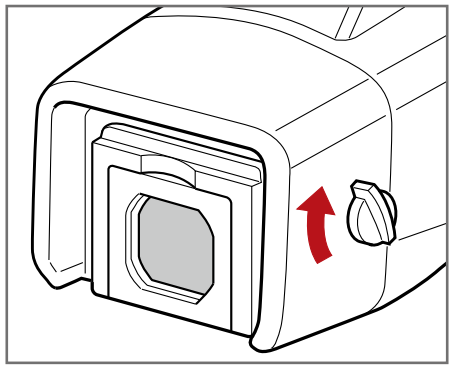
レンズ面に指紋や汚れがある場合は、きれいで柔らかいガーゼでそれらを拭き取ってください。

有機溶剤を使用した場合、視度補正レンズ枠が変形したり変色する可能性が有ります









視度補正レンズの交換方法

1. アイカップを取り外します。
　ファインダー接眼部下にあるリリースピンを押してアイカップを上へスライドさせると取り外すことができます。

2. ファインダー接眼部から視度補正レンズ（標準ではDE401が入っています）を下側に引くと取り外せます。

3. 交換する視度補正レンズをファインダー接眼部にそって押し上げ、アイカップを取り付けます。

2.14 アイピースシャッター

カメラの後に明るい光源があるときやファインダーをのぞかずにシャッターリリースをするときに使用します（ファインダーからの入光による露出の誤差を防止します）。
アイピースシャッター開閉つまみを矢印方向に回して使用します。

Leaf
Credo 80

3.0　ベーシックファンクション

ISO感度とホワイトバランス

Leaf Credoシリーズのホーム画面から、直接タップすることでISO感度やホワイトバランス設定にすばやくアクセスすることができます。接続撮影時にはCapture OneからISO感度やホワイトバランスを設定することもできます。

3.1 ISO感度設定

Leaf CredoシリーズのデフォルトISO感度は、全てのモデルにおいて50（Credo50はISO100）となっています。ISO感度設定が高ければ高いほど、画像のノイズは多くなりますが、Capture Oneとの組み合わせで、強力なノイズリダクションを提供しています。
Leaf Credoシリーズのホームスクリーンから ISOアイコンをタップしてISO設定画面に入ってください。目的のISOをタップしてグリーンの枠がつけばISOが設定されます。ホームスクリーンに戻ってください。

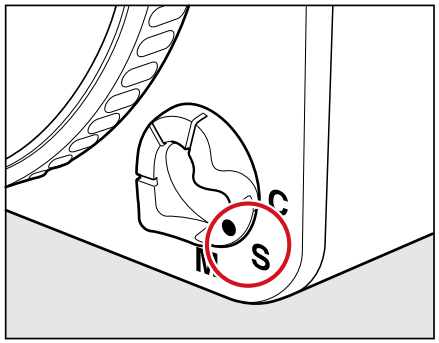
ISO感度についての詳細は56ページを参照してください。

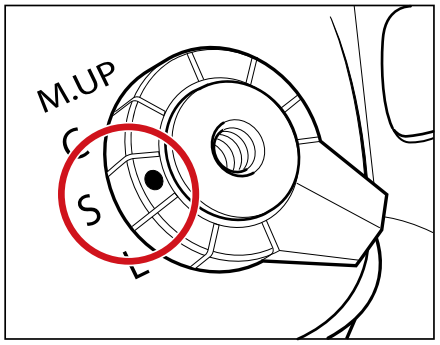
3.2 ホワイトバランス設定

デフォルトの設定はAutoです。撮影した画像情報に基づいて最適なホワイトバランスを自動的に設定するモードで、ほとんどすべての撮影シーンに適しています。

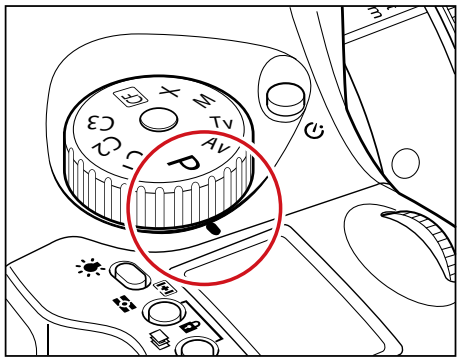
ホームスクリーンからWBアイコンをタップして、設定したいWBを選択してください。WB設定画面は2画面ありますので左右にスクロールして必要なWBを探し、タップしてグリーンの枠をつけたのちホームスクリーンに戻ってください。

ホワイトバランスについての詳細は57ページを参照してください。





フォーカスモード		ピントの合わせ方
S	シングル フォーカスモード	シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行い、合焦マークが点灯するとピントが固定され、シャッターを切ることができます。
C	コンティニュアス フォーカスモード	シャッターボタンを半押ししている間、連続してピント合わせを行います。合焦マークの点灯·消灯にかかわらずシャッターを切ることができます。
M	マニュアル フォーカスモード	手動でピント合わせを行います。



3.3 全自動での撮影

1. フォーカスモード切り替えレバーを“S”(シングルフォーカスモード)にします。
フォーカスモード切り替えレバーの機能は左の表でご確認下さい。

2. ドライブダイヤルを“S”(1コマ撮影モード)にセットします。
撮影モードは2種類有り“S”(1コマ撮影モード)と“C”(連続撮影モード)が選択可能です。また、“L”の位置にすると電源OFFとなります。

3. 露出モード設定ダイヤルを“P”(プログラムAE)にします。
露出モードには、“P”(プログラムAE)、“Av”(絞り優先AE)、“Tv”(シャッター優先AE)、“M”(マニュアル)、の4種類があります。

また、“X”はシンクロモード、“CF”“C1…3”はカスタムファンクションモードです。

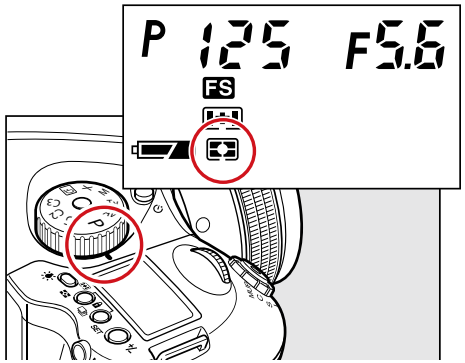
Note: “Av”(絞り優先モード)では絞り値のみ、“Tv”(シャッター優先モード)ではシャッター速度のみが変更可能です

P: プログラムAE - 絞り値とシャッタースピードが、周囲光の状態に応じて最適な露出に自動的に決定されます。この自動モードは、フレーミングや被写体を捉えることに集中させることができるため、一般的な写真撮影に最適です。

Av: 絞り優先AE - 絞り数値を設定し、カメラが正しいシャッタースピードを選択します。被写界深度をコントロールする場合は、このモードを使用します。

Tv: シャッター優先AE - シャッター速度を設定して、カメラが正しい絞り値を選択します。ストップモーションなどでこのモードを使用します。

M: マニュアルモード - 絞り値とシャッター速度の特別な組み合わせを使用したい場合は、このモードに設定します。



4. 測光モードを平均/部分自動切り替え測光にします。

測光モードは3種類あります。

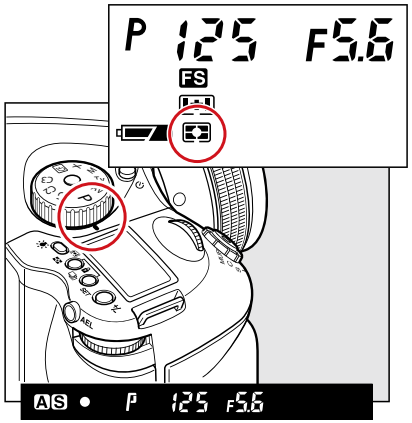
・フレーム全体の平均を見ながら中央に重点を置いて測定する 中央部重点平均測光方式

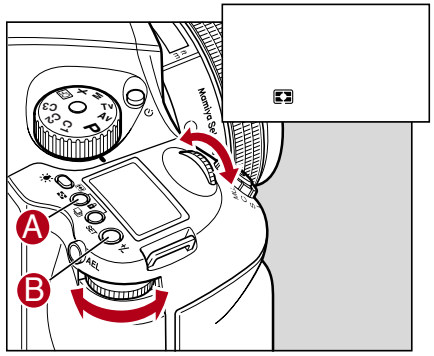
・フレームの中心を測光する部分測光方式

・自動的に写真のコントラストに応じて、これら2つのモードを 切り替える平均/部分自動切り替え測光方式になります。

Notice:

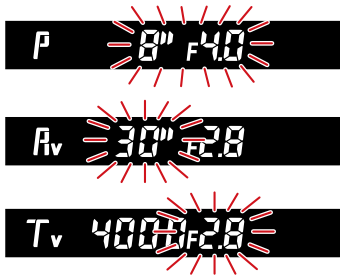
偏光フィルタを用いる場合は、円偏光フィルター(C-PL)を使用してください。通常の偏光フィルター(PL)では適正露出を得ることはできません。





平均/部分 自動切り替え測光	平均/部分を自動切り替えで測光します。 被写体の状況によって中央部重点平均測光と部分測光を自動的に選択し、適正な露出を測光します。 部分測光の範囲の明るさが、画面全体の明るさに比べて暗くなると自動的に部分測光に切り替わります。 部分測光値と中央重点平均測光の差があまりない場合は、その中間値で適正な露出値が得られます。
中央部重点測光	画面中央部を重点的に画面全体の明るさを平均的に測光します。
中央部分（スポット）測光	画面中央部の7.6%の範囲を測光し、露出を決定します。画面中央部のサークルが目安になります。コントラストの大きい被写体や画面の一部を測光するときに適しています。

ファインダー内表示



3.4 測光モードについて

1. 測光モードボタンAを押すと外部液晶表示に測光モードマークが表示されます。前ダイヤルまたは後ダイヤルを回すと3つの測光モードマークが順番に表示されますので、選択したい測光モードを表示します。

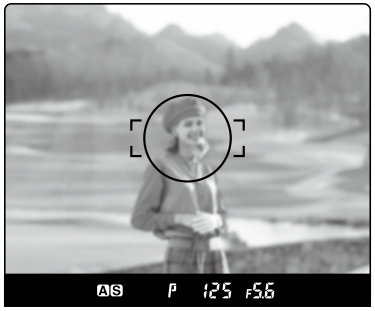
2. SETボタンBまたは測光モードボタンAを押して設定します。

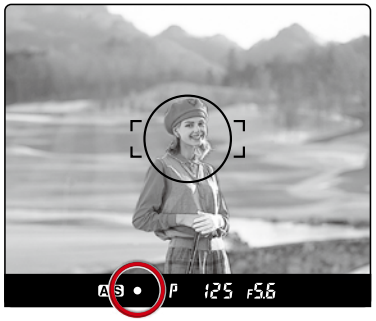
露出警告について

明るすぎる、または暗すぎる被写体を撮影するとき、設定した露出値が不適切な場合、外部液晶表示またはファインダー内液晶表示の表示が点滅して警告します。なお、この場合、正しい露出は得られません。

測光範囲外警告

- **プログラムAE** (P)
  シャッター速度･絞り値が点滅
- **絞り優先AE** (Av)
  シャッター速度が点滅
- **シャッター優先AE**(Tv)
  絞り値が点滅
- **マニュアルモード**(M)
  測光値の差を表示





3.5 フォーカスモード

オートフォーカスを利用する場合は、カメラボディとレンズの両方がそれぞれのオートフォーカスモードに設定されなければなりません。カメラボディかレンズのどちらかがマニュアルフォーカスに設定されている場合、オートフォーカスは機能しません。

オートフォーカス(AF)をアクティブにするには、まずレンズのフォーカシングセレクタリングをAFに設定します。次に、カメラ前面のフォーカスモード セレクターレバーをS(シングル)またはC(連写)のどちらかのオートフォーカスに設定します。レンズのフォーカシングセレクタリングは、カメラの持ち方を換えることなく迅速にオートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えを行うのに適しています。

シャッターボタンは2段階になっており、軽く押し込むとある位置で停止します。このマニュアルでは、この状態を「半押し」と呼びます。シャッターボタンを半押しすると、カメラ各機能がアクティブになりオートフォーカスやAE機構が動作をはじめます。シャッターボタンをさらに押し込むと、シャッターが切れます。この状態を「全押し」と呼んでいます。

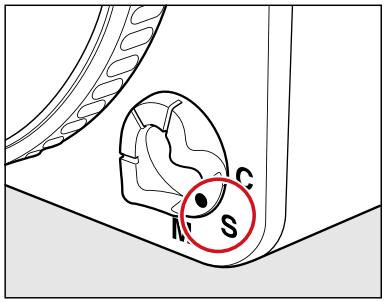
1. 被写体がフォーカスフレーム内に収まるようにカメラを向けます。
2. AFモードの時、シャッターボタンを半押しすると自動的にピントが合います。デフォルトでは、半押しのままでシャッターボタンを保つことにより、カメラを移動してもフォーカスの位置が変わらないため構図を再構成することができます。
3. フォーカスマークが点灯しているあいだに、さらにシャッターボタンを押し込んでシャッターを切って下さい。(フォーカスマークはファインダ表示の下部にある点灯するドット(●)です。図の青い円に囲まれたドットを参照してください)

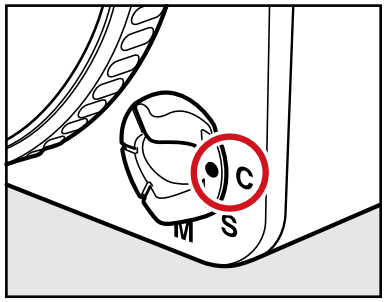
デフォーカス・マーク ▶ ◀

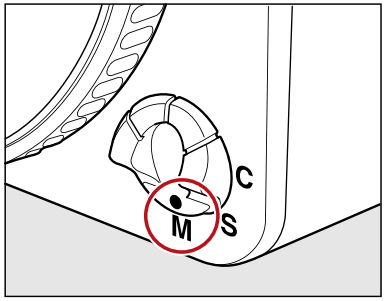
被写体に合焦していない場合、シングルフォーカスモードを選んでいるとシャッターを切ることができません。再度シャッターボタンを押して、ピントを調整するか、もしくはカメラを移動してフォーカスフレームの位置をずらしてください。また、フォーカスモードセレクターリングのないレンズを使用する場合、カメラのフォーカスモード切り替えレバーがオートフォーカスに設定されていれば自動的にAFに設定されます。モーターへの内部損傷を与える可能性があるため、オートフォーカス時にはフォーカスリングに手を触れないでください。

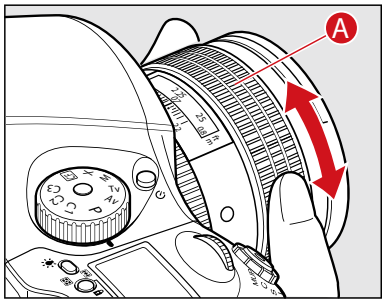
フォーカスモード切り替え付きのレンズについて

レンズ側でオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えるとき、カメラボディのフォーカスモード切り替えレバーを“S”もしくは“C”の位置でお使い下さい。









シングルフォーカスモード(S)

ファインダー内液晶表示パネルに合焦マーク ● が点灯しているとき、シャッターが切れるフォーカス優先のモードで,静止している被写体に適しています。合焦マーク ● が点灯するとピントは固定されます。

·ピントが合わないときは(合焦マーク ● が点灯しないとき)はシャッターが切れません。

·構図を変えて次の撮影をする時は、シャッターボタンから指を離し、もう一度シャッターボタンを押してください。

コンティニュアスフォーカスモード(C)

ファインダー内液晶表示パネルの合焦マーク ● が点灯/消灯にかかわらず、シャッターが切れるレリーズ優先のモードで、シャッターボタンを半押ししている間はピントを合わせ続けます。動きのある被写体を撮影するときに適しています。

·合焦マーク ● が点灯してもピントは固定されません。
·合焦マーク ● が点灯しなくても、シャッターは切れます。

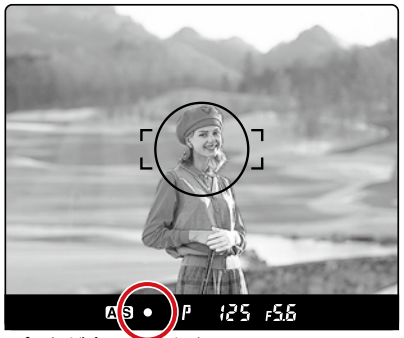
マニュアルフォーカスモード(M)

ピントを手動で合わせたい場合は次の2つの方法があります。

1. カメラボディで設定(すべてのレンズ):
フォーカスモード切り替えレバーを"M(" マニュアルフォーカスモード)に切り替えます.

2. レンズ側で設定(マニュアルフォーカス切替がレンズで可能なもの):
望遠レンズやズームレンズでヘリコイドの前後スライドでAF/MFの切替が可能なタイプについては、手前にかちっと音がするまでスライドさせて"AF"マークを隠して下さい。マニュアルでヘリコイドを動かすことができるようになります。

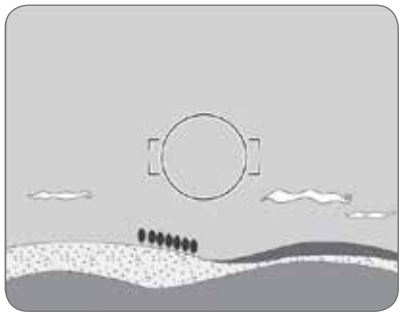
AFリングのついたPHASE ONE·Mamiya·Schneider Kreutznachレンズについては、AFリングをまわして"MF"の位置にセットして下さい。

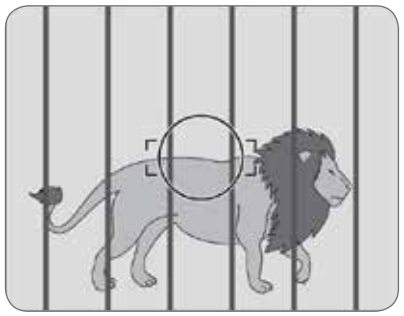


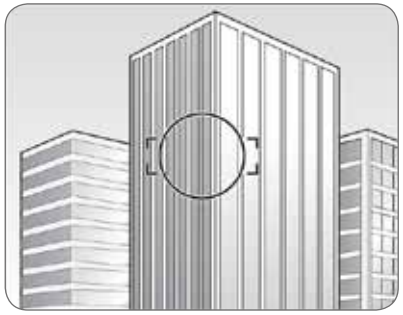
ピントが合っています

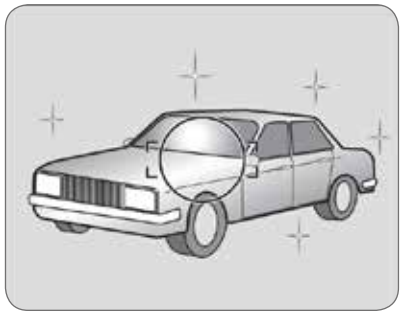
フォーカスリングを時計方向に回します

フォーカスリングを時計反対方向に回します









合焦マークによるピントの合わせ方

シャッターボタンを半押しにして、レンズの距離リングを回し、被写体にピントを合わせます。ピントが合うとファインダー内液晶表示の合焦マーク ● が点灯します。

ファインダー内液晶表示にデフォーカス方向マーク ▶ が点灯しているときは、ピントが被写体より後方に合っています。デフォーカス方向マーク ◀ が点灯しているときは、ピントが被写体よりも手前に合っています。

・マニュアルフォーカスモードの撮影およびM645レンズを装着したときに使用します。

・M645レンズを使用して合焦マークによるピント合わせを行うときは、必ず、絞りを開放にして下さい。レンズの明るさがF5.6およびそれより明るいレンズのときに使用できます。

オートフォーカスが上手く機能しないとき

オートフォーカス機能は、被写体のコントラストを必要とします。そのため以下のような特殊な被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。このような場合には、マニュアルフォーカスモードに切り替えるか、撮影したい対象物と近い距離にあるもっとコントラストのある被写体でピントを合わせ、カメラのフォーカスロック機能を使用してピントを固定し、撮影してください。

・低コントラストの被写体(青い空、白い壁など)

・フォーカス枠内で異なる距離に重なる2つ以上の被写体(ケージ内の動物など)がある場合

・連続的な繰り返しパターンを持った被写体(建物の外壁やブラインドなど)

・極端に反射をする被写体(磨き上げられた自動車、水面など)

・フォーカスフレームよりもはるかに小さい被写体

3.7 フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームに入っていないときは、中央の背景にピントが有ってしまいます。このときはフォーカスロック機構を使用してピントを固定して撮影します。

シャッターボタンを半押しにします。
フォーカスフレームの中にピントを合わせたい被写体を入れて、シャッターボタンを半押しにします。

ピントを固定します。
ファインダー内液晶表示の合焦マーク ● が点灯したら、ボディ前面のAFLボタンを押してピントを固定します。

構図を変えます。
AFLボタンを押したままで撮影したい構図にカメラを構え直して、シャッターを切ります。撮影後もAFLボタンを押し続けていれば次の撮影にもピント位置は反映されます。

フォーカスモードがS(シングルフォーカスモード)に設定され、フォーカスマーク●が点灯しているときは、シャッターボタンを半押したままであればAFLボタンを押さなくてもピントが固定されます。

AF赤外補助光

被写体が暗い、または非常にローキーであるとき、シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能を補助するために、カメラ前部にある赤いランプが光ることがあります。AFアシスト赤外線ライトは、フォーカスモードをS(シングルフォーカスモード)に設定されている場合のみ使用出来ます。

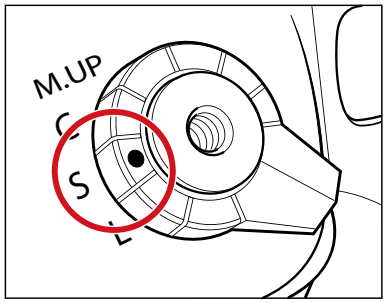
Notice:

AF赤外線補助光の使用可能範囲は限られており、遠くの被写体には到達しません。範囲：9m / 29.5フィート (80mmF2.8のレンズを使用した場合)

レンズフードまたは蛇腹レンズフード等を使用すると、アシスト光を妨げる可能性があります。

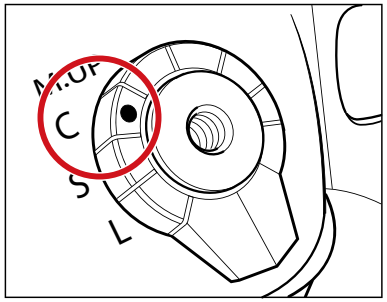
AF赤外線補助光を無効に設定することもできます。

3.8 ドライブモードについて



1コマ撮影(S)

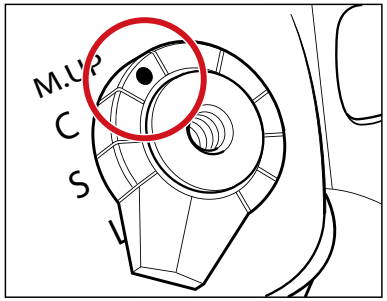
シャッターボタンを押すごとに、1コマずつ撮影されます。
ドライブダイヤルを回して“S”に合わせます



連続撮影(C)

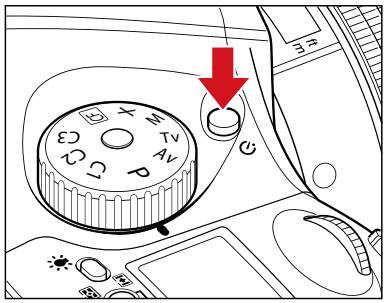
シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

ドライブダイヤルを回して“C”に合わせます。カメラにセットされたデジタルバックのバッファ速度に応じた早さで連続して撮影されます。



ミラーアップ撮影

シャッターを押すとミラーアップになり、シャッターボタンが再度押されるとシャッターが作動して写真が撮影されます。



セルフタイマー撮影(⏲)

このモードではシャッターが押された後、10秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマーで撮影するには ⏲ ボタンを押し、次にフロントダイヤルを回してセルフタイマーをonにセットします。
シャッターボタンを押すとセルフタイマーランプが7秒間点滅し残り3秒に なると早い点滅に変わり、シャッターが切れます。

3.9 露出モードについて

プログラムAE(P)

周囲の光の状態に応じて、最適な絞り値とシャッタースピードが自動的に決定されます。このモードは、フレーミングや被写体を捉えることに集中させることができるため、一般的な写真撮影に最適です。

露出モードダイヤルを回して、“P”(プログラムAE)モードを選択します。

プログラムシフト(PH/PL)

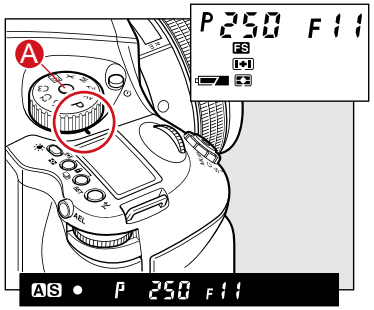
シャッタースピードと絞り値は、“P”(プログラムAE)モードが選択されている間、前もしくは後ダイヤルを回すことによって変更することができます。手ぶれなどを避けるため、または絞り値を開くためには、PH側に変更します。スローシャッタが必要な場合や被写界深度を得るのためにはPL側に変更します。この機能は、前後ダイヤルを回す事によってスピーディーに使用可能です。

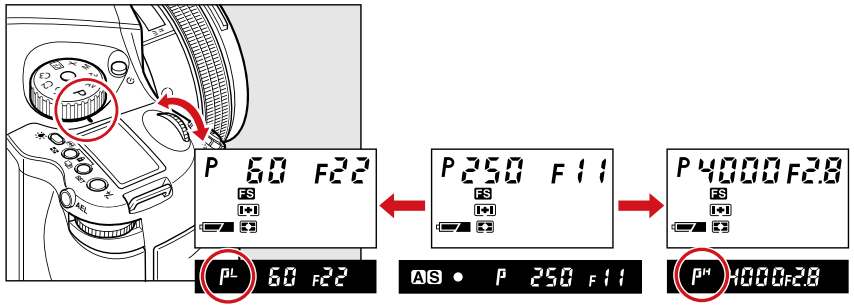
Notice:

適正露出が得られない場合は、シャッター速度と絞り値が点滅します。このような場合、写真を撮影することはできますが、明るすぎたり暗すぎたりすることがあります。異なるプログラムモードを選択してください。

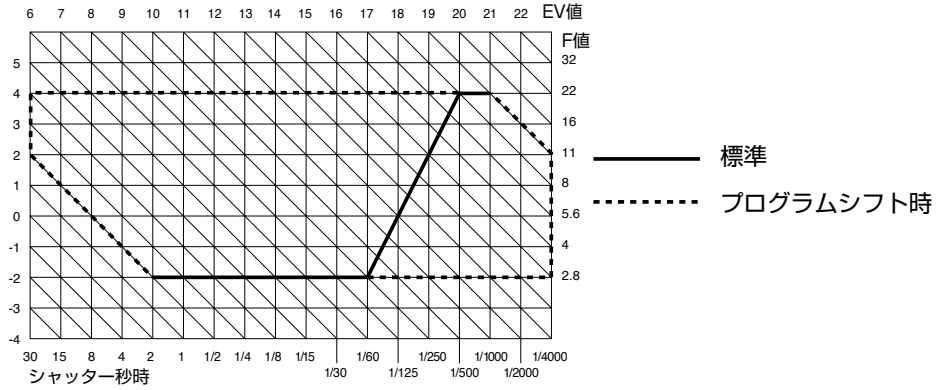
プログラムラインがシフトされると、適正露出を維持するために絞り値とシャッタースピードが共に変化します。

絞り値とシャッタースピードの増減は1/3もしくは1/2段のいずれかに設定することができます。





Mamiya 645DF+ プログラム線図 (ISO100/AF80mm F2.8 D)



Notice:

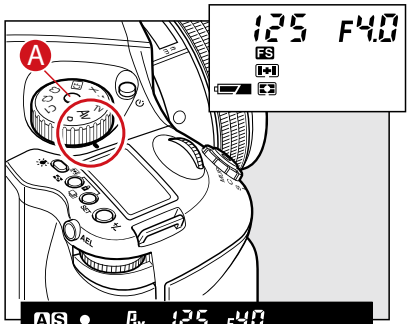
被写体が適正露出に対し暗すぎたり明るすぎ る場合、シャッタースピード値が点滅します。正しい露出で撮影するには、シャッタースピード値が点滅から点灯になるまで絞り値を調整してください。

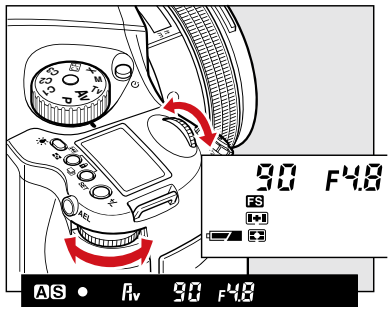
露出が後ダイヤルで調整されると、絞り値は前ダイヤルでのみ設定することができます。

絞り値の増減は1/3もしくは1/2段から設定できます。

数値を変えるダイヤルの回転方向は変更することができます。(C-08、102ページ)

設定した絞り値レベルをロックすることができます。





絞り優先AE(Av)

希望の絞り数値を設定すると、カメラがそれに応じて最適なシャッタースピードを選択します。ポートレートや風景写真など被写界深度の制御をするために、Avモードを使用します。

1. “Av”(絞り優先AE)に露出モードダイヤルを回します。
2. 前もしくは後ダイヤルを回して絞り数値を設定します。

Notice:

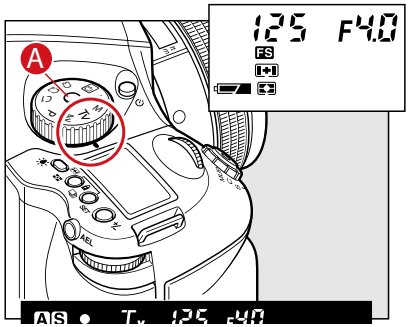
被写体が適正露出に対し暗すぎたり明るすぎる場合、絞り値が点滅します。正しい露出で撮影するには、絞り値が点滅から点灯になるまでシャッタースピード値を調整してください。

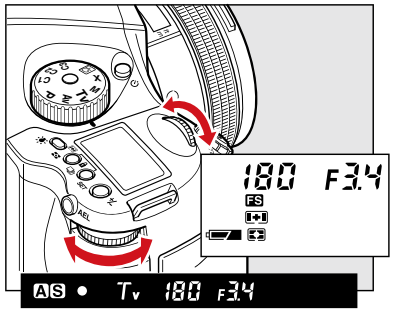
露出が後ダイヤルで調整されると、シャッタースピード値は前ダイヤルでのみ設定することができます。

シャッタースピードの増減は1/3もしくは1/2段から設定できます。

数値を変えるダイヤルの回転方向は変更することができます。(C-08、102ページ)

設定したシャッタースピード値レベルをロックすることができます。





シャッター優先AE(Tv)

希望のシャッタースピードを設定すると、カメラがそれに応じて最適な絞り値を選択します。スポーツの撮影など早いシャッター速度で動きを止めるなど,動きのある被写体に対してシャッター速度の効果を生かした撮影が可能となります。

1. 露出モードダイヤルを“Tv”(シャッター優先AE)に設定します。
2. 前もしくは後ダイヤルを回してシャッタースピードを設定します。

Notice:

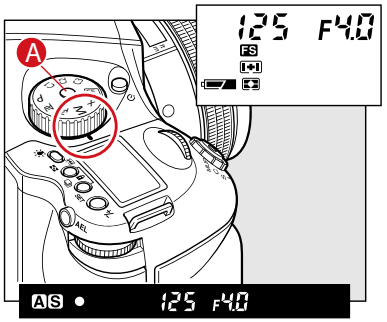
露出がマニュアルモードに設定されているときは、計量値と測光値との差がファインダー液晶画面に表示されます。B(バルブ)モードでは、計量値との違いは表示されません。

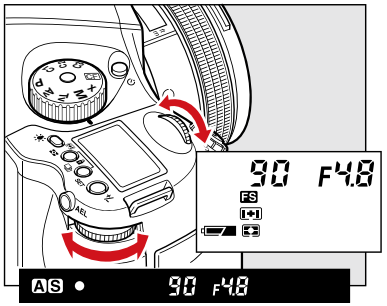
絞り値とシャッタースピード値の増加分は1/3もしくは1/2段のいずれかに設定することができます。

前もしくは後ダイヤルの割り当ては、入れ替えることができます。

数値を変えるダイヤルの回転方向は変更することができます。(C-08、102ページ)

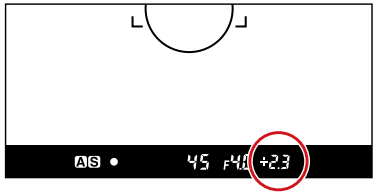
設定したシャッタースピード値レベルをロックすることができます。





Notice:

設定値が測光値と一致すると、インジケーターには「**0.0**」と表示されます。



マニュアルモード (M)

このモードは、撮影者の意図により、絞り値とシャッター速度を任意に組み合わせた撮影や単体の露出計で測った値を元に撮影するときに使用します。シャッター速度はblub(バルブ)、time(タイム)から60分～1/4000秒まで、絞り値は開放値から最小まで設定することができます。

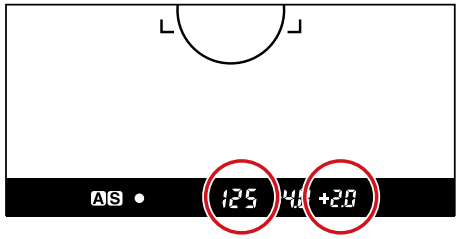
1. 露出モード設定ダイヤル"M"(マニュアル)に設定します。

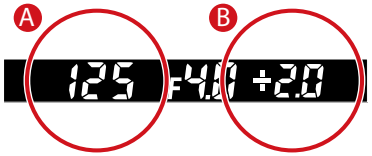
2. 絞り値を設定するには、後ダイヤルを回します。

3. シャッター速度を設定するには、前ダイヤルを回します。

4. シャッターを半押しすると、ファインダー内液晶表示に設定値と測光値との差が表示されます。表示範囲は±6EVで1/3ステップで表示されます。

設定値と計量値との差が±6EVより大きく、設定値が測光値よりアンダー の場合、ファインダー内液晶表示は"-u-"と示されます。逆に設定値が測光値よりオーバーの場合、ファインダー液晶画面のインジケーターは"-o-"と表示されます。



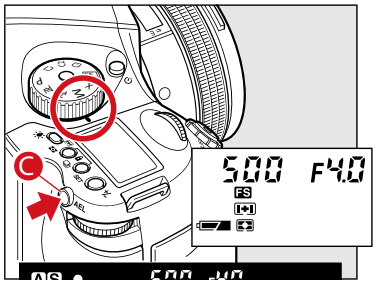


ワンプッシュシフト機構

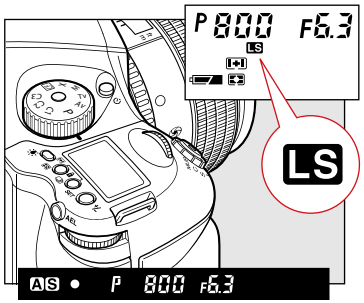
カスタム設定(C-13)で“1”(シャッター速度をシフト)を選択している場合、マニュアルモード”M”で測光値差が表示されているとき、約1秒間AELボタンを押してください。カメラが自動的に設定された絞り値に基づいて適正露出であるシャッタースピードを調整します。

設定値 A と測光された値との差 B がファインダー液晶画面に表示されているとき、約1秒間AELボタン C を押してください。カメラが適切なレベルにシャッタースピードを変更します。

Notice:
絞り値がシフトするようにカスタムファンクションで設定可能です。



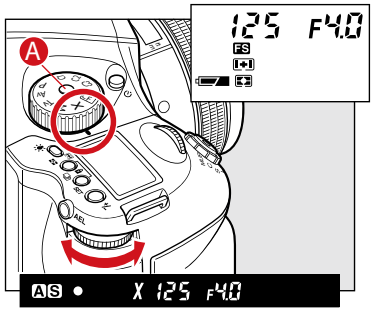
Notice:
撮影にレンズシャッターを使用するかフォーカルプレーンシャッターを使用するかについては、カスタムファンクションで撮影時に選択することも可能です。



オートモード機構

レンズシャッター付きレンズ装着時は、レンズシャッター動作範囲内(1/800秒～1秒)ではレンズシャッターが動作し、それ以外(1/4000秒～1/800秒・1秒～60秒・bulb)ではフォーカルプレーンシャッターが動作します。

Notice:
選択した絞り値をロックすることができます。
レンズシャッター付きレンズを装着しても高速(1/800秒)撮影はできません。他の露出モードで撮影してください。



シンクロモード(X)

ストロボを使用するときに設定します。シャッター速度がシンクロ速度の1/60～1/125秒に任意で設定できます。シンクロ速度は、後ダイヤルで設定します。

露出モードと装着レンズ

露出モード	レンズ種類	シャッター速度			フラッシュシンク		
		1/4000 - 1/800	1/800 - 1S	1S - 30S+	1/4000 - 1/800	1/800 - 1S	1s - 30S+
P	レンズシャッター	—	○	—	—	○	—
	フォーカルプレーン	○	○	○	—	1/90 - 1S	—
Tv	レンズシャッター	—	○	—	—	○	—
	フォーカルプレーン	○	○	○	—	1/90 - 1S	○
Av	レンズシャッター	—	○	—	—	○	—
	フォーカルプレーン	○	○	○	—	1/90 - 1S	—
M	レンズシャッター	—	○	—	—	○	—
	フォーカルプレーン	○	○	○	—	1/90 - 1S	○
	自動	フォーカルプレーン	レンズ	フォーカルプレーン	—	レンズ	フォーカルプレーン
X	レンズシャッター	—	1/125,90,60	—	—	1/125,90,60	フォーカルプレーン
	フォーカルプレーン	—	1/125,90,60	—	—	1/125,90,60	—

3.10 ストロボ撮影

645DF+カメラは縦走りメタルフォーカルプレーンシャッターを搭載しており、レンズシャッター搭載レンズとの互換性もあります。

フォーカルプレーンシャッターは、レンズシャッターより速いシャッター速度での撮影が可能で一瞬の動きを捉えることが可能です。レンズシャッター搭載レンズは、ストロボを併用することによって理想的な一瞬の動きを捉える、速いシンクロ同調シャッターを可能にします。

フォーカルプレーンシャッター方式では、最大1/4000秒でシャッタースピードを設定する事が可能です。しかし速いシャッター速度で撮影する場合は、2枚のシャッター幕が小さなスリットを作りながら平行に移動しています。そのためストロボを使用しても画面全体がシャッター幕に邪魔されないようにするためには、1/125秒より遅いシャッター速度で撮影をする必要があります。

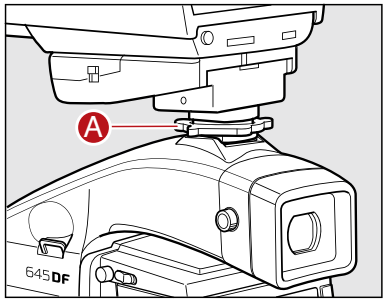
レンズシャッターでは、その構造上画面が欠ける事が無いため、より速いシャッターとシンクロ速度を得ることが可能です。またIQシリーズバック使用時は、最大1/1600秒のシャッタースピードを得ることができます。

1. グリップタイプや他のカメラ用に設計されたストロボはカメラボディのシンクロターミナルにケーブルを接続することで使用することができます。(他社のカメラ用に設計されたストロボをお使いになる時は左下のNOTEをご確認ください)

2. 露出モードダイヤルを“M”(マニュアル)か“X”(シンクロモード)にセットしてください。フォーカルプレーンシャッターを使用する場合に“M”を選択したときは、シャッター速度を前ダイヤルで1/125秒よりも遅く設定してください。

3. 後ダイヤルで必要な絞り値を選択してから撮影します。

Mamiya 645DF+は標準的なマニュアルでのストロボ撮影に加えて、メッツストロボ+専用SCA3952アダプターを使用するとストロボTTLダイレクト制御機構が使用可能となります。



Notice:

このカメラのシンクロ接点はX接点です。

ホットシューに他社のカメラ専用に設計されたストロボを使用すると、シンクロ以外の接点がショートして、カメラの内部機構が破損する恐れがあります。この場合、ブラケットを使用し、カメラのシンクロ端子にシンクロケーブルを接続して使用します。

大型ストロボ等閃光時間の長いストロボをフォーカルプレーンシャッターで使用する場合、画面にけられが生じることがあります。その場合は、どの速度まで同調出来るか事前に撮影して確認をしてください。

Metz 3952 functions

ファインダー内 充電完了表示	ストロボの充電が完了すると、ファインダー内液晶表示パネルに充電完了マーク ϟ が点灯します。
ストロボ同調速度自動設定	ストロボの充電が完了すると“**P**”（プログラムAE）、“**Av**”（絞り優先AE）モードのときは1/60～1/125秒に自動設定されます。 “**Tv**”（シャッター優先AE）、“**M**”（マニュアル）撮影時にシャッター速度が1/125秒のときは、1/125秒以下に自動設定されます。
ストロボ調光設定	ストロボの光を±3EVの範囲で補正できます。
オートズームコントロール	パワーズームレフレクターがレンズの焦点距離に連動します（Metz 32Z-2は除く）
AF用補助光発光	フォーカスモード“S”のとき低輝度時AFに連動して自動発行します（32Z-2は除く）
調光範囲（距離）表示	ストロボの液晶パネルに表示されます。 （32MZ-3、32Z-2は除く）
その他	カメラからの感度情報·露出補正情報·絞り値情報をストロボに伝えます。

	アダプター		
Metz ストロボ	Type of flash	SCA 3952 Module	コンバーター
Metz 44 MZ-2	ホットシュー	必要	
Metz 54 MZ-3	ホットシュー		
Metz 45 CL-3 & 4 Digital	グリップタイプ		SCA 3045
Metz 60 CT-4	グリップタイプ		SCA 3000
Metz 70 MZ-5 & 4	グリップタイプ		

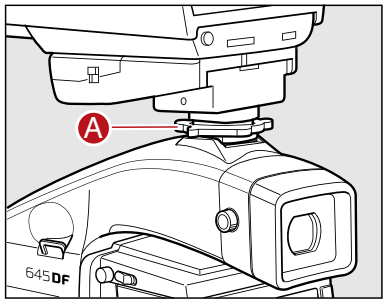
詳細情報はMetzのWEBにて　www.metz.de

Mamiya 645DF+のストロボTTLダイレクト制御機構はカメラに内蔵されたセンサーによりストロボの発光量を制御する機能で645DF+とメッツストロボ、専用のSCA3952アダプター(別売)との組み合わせで使用することが出来ます。この機構により日中シンクロをはじめとして多彩なストロボ撮影が可能となります。

ISO感度についてもシャッターを半押しにした時点でデジタルバックからの情報を受け自動で設定されます。

メッツストロボを使用してストロボTTL撮影を行うためには、メッツSCA3952モジュールが必要となります。それ以外に必要なアダプタについては左図でご確認ください.

ストロボTTLダイレクト制御機構は、正確な露出を計算し自動的にストロボの出力を調整します。また、フィルター、ベローズや接写リングを使用した場合でも必要な露出を自動的に補正します。



1. MetzフラッシュにSCA3952アダプターを取り付け、カメラのホットシューに完全に挿入してから、ロックノブ Ⓐ で締めます。

2. 露出モードを設定し、シャッタースピードと絞りを確認してください。

露出モード		シャッター速度	絞り値
P	プログラムAE	測光秒時が1/60秒以下の場合は1/60秒に、1/125秒以上の場合は1/125秒に自動設定されます。	自動設定
Av	絞り優先AE		任意の絞り値
Tv	シャッター優先AE	1/125秒以上の場合は、1/125秒に自動設定されます。	自動設定
M	マニュアルモード		任意の絞り値
X	シンクロモード	1/60～1/125秒	任意の絞り値

先幕シンクロモード

後幕シンクロモード

TTLストロボ撮影機能

TTLストロボ撮影の場合、ストロボ光の反射が自動的に計測され、光量の強さが自動的に調整されます。これは、TTLストロボ撮影が、すべての撮影条件には適さない可能性があるということ意味しています。以下のケースでは、マニュアルストロボ設定を使用するか、フラッシュメーターを使用して光量を確認することを推奨します。

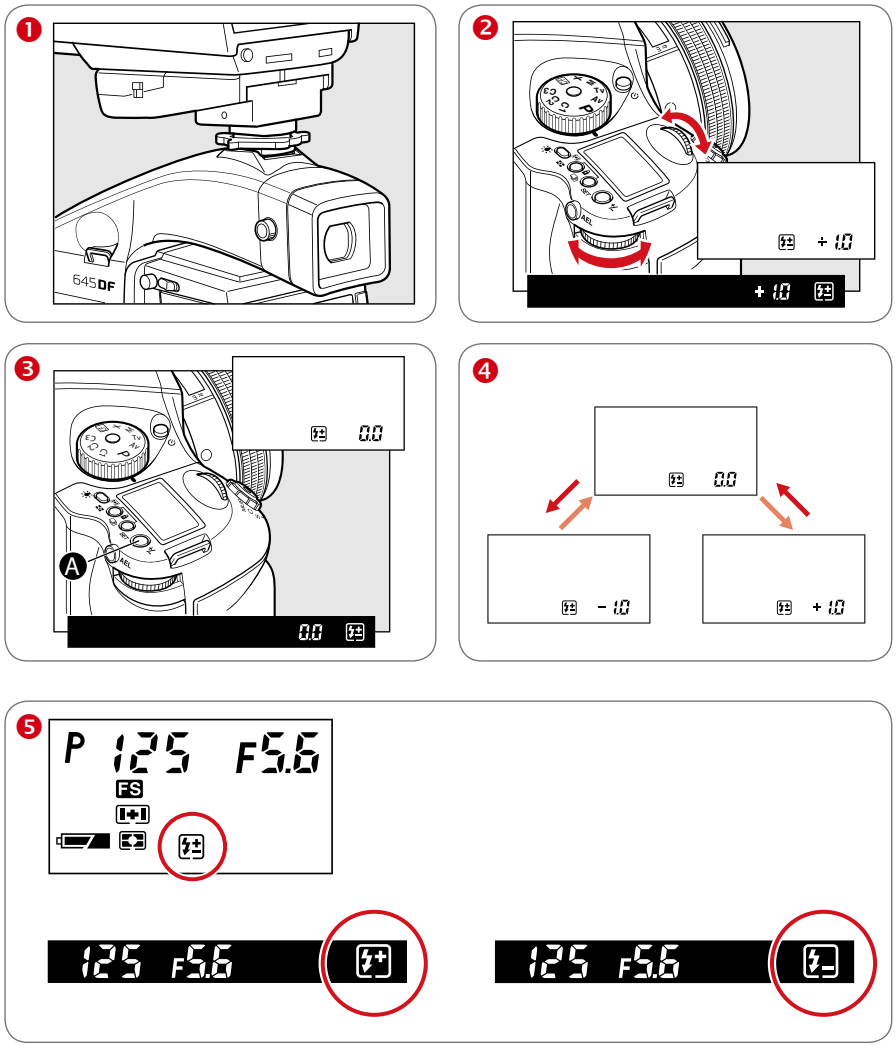
例として

1. フラッシュ光を当てたい被写体の大きさが、画像内において比較的小さい場合。
2. 被写体の背景が極端に明るいときや、反射率の高い物がある場合。
3. 背景がを極端に暗いとき。(夜間の屋外など)
4. 適正なストロボ光を照射したい被写体が画面中央から大きく外れているとき

後幕シンクロモード

ストロボの発光タイミングをシャッター幕の走行開始直前にすると、動く被写体をストロボ撮影にした場合に、その被写体の動きをイメージさせる光の流れを被写体の後方に表現可能です。

後幕シンクロの設定はカスタムファンクション設定で行います。103ページをご確認下さい。



3.11 ストロボ調光補正について

メッツストロボとSCA3952アダプターの組合せで、ストロボの調光補正ができます。調光補正範囲は、±3EVで1/3ステップごとに設定できます。

1. 電源を入れる
メッツストロボにSCA3952アダプターを付け、ロックノブを使ってロックしカメラにセットします。

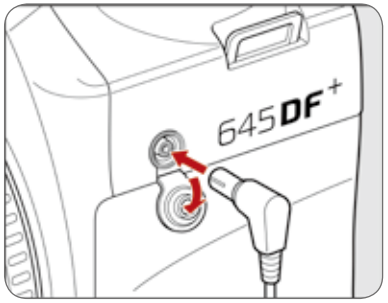
2. フラッシュ充電確認ランプが点灯したら、セットボタン Ⓐ を押します。外部液晶表示にストロボ調光補正モードマーク を表示させます。

3. 前または後ダイヤルを回して、ストロボ調光補正値を選択します。

4. シャッターボタンを半押しすると外部液晶表示には 表示が、ファインダー内液晶表示には+補正なら 、-補正なら と表示されます。

ファインダー内液晶表示

- 充電完了マークが表示されていないとストロボ調光補正ボタンⒶは動作しません
- ストロボ調光補正ボタンⒶを続けて押すとストロボ調光補正モードに入り露出補正値を確認する事が可能です
- ドライブダイヤルを“L”(電源OFF)にすると、補正値は解除されます



Notice:

他のメーカーのカメラ専用に設計されたストロボをホットシューに接続すると、カメラの内部機構が破損することがあります。このような状況では、ストロボをシンクロコードで使用し、カメラのシンクロ端子に接続します。

大型ストロボ等、閃光時間の長いストロボを使用すると画面の一部にケラレが発生する事があります。事前に試し撮りをしてストロボ同調速度を確認して下さい。

メッツストロボ以外のストロボ撮影

1. カメラにストロボを取り付けます。ストロボのホットシューに、X接点以外の電気接点があるストロボを接続するときやホットシュータイプ以外のストロボを接続するときは、シンクロコードをカメラのシンクロターミナルへ接続して下さい。

2. 露出モード設定ダイヤルを回して、“X”（シンクロモード:1/60秒～1/125秒）か“M”（マニュアルモード）にします。“M”（マニュアルモード）にした場合は、前ダイヤルを回して、シャッター速度を1/125秒以下にセットします。

3. “X”（シンクロモード）を選択した場合は、前ダイヤルを回して絞りを決めて撮影します。“M”（マニュアルモード）を選択した場合は、後ダイヤルを回して絞りを決めます。

※このカメラのシンクロ接点はX接点です。

Mamiya leaf

4.0 Leaf Credo デジタルバックについて

システム概要

Leaf Credoデジタルバックは Mamiya 645DF+だけでなく、他のブランドの中判カメラや大判カメラとの相互性があるように設計されています。

LeafCredoデジタルバックは現在Credo80（8000万画素）、Cred060（6000万画素）、Credo50（5000万画素）、Credo40（4000万画素）の4種類のモデルが存在します。
すべてのモデルは12.5絞り分のダイナミックレンジを持ち、USB3.0とFireWire800の高速インターフェースを備えています。

すべてのモデルは、1.15メガピクセルの解像度を備えた3.2インチの タッチディスプレイが搭載されており、4:3アスペクト比の画像表示、ヒストグラム、ハイライト警告、フォーカスマスク、ファイル情報、センサーの傾き(水準器)など撮影に必要な様々な情報を表示します。またタッチディスプレイの外に4つのソフトウェアボタンがあり、タッチスクリーンの画像部分に触れなくても作業を行う事が可能です。

4.1 クイックスタート（スタンドアロン撮影）

1. Credoデジタルバックを645DF+カメラに取り付けます（センサーサイズに合ったファインダーマスクをセットしておいてください）。

2. 充電が完了したバッテリー（12ページ参照）をカメラ·Credoデジタルバックそれぞれにセットしてください。

3. CredoデジタルバックにCredo 用にフォーマットをしたCFカードを入れてください。

4. デジタルバックとカメラの電源を入れ、カメラのドライブダイヤルで撮影モードを選んでください。

5. 露出モードを選んでください。

6. 必要であればフォーカスモードをカメラボディとレンズで選んでください。

7. Credoデジタルバックの日付をセットします（21ページ）

8. ISO感度·ホワイトバランスを決めます（24ページ）

9. 撮影後CFカードリーダーを使用してRAWデータをCapture Oneにインポートします。

10. Capture Oneで必要な編集をした後、現像して画像を仕上げます。

4.2 セッティング

Leaf Credoの電源を入れる

Credoデジタルのバックはカメラにセットした後、バッテリーを挿入する、USB3.0もしくはFireWire800ケーブルがセットされると自動的に電源がオンになります。また電源スイッチはデジタルバックの上部にボタンがあります。

ISOセッティング

Credo80デジタルバックISO35～800、Credo60 / 40デジタルバックはISO50～800、そしてCredo50デジタルバックはISO100～6400が使用できます。ISO感度はスタンドアロン撮影時はタッチディスプレイから、接続撮影時はCapture Oneソフトウェアから選択が可能です。

シャッターレイテンシー

通常は「ノーマル」でお使い下さい。どのようなシーンでもそのままお使いいただけます。「ゼロ」を使用するのは電気的なやり取りがなくシャッターのリリース情報が得られないテクニカルカメラ等に使用する場合のみです。また「ゼロ」を選択している間は常にセンサーがオンになっているため熱ノイズが出やすくなります。ご注意下さい。

二重露光の防止

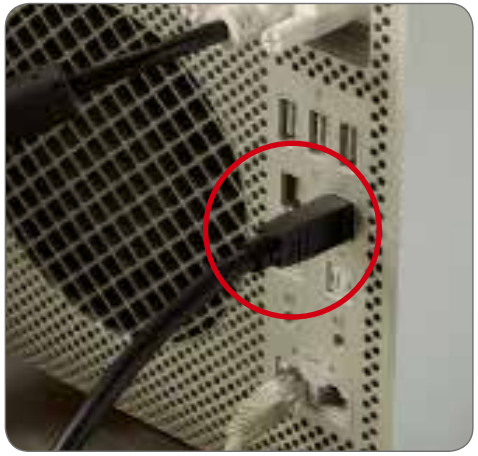
Mamiya 645DF+/AF/AFDIII、Phase One 645DF+、Hasselblad 555 ELD (DIGモード)、Hasselblad HもしくはContax 645で使用する場合、Credoデジタルバックはカメラボディと撮影タイミングを通信をするため連続してシャッターを切っても二重露光にはなりません。しかし、その他のカメラを使用するときは、撮影後Credoデジタルバックから出る撮影可能ブザーを確認してから、次のシャッターを切ってください。

4.3 パワーインジケーター

Credoシリーズのデジタルバックは電源ボタンの横にインジケーターLEDがあります。Credoデジタルバックがスリープ状態になるとこのLEDは緑色に点灯します。また、アクティブ状態になると同時にこのLEDは消えるようになっています。

4.4 CFカードスロットのLED

CFカードスロットのカバーの中には、CFカードの書き込み状態を表示する赤のLEDがあります。このLEDが赤く点灯している間はCFカードを抜かないでください。LED点灯中にカードを抜き差しするとカードにダメージを与え、中のデータが消えてしまう可能性があります。



4.5 接続撮影とスタンドアロン撮影

スタンドアロン撮影: Leaf Credoデジタルバックはバッテリーで駆動し、撮影データをCFカードに保存することが可能です。CFカードスロットはデジタルバック左のカバー内にあります。

接続撮影: FireWire800やUSB3.0を使用した接続撮影で、Credoデジタルバックをご使用のときも、デジタルバックにはバッテリーを必ず入れておいてください。この場合、撮影したRAWデータはCFカードもしくはCapture Oneを介してコンピューターのどちらかに書き込まれます。(詳細は80ページにある接続撮影時のバッテリーチャージをご確認下さい)

ドライバーのインストール

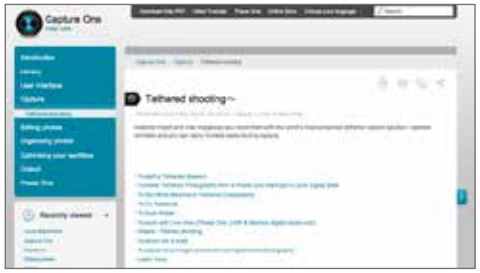
Credoデジタルバックを使用するにあたって特別なドライバーソフトのインストールは必要ありません。Capture Oneソフトウェアをインストールすれば使用可能です。ソフトウェアのアクティベーションについてはこのガイドの8〜9ページをご覧下さい。
また、ハードウェアのファームウェアについてはPHASE ONEのWEBサイトもしくはニュースレターでお知らせします。

接続について

FireWireケーブルの長さは最大4.5メートルです。それ以上の長さのケーブルが必要な場合は、サードパーティ製の電源ソリューションまたはFireWireハブが必要になる場合があります。Credoシリーズデジタルバックに搭載している FireWireはFireWire800です。

MacやWindowsのFireWire800端子を接続します。Macの前面にあるFireWireポートは背面のものに比べ安定性に欠ける機種があるため、前面のポートが不安定な場合は背面のポートをお使い下さい。Capture Oneは自動的にCredoデジタルバックを認識し、セッ ティングを共有します。(CaptureOneでの接続撮影に関しての詳細は、ソ フトウェアのマニュアルをお読みください。)

Note: CredoデジタルルバックはFireWire400でも動作します。Mamiya Leaf FireWire 800 to 400 cable 4.5m(パーツ番号50300164)



接続撮影（続き）

Leaf Credoシリーズに搭載されているディスプレイは接続撮影時、スタンドアロン撮影時ともに、撮影後の表示時間等細かなセッティングが可能です。また、撮影画像の一部を拡大表示してピントのチェック等がスムーズに行えるようになっています。

Leaf Credoシリーズは保存先の設定をオートにしてCFカードをセットしておけば、コンピューターと接続されればコンピューター側にRAWデータが保存され、スタンドアロンで使用すればCFカードにRAWデータが保存されます。FireWireケーブル等で接続撮影中にケーブルが抜けてしまった場合も自動的にCFカードに保存先が切り替わります。

保存先に関しての詳細は81ページをご確認下さい。

オンラインサポート

Capture Oneでの接続撮影に関しては、Capture Oneを起動してヘルプからオンラインユーザーガイドをご確認下さい。

4.6 コンパクトフラッシュカード（CFカード）

コンパクトフラッシュカード、カードリーダーについては、大切なデータ損失を避けるため、いくつかの簡単なガイドラインに従うことが重要です。Mamiya Leafでは、Credoデジタルバックで使用する新しいCFカードについては撮影の前にテストすることをお勧めします。テストを行うことで、カードに画像ファイルが適切に保存されるかどうか、そして撮影後パソコンに取り込んで処理が行えるかどうかを確認することができます。コンパクトフラッシュカードは、他のサプライヤーによって製造されるため、Mamiya Leafではカードが不良品ではないことを保証することはできません。

CFカードの着脱

CFカードスロットはCredoデジタルバックの左側面のカバーの中にあります。

画像のように、ブランドのラベル面が手前を向くようにしてCFカードをCredoデジタルバックに挿入します。

CFカードが完全に挿入されていないと、カバーをきちんと閉じることができません。

カードを取り出す際は、カードの上にある小さいボタンを押すと、イジェクトピンが出てきます。このピンを押し込むと、カードが排出されます。

マイクロドライブは、Credoデジタルバックでの使用を推奨していません。

4.7 ストレージチェックシステム(3S)

MamiyaLeaf Credoシリーズデジタルバックは CFカードの使用時、データがメディアへ安全に保存されるかどうかを確認する機能が備わっています。3Sテクノロジーは、CFカードがCredoデジタルバックに挿入されるたび、自動的にカードのファイル構造をチェックします。ディスクチェック機能がエラーを検出した場合、修正されるかもしくはカードが新たにフォーマットされるまで、コンパクトフラッシュカードへの書き込みが出来なくなります。

3Sシステムの動作

CredoシリーズデジタルバックにCFカードが挿入されると、すぐにファイル構造のチェックが実行されます。

容量の少ないカードは速く、容量の大きいカードはチェックに時間がかかります。

チェックディスク機能をオフにすることはお勧めしません。

ディスクチェックの概要

3Sシステムは、Credoシリーズデジタルバックのみに搭載された安全なストレージチェックシステムであり、他のどのカメラシステムにも搭載されていない優れたものです。

利点:

コンパクトフラッシュカードを毎回コンピューターでフォーマットする必要が無い

損傷もしくは正しくフォーマットされていないカードはすぐに検出され、IQシリーズデジタルバックで再フォーマットする事が可能です。

4.8　CFカードのフォーマット

ほとんどのコンパクトフラッシュカードは、購入後そのままでもフォーマット済みで撮影の準備ができています。しかし、最適な性能を確保するためにも、Credoデジタルバック上で再度フォーマットをしてください。

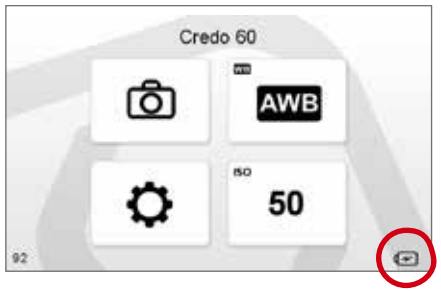
メモリーカードのフォーマットは、カードサイズに応じて、FAT16またはFAT32のいずれかで行われます。(CredoデジタルバックはFAT16およびFAT32 どちらでフォーマットされたCFカードもサポートしてい ます)

CFカードとCFカードリーダーの使い方

コンパクトフラッシュカードはMacもしくはPCに接続したカードリーダーに挿入すると、コンピュータ上でリムーバブルドライブとしてマウントされます。WindowsとMac OS Xは、CFカードリーダーのために必要なドライバーを自動でインストールします。Capture Oneにファイルをインポートする方法については、ヘルプメニュー内のCapture Oneヘルプから Capture Oneのオンラインユーザーガイドを確認してください。

Warning!

Credoデジタルバックがデータを書き込んでいるあいだ(赤色のLEDが点灯しているとき)カードを取り出したり、バッテリーを外したりすることは、画像の紛失や損傷の原因となります。 カードは湿気や砂、ほこりを避けて保管して下さい。 使用しない場合はCFカードに付属しているケースに入れて保管して下さい。



5.0 Credoユーザーインターフェースとメニュー

ホームスクリーン

ホームスクリーンはデジタルバック起動直後に表示される画面です。この画面は、デジタルバックのデフォルトの画面であり、「撮影設定」「セットアップ」「ISO感度設定」「ホワイトバランス設定」といったメニューへの アクセスはここから行います。

選択されているISO感度やホワイトバランスはこのホームスクリーン上に表示されます。

画面の右下にはバッテリー残量のアイコンが表示されています。このアイコンはCredoデジタルバックがFireWireやUSB3.0に接続され、充電をするセッティングになっている場合充電マークが表示されます。また、バッテリー残量が少なくなると点滅して交換時期を知らせます。

画面左下にはCFカードの撮影可能枚数（残数）が表示されます。

左上部にあるホームボタン（ソフトボタン:家のアイコン）をタップするとメニューのどの画面に入っていてもホームスクリーンにワンタッチで戻ることが可能です。

画像の確認

撮影画像をタップすると、全体表示に切り替わります。また、見たいところをダブルタップすると、タップした部分を中心に100%表示となります。

5.1 ソフトボタン

Mamiya Leaf Credoシリーズは画面の外に4つのソフトボタンを持っています。

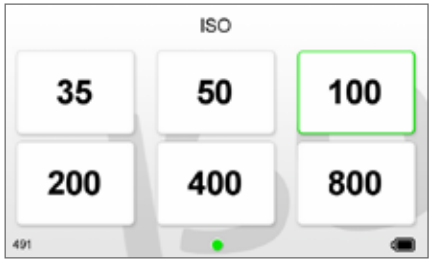
このボタンは「ホーム」「ブラウズ」「戻る」「ダイナミックメニー（オプションメニュー）」として機能します。

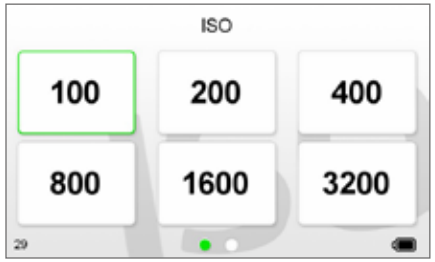
「ダイナミックメニュー」の機能は、Credoデジタルバックのどのメニューを操作しているかどうかによって最適なものに変化します。

5.2 タッチスクリーンの操作

Credoシリーズデジタルバックには3.2インチのタッチスクリーンが組み込まれており、ズーム、パン、素早いブラウズなど、また異なるメニューや機能間の移動が簡単に可能です。このタッチスクリーン上のメニューは、操作状況に合わせて変化し、必要な機能のみが適切に表示されるように、設計されています。

この一例として、1本の指だけでできるユニークなインスタントズーム機能などが挙げられます。また小さなヒストグラムやハイライト警告は、それらに触れることで、全画面表示にすることができます。ワイドフォーマットのディスプレイは4:3アスペクトの比のVGA解像度画像の隣にヒストグラム、ハイライト警告、フォーカスマスク、EXIFデータとタッチコントロールなどを表示することを可能にしています。



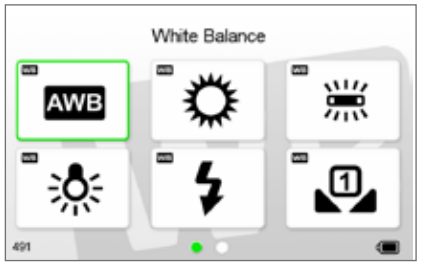


5.3 ISO感度のセット

ホームスクリーン上のISOアイコンをタップすると、お使いのCredoデジタルバックで使用可能なISO感度を選択することができます。現在選ばれているISO感度に緑の枠がついています。変更をする場合は、必要なISO感度をタップすると緑の枠が切り替わり、自動的にホームスクリーンに戻ります。

Credo 80は35～800、Credo 40と60は50～800、Credo 50は100～6400のISO感度が選択可能です。

Note: ISO感度が高くなればなるほど画像のノイズ量は増加していきが、Capture Oneソフトウェアとの組合せでは強力なノイズリダクション機能が働くためノイズの量はかなり低減されます。しかし、高ISOでの撮影については事前に画質等の確認をお勧めします。



5.4 ホワイトバランス

ホームスクリーンのホワイトバランス（WB）アイコンをタップします。現在選択されているホワイトバランスが緑の枠付きで表示されます。変更したいホワイトバランスを左右にスクロールして探し、タップすると緑の枠が移動し自動的にホームスクリーンに戻ります。

デフォルトのホワイトバランスはオート（AWB）です。オートホワイトバランスは画像の情報に基づいて最適なホワイトバランスを自動で計算します。オート（AWB）は、ほとんどの撮影状況に適しています。

オート以外の、太陽光、蛍光灯、タングステンおよびフラッシュなどのホワイトバランスをメニューから選択することも可能です。選択しているホワイトバランスはホームスクリーンで常に設定を確認できます。

ホワイトバランスは接続撮影をしている場合はCapture Oneから設定することが可能です。詳細は49ページをご覧下さい。

5.5 カスタムホワイトバランス

新たにカスタムホワイトバランスを作成するには、まずその撮影環境下で1枚撮影を行います（その場合グレーカードを写し込むかグレーに近い被写体を写し込んでください）。撮影した画像を全画面表示にしてディスプレイに表示し、画面外右下のダイナミックメニューからホワイトバランスピッカーのアイコンを選んでください。

ズームや移動の機能を使用してグレーや白のホワイトバランヲを取りたい部分を表示して、タップするとカーソルが十字になり、タップした部分でホワイトバランスが取られます。必要であればそのままタップする場所を変えて、別の場所でホワイトバランスを取ることも可能です。

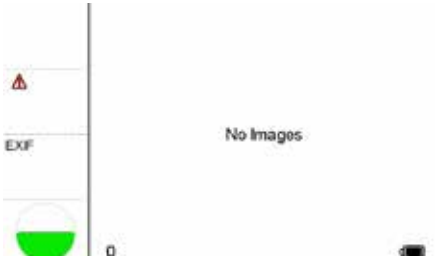
画面に表示された「WB」のアイコンをタップしてホワイトバランスを確定すると、どのカスタムホワイトバランスにセーブするかを決めるためのアイコンが表示されますので、必要に応じて「1」「2」「3」を選択してください。

次回からこの「1」「2」「3」に保存されたカスタムホワイトバランスは別のものを上書きするまで使用できます。

6.0 ブラウズモード

ブラウズモードは撮影した画像を確認するために使用されます。またタッチスクリーン上で、削除、ズーム、パン、そしてブラウズが用意に可能です。画面外左下のソフトボタンをタップすることでブラウズモードに入ります。

画面外左上のホームボタンをタップすることで、いつでもブラウズモードを終了し てホームスクリーンに戻ることができます。



6.1 ブラウズモード　ビュー

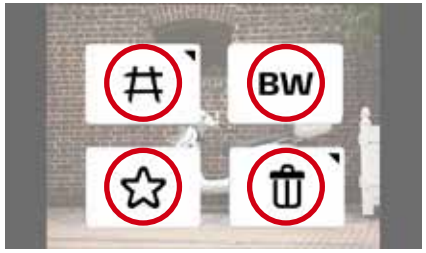
ブラウズソフトボタンをタップするとCFカードの中の画像データを確認することが可能です。ビューには、フルスクリーン、ツールビュー、サムネールの3つのモードがあります。

フルスクリーンモードは画像をディスプレイ一杯に表示します。ズームスライダーとダイナミックメニューツール、拡大率のパーセント表示は数秒後に自動的に消えます。

ツールビューモードは標準のままであればヒストグラム、露出警告、インフォメーション、水準器、撮影可能枚数、バッテリー残量が表示されます。

サムネールモードではCFカードに保存された画像が、撮影順に6コマずつ表示されます。

CFカードに撮影データが1枚も入っていない場合、白い画面に“No Images”と表示されます。



6.2 ダイナミックメニュー

画面外右下にあるダイナミックメニューのソフトボタンをタップします。

フルスクリーンモードでは「グリッド」「カスタムホワイトバランスピッカー」「レーティング」「削除」のオプションが表示されます。右上に小さな三角形があるアイコンは、長押しをすることでさらに次のメニューが表示されます。

ツールビューモードでは「グリッド」「B/Wプレビュー」「レーティング」「削除」が選べます。

サムネールモードでは「全選択解除」「全選択」「レーティング」「削除」が選べます。

6.3 インフォメーションバー

スクリーンの下部にはインフォメーションバーがあり、バッテリー残量インジケーターが表示されます。このバッテリー残量インジケーターが点滅をすると、まもなくバッテリーが空になるため撮影を続けるためには新しいフル充電したバッテリーに入れ替える必要があります。

インフォメーションバーの左にはCFカードに入っている撮影画像と何枚目を表示しているかを表す数字があります。左の図では10コマ撮影済みの画像がCFカードに入っており、その2コマ目をディスプレイに表示していることを表します。

6.4 ブラウズ時の操作

ブラウズモードで画面下のソフトボタンの間をスワイプすると隠れている画像のサムネールが表示されます。また、サムネイルをダブルクリックするとその画像が100%表示に拡大されます。さらにズームのサイズを調整するには画面右側のソフトボタンの間をスワイプしてください。全体表示から400%まで自由に設定が可能です。

ブラウズモードで画像を確認しているとき、選択された画像は緑の枠で表示されます。

6.5 ズーム

ツールビューモードで表示されている画像を1回タップすると全画面表示に切り替わります。この状態でLeaf Credoデジタルバックは画像を400%の拡大まで表示することが可能です。

全画面表示の状態で拡大したい部分をダブルタップするとその部分が100%表示になります。全体表示に戻す場合は、再度ダブルタップしてください。また右上のソフトボタン「戻る」をタップするとツールビューに戻ります。

拡大率を400%までアップするためには、画面外右側のエリアを上下にスワイプしてください。全画面表示から400%拡大まで対応しています。

6.6 レーティング

レーティングを行うには、右下のダイナミックメニューソフトボタンをタップしてレーティングのアイコン(☆)を選択してください。全画面表示、ツールビュー表示時、画像の下に白いレーティングエリアが表示されます。レーティングエリア内の5つのドットをタップすると左から右に1～5のレーティングが付けられます。レーティングエリアの左にある白い部分をタップするとレーティングゼロに戻ります。Credoデジタルバックで設定したレーティングはCapture Oneにインポートしてもそのまま情報が引き継がれます。

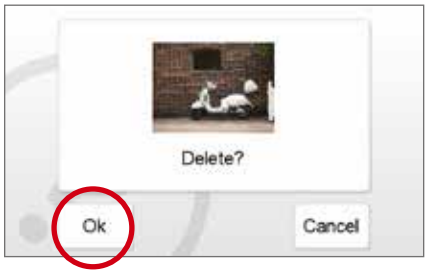
レーティングの表示はツールビューモード、全画面モード共通でセットできます。どちらかのモードのダイナミックメニューからレーティングをオンにしてください。またブラウズモードは独立して表示が可能です。ブラウズモードのダイナミックメニューから機能をオンにしてください。

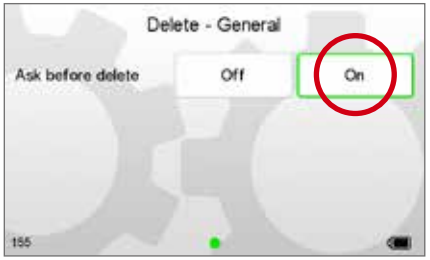
レーティングを表示しないときは、ダイナミックメニューからレーティングアイコンのチェックを外してください。

6.7 B/Wで画像を確認する。

ツールビューモードからダイナミックメニューをタップして「BW」アイコンを選択するとプレビュー画像をB/Wで確認することが可能です。この場合CFカードに保存されるRAWデータはカラーのままで、プレビューのみがB/Wとなります。もとのカラー表示に戻すには再度BWアイコンをタップしてチェックを外します。

※B/Wプレビューの状態でライブプレビューが可能です。



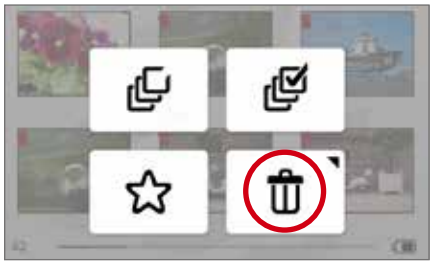


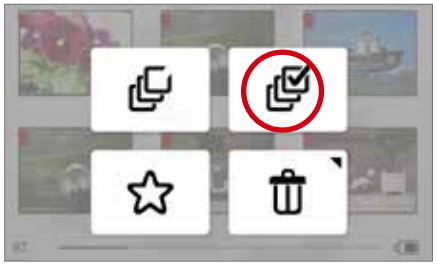
6.8 画像の消去

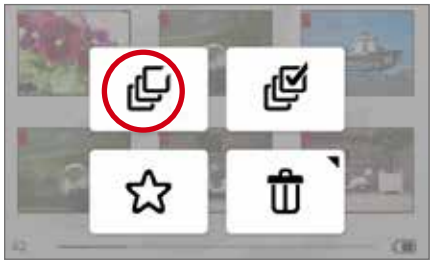
撮影した画像を消去するには、ツールビューモードか全画面表示モードのときに、消したい画像を表示してダイナミックメニューからゴミ箱のアイコンを選んでください。「削除しますか?」との確認画面で「OK」をタップすると画像が消去されます。

ゴミ箱アイコンを長押しするとオプション画面が表示されます。ここでは「削除しますか?」という確認画面の有無(注意!!無い場合はゴミ箱アイコンをタップした時点ですぐに消去されます)を選べます。

この設定はホームスクリーンの設定メニュー(歯車のアイコン)からも選ぶことが可能です。







6.9 ブラウズモードからの画像消去

ブラウズモードのとき、削除したい画像のサムネイルを長押しするとサムネイル画像の左上に「赤いゴミ箱」アイコンがつきます。削除する画像を追加する場合は同様の作業を他のサムネイルに対しても行ってください。

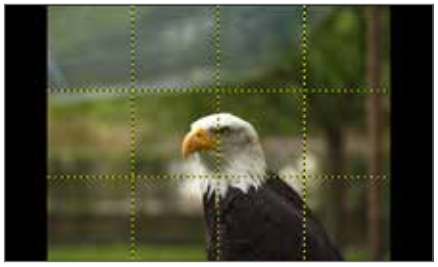
削除する画像の選択が終わったら、ダイナミックメニューをタップしてゴミ箱アイコンを選択してください。削除して良いかどうかの確認画面が表示され、Okをタップすると画像はCFカードから削除されます。

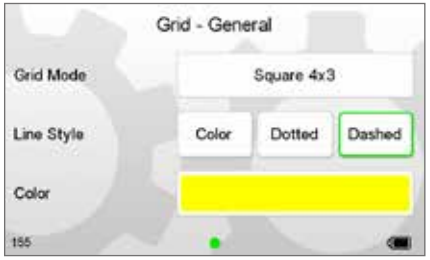
個々で削除を取りやめるには赤いゴミ箱アイコンがついたサムネイルをもう一度タップすると解除することができます。選択した画像の削除をすべて取り消すには、ダイナミックメニューの「全選択解除」のアイコンをタップしてください。

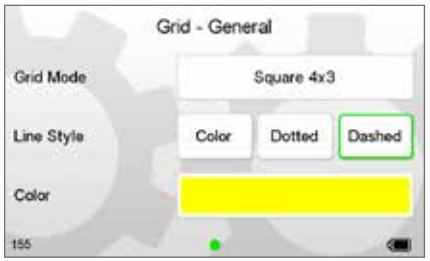
CFカードのすべてのデータを消すには、ダイナミックメニューから「全選択」のアイコンをタップしてすべての画像を選び、再度ダイナミックメニューからゴミ箱アイコンをタップし指示に従ってください。

画像の削除中はプログレスバーが進行状況を表示します。

また、CFカードのすべてのデータを消去するには、ホーム画面の撮影メニュー（カメラのアイコン）から、カードのフォーマットを選択する方法もあります。CFカードをフォーマットはすべてのデータを消去してカードをクリーンな状態に戻します。







6.10 グリッド

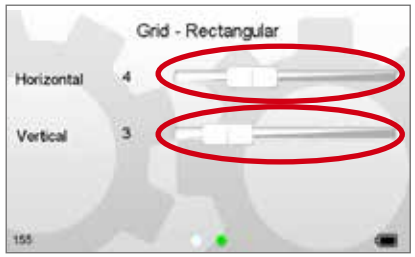
ダイナミックメニューからグリッドアイコン(○印)を選択すると、フルスクリーンモードもしくはツールビューモードで画像の上にグリッドが表示されます。

グリッドアイコンを長押しするとサブメニューが表示され、グリッドモード、ラインスタイル、カラーを変更することが可能です。

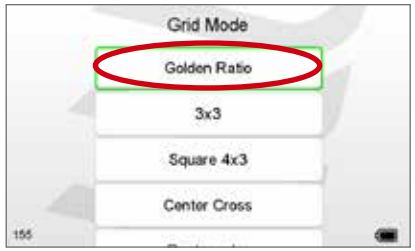
グリッドモードは、黄金比、3x3、正方形4x3、十字線、長方形、フィボナッチスパイラルが選べます。

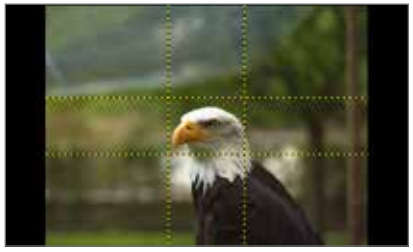
ラインスタイルは、カラー、ドット(細かい点線)、破線(荒い点線)が選べます。

カラーについては画像によって見やすい色を選択してください。9色から選ぶことが可能です。



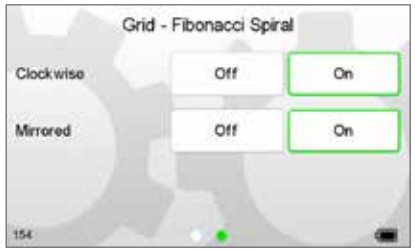
グリッドモードには追加オプションが選べるモードがあります。例えば「長方形」を選んだ場合は、設定画面を左にスワイプすると水平線と垂直線の数を設定することができます。設定は1/1（グリッドなしと同じ状態）から10/10（画面を均等に縦横10分割）までスライダーで設定することができます。





黄金比グリッドは、昔から言われているバランスの良い被写体の配置を手助けするもので2つの水平線および2つの垂直線を使ってスクリーンを9つの部分に分割します。これらの交点に主要な被写体を配置することでバランスの良い画面構成が得られるとされています。

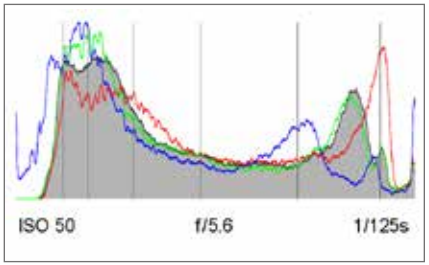
フィボナッチスパイラルは曲線をガイドとしてバランスの良い被写体の配置を手助けするもうひとつの手法です。



このオプションではらせんの回転方向、ガイドそのものの反転がオプションとして用意されています。また、画像によって見やすい色を選ぶことも可能です。

6.11 ツール

ブラウズモードからツールビューモードに入ると画面の左にツールが表示されます。表示されるツールは「ヒストグラム」「露出警告」「画像情報」「水準器」の4つです。
「ヒストグラム」と「水準器」は画面左のツールをタップすると全体表示しなります。全体表示となったツールを再度タップすると全体表示は解除されます。
「露出警告」はタップするとプレビュー上に露出警告を表示する、しないを切り替えます。表示をやめるには左のツールを再度タップします。
「画像情報」はプレビュー上にオーバーレイで表示します。このツールも元に戻す場合は、左のツールをタップしてください。

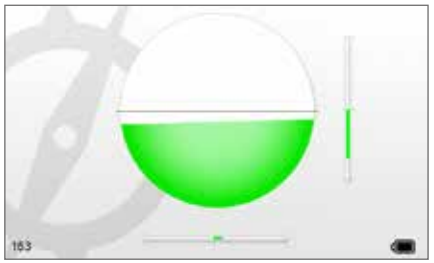


ヒストグラム

ツールをタップすると全画面表示となります。そのとき画面下にISO感度、絞り値、シャッタースピードが表示されます。グラフはRGBそれぞれのグラフと、グレーで全体の濃度が表示されます。
全画面表示になったヒストグラムを再度タップすると、通常のツールビューモードに戻ります。

画像情報

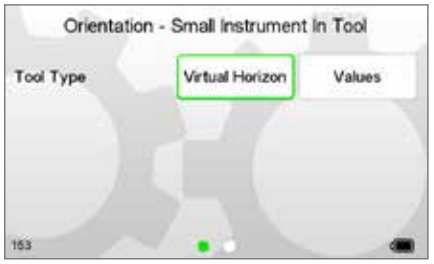
プレビューに表示されている画像の詳細な情報が表示されます。確認できる情報は「ファイル名」「撮影日」「撮影時間」「RAWデータの形式」「ホワイトバランス」「ISO感度」「シャッタースピード」「絞り値」「使用レンズ」「レーティング」です

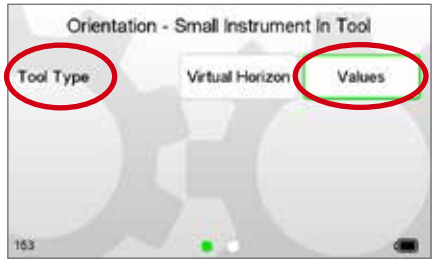


水準器

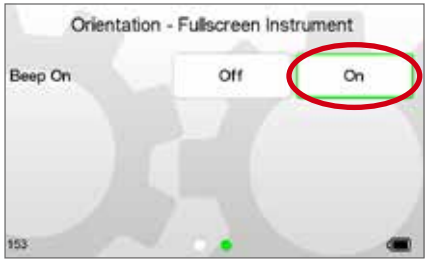
水準器はセンサー面での正確な角度（水平、垂直）を指示します。このツールはタップすることで全画面表示になり、再度タップすれば元の表示に戻るため、大きな画面で正確な調整が可能です。

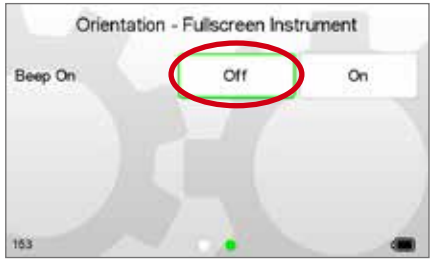
またこのツールを長押しするとサブメニューが開き更に細かな設定が可能です。



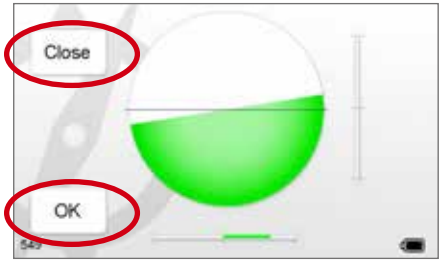


「ツールタイプ」
ツールビューモード時に表示する水準器の表示を「仮想水平（グラフィック）」もしくは「値（数値）」のどちらにするかを切り替えます。



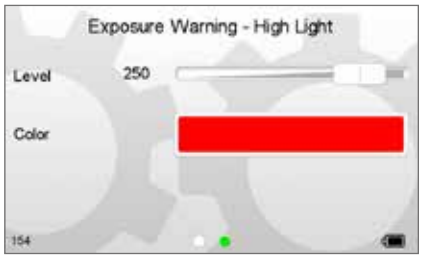


「ビープ音」
オンの場合は水平、垂直になった時点でビープ音が鳴り知らせます。



「回転と傾斜のオフセット」
水準器の中心をわざと角度を付けた状態でセットします。
まず「有効」をオンにして、「セット」をタップし水準器に必要な角度が表示された時点でOkをタップ、Credoデジタルバックに覚えさせます。

初期設定の水平、垂直に戻すには「有効」をオフにします。



露出警告

露出警告は撮影画像の、事前に設定した数値を超えたハイライト部分に赤いマスクを表示します。このマスクはツールビューモードのスモールアイコンには常に表示されており、タップすることでプレビュー画像にも表示されます。再度、アイコンをタップするとプレビュー表示上のマスクは消えます。

露出警告アイコンを長押しするとサブメニューが開き設定の変更が可能です。設定は
「点滅」オンにするとマスクが点滅して注意を促します。
「ツール内で点滅」オンにするとツールビューモードのスモールアイコンのマスクのみ点滅します。
「レベル」露出警告を表示するしきい値を設定します。
「カラー」見やすい色にマスクの色を変更できます。

露出警告のマスクは、プレビューを全画面表示にしても表示されます。マスクを消すにはツールビューモードに戻り、露出警告アイコンをタップしてマスクを消してください。

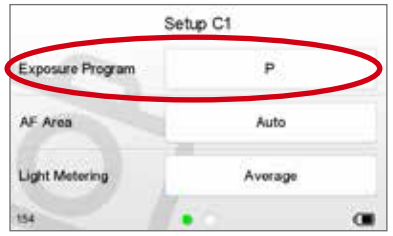
7.0 セットアップ

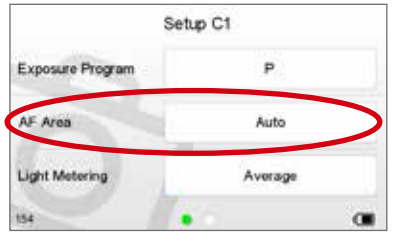
Credoデジタルバックのセットアップページは、ホームスクリーン上のソフトボタン（左下、歯車のマーク）から入ります。

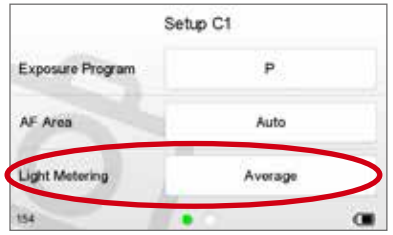
セットアップメニューは複数の項目があり、メニューに従ってタップで選択、スワイプで次のページに進みます。

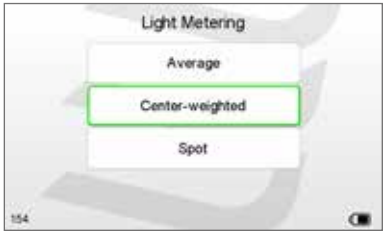
このセクションではセットアップメニューの個々の設定を説明します。Credoデジタルバックは、この部分の設定がすべてデフォルトでも正しく動作するようになっています。しかし、さらに使いやすくするために、セッティングメニューを使用して細かな使い勝手の向上がはかれるようになっています。

セットアップの項目は種類により（左の図のように）複数のオプションページがある場合「...」と言うボタンで表示されます。









7.1 カメラの設定（カスタムファンクション設定）

LeafCredoデジタルバックから645DF+カメラのカスタムファンクション（CF）とドライブダイヤルの“C1”“C2”“C3”を設定することが可能です。
※Credoデジタルバックがカメラにセットされカメラの電源が入っている必要があります。

645DF+のカスタムファンクションについては101ページをご覧下さい。

7.1.1 使用中のカスタムセット

“A”“B”“C”の3つのカスタムファンクション（CF）のセットからどれを使用するかを選択します。
2ページ目はドライブダイヤルの“C1”“C2”“C3”の機能を設定します。
3ページ目はカスタムファンクション（CF）の設定画面です。

7.1.2 露出プログラム

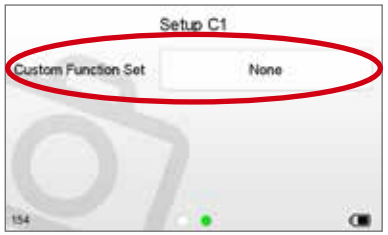
ドライブダイヤルで切り替える“C1”“C2”“C3”の露出モードを設定します。

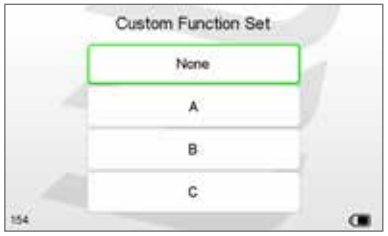
7.1.3 AFエリア

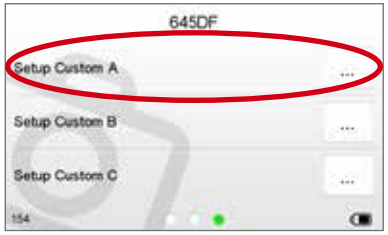
AFの合焦ポイント（自動、中央、右、左）をセットします。自動の場合はAFエリア内のもっとも近くにある被写体にピントが合うように動作します。
※この機能は645DFのみで有効です。

7.1.4 測光

645DF+の測光方式を選択します。







7.1.5 カスタムファンクション

645DF+カスタムファンクション(CF)の設定を行います。

Note: ドライブダイヤルで"C1""C2""C3"を設定したときにカスタムファンクション(CF)のA、B、Cどれが選択されるかを決定します。

7.1.6 カスタムA、B、C設定

カスタムA、B、Cの各種設定メニューに入ることができます。

7.1.7 EVステップ

シャッター速度、絞り値などの変更ステップを切り替えます。

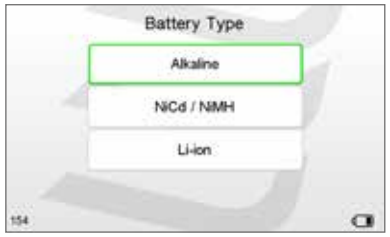
例えば1/1で設定すると絞り値は1絞りずつ変わります。(f2.8, f4, 5.6, f8, f11, f16, f22)また1/3絞りで設定すると細かな設定が可能になります(f2.8, f3.2, f3.5, f4, f4.5, f5, f5.6, f6.3, f7.1, f8, f9, f10, f11, f12, f14, f16…)。

7.1.8 レンズ交換

レンズ交換時、交換したレンズの絞り値をどのように決めるかを設定します。初期設定は交換前に使用していたレンズで設定した絞り値がそのまま引き継がれます。設定で新しいレンズの絞り値を開放、最小絞りにすることも可能です。

7.1.9 スリープ時間

645DF+カメラの電源を入れてからスリープモードになるまでの時間を過ごす設定します。設定は4つ可能でそれぞれ15秒、30秒、60秒そして常にOnが選択できます。この設定はバッテリーの持ち時間に影響します。常にOnに設定した場合はバッテリーの残量に注意して使用してください。



7.1.10 バッテリータイプ

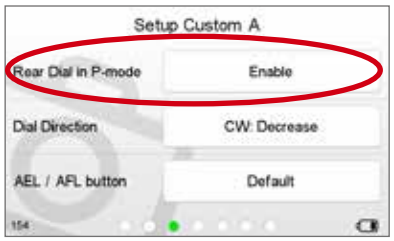
外部液晶表示のバッテリー残量を正確に表示するために、カメラに使用している電池の種類を設定します。

7.1.11 ブラケッティング段数

オートブラケット撮影時、ブラケット幅（何コマ撮影するか）を設定します。初期設定は3です。

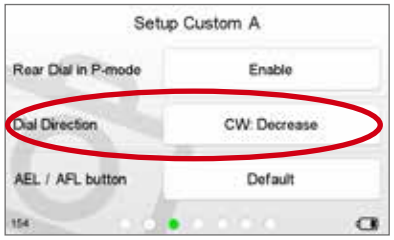
7.1.12 前/後ダイヤル

M（マニュアル）モード時、前ダイヤルと後ダイヤルに割り当てられている機能（シャッター速度、絞り値）を入れ替えます。



7.1.13 後ダイヤルPモード

初期設定ではPモード時の後ダイヤルには前ダイヤルと同じ機能が割り当てられています。この設定をオン·オフすることができます。



7.1.14 ダイヤル管理

シャッター速度、絞り値、露出補正を変更するとき、電子ダイヤルの回転方向によって数値が増える、減るを切り替えることができます。

7.1.15 AEL/AFLボタン入れ替え

AELボタンとAFLボタンの機能を入れ替えることが可能です。
デフォルト　前 AFL、後 AEL
切り替え　前 AEL、後 AFL

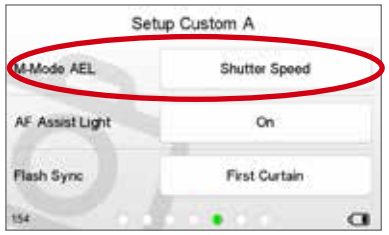
7.1.16 リリースボタン

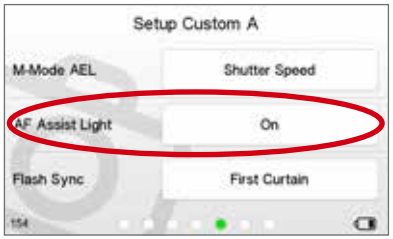
シャッターボタン半押し時のAEロック･AFロック動作を設定します。
AF　AF動作
AFとAE　AF動作/AEロック
リリースのみ　機能なし

7.1.17 AEL

AELボタンを押してAEロックをする方法を設定します。
“ワンショット”ではAEロックをした後シャッターを切ると解除されます。
“コンティニュアス”ではもう一度AEロックボタンを押すまでAEロックを継続します。
“押している間”はAEロックボタンを押下している間のみAEロックが設定されます。

Note: この機能はカメラが“M”マニュアルモードになっているときは無効です。





7.1.18 AFL

AFLボタン操作時のAFロックの方法を設定します。AFLボタンを押すとAFロックする方法と、AF動作をしてAFロックし同時にAEロックする方法が選べます。

押している間　AFロックのみ（初期設定）
AF動作　AF動作/AEロック
コンティニュアス　再押しで解除

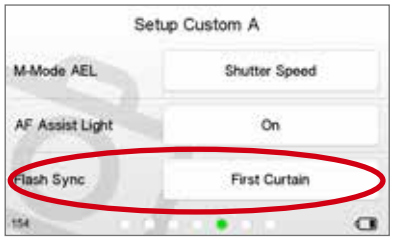
7.1.19 Mモード AEL

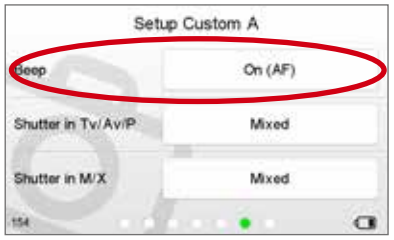
M（マニュアルモード）時のワンプッシュシフト動作をシャッター速度でおこなうか、絞り値でおこなうかを設定します。

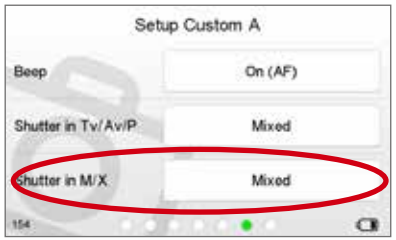
シャッタースピード　シャッター速度をシフトします。
絞り　絞り値をシフトします。
動作しない

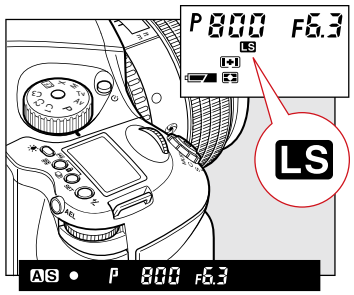
7.1.20 AF補助光

被写体が暗いときに自動的にAF補助光が発光しAF動作を行いますが、このAF補助光を発光しないように設定することができます。









7.1.21 フラッシュシンク

動きのある被写体をストロボ撮影で行ったとき、初期設定では被写体の動く先に光の光芒が現れますが、光の光芒を動く被写体の後に写し込むことができるように変更できます。

7.1.22 ブザー

SETボタン等を押すとブザーが鳴ります。
オン（AF） AF合焦時にブザーが鳴ります。
オン AF合焦時、また各ボタンを押した時にブザーが鳴ります。
オフ ブザーは鳴りません

7.1.23 シャッターTv/Av/P

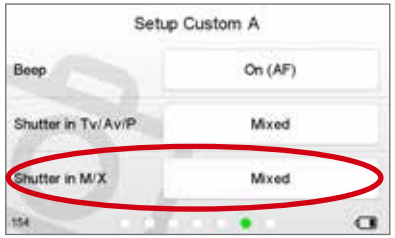
P·Av·Tvモード時にレンズシャッターを装着していてもフォーカルプレーンシャッターでの撮影に変更することが可能です。

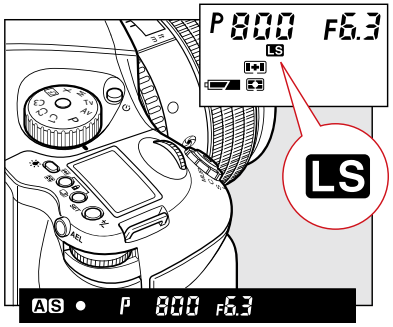
自動切り替え 初期設定。1秒～1/1600秒（レンズによって1/1000秒）まではレンズシャッター、それ以外はフォーカルプレーンシャッターが自動で切り替わります。

レンズシャッター レンズシャッターのみで撮影します

フォーカルプレーン レンズシャッター付きのレンズを装着してもフォーカルプレーンシャッターで撮影します。

Note: 外部液晶表示にレンズシャッターの場合は“LS”、フォーカルプレーンシャッターの場合は“FS”と表示されます。





7.1.24 M/Xのシャッター

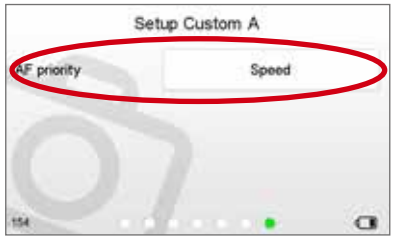
M(マニュアルモード)時、X(シンクロモード)時に、レンズシャッターとフォーカルプレーンシャッターのどちらを動作させるか設定します。

自動切り替え　初期設定。1秒～1/1600秒(レンズによって1/1000秒)まではレンズシャッター、それ以外はフォーカルプレーンシャッターが自動で切り替わります。

レンズシャッター　レンズシャッターのみで撮影します

フォーカルプレーン　レンズシャッター付きのレンズを装着してもフォーカルプレーンシャッターで撮影します。

Note: 外部液晶表示にレンズシャッターの場合は“LS”、フォーカルプレーンシャッターの場合は“FS”と表示されます。

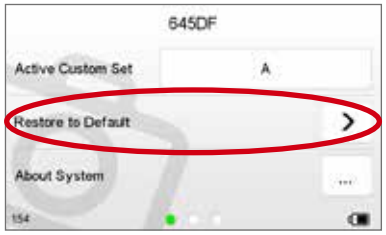


7.1.25 AF優先

オートフォーカスの速度優先(初期設定)と精度優先を切り替えます。

スピード　動いている被写体などを撮影する場合に有利です。

精度　被写体まで距離がある場合やピントの精度を要求される場合に選択してください。



7.1.26　使用中のカスタムセット

使用したいカスタムセットA、B、Cを選択します.

7.1.27　デフォルトに戻す

デフォルトに戻すを選択するとユーザーが設定したカスタム設定をすべて初期状態に戻します。
注意!　このコマンドは途中で止めたりやり直したり出来ません。

7.1.28　システムについて

このメニューを選択するとカメラとレンズのファームウェアのバージョン情報を表示します。現在、カメラのファームウェアが最新のものかどうかの確認に使用してください。
645DF+とCredoデジタルバックの最新ファームウェアのバージョンチェックは www.mamiyaleaf.com/firmware.asp で行えます。

7.2 電源設定

電源設定はバッテリーの持ち時間に大きく影響します。また温度の高い環境で撮影する場合など、Credoデジタルバックの温度をあまり上げないためにも適切なものに設定する必要があります。

バッテリー充電

Leaf Credoデジタルバックはバッテリーチャージャー機能を内蔵しており、FireWireもしくはUSBでパソコンと接続撮影をしている時は同時に充電をしています。この設定には「オフ」、「緩速充電」と「急速充電」があります。「オフ」もしくは「緩速充電」はノートパソコン等の電源部分にパワーが無い機種で接続撮影をする時に使用します。

Note: FireWireもしくはUSBから充電のみを行う場合は、一度Credoデジタルバックの電源をオンにしてください。一度オンにして充電がはじまれば、その後オフにしてもそのまま充電され続けます。

ディスプレイ消灯時間

Credoデジタルバックを一定時間操作しない場合にタッチスクリーンのバックランプを自動的に消灯します。設定は5秒、20秒、1分、5分、常時オンが選択出来ます。

自動パワーオフ

Credoデジタルバックを一定時間操作しないと自動的にオフにする設定です。1分、5分、30分、2時間、オフが選択できます。

自動パワーオフごにCredoを起動するには電源ボタンを押してください。

Power Off w.Camera

Credoデジタルバックを645DF+/DFカメラボディと連動して電源のオン･オフをおこないます。カメラボディの電源を切ると、Credoデジタルバックの背面液晶でカウントダウンが始まります。カウントダウンの間にCredoデジタルバックを操作すると、カメラの電源のみが切れCredoデジタルバックの電源は切れませんので、撮影後の画像確認等がスムーズにおこなえます。

7.3 CFカードのフォーマット

CFカードのすべてのデータを消去して、カードを初期化する時に使用します。CFカードの容量によりFAT 16もしくはFAT 32を自動的に判断して初期化します（Leaf Credoデジタルバックは、どちらのFAT 16、FAT 32両方に対応しています）

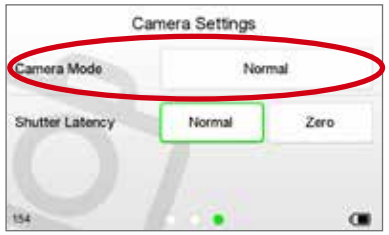
7.4 ディスクチェック

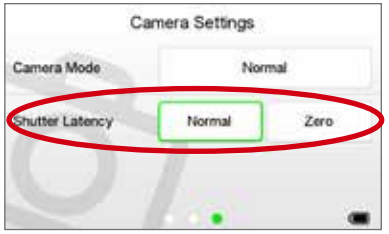
この項目をオンにしておくとCredoデジタルバックはCFカードをセットするたびにカードのチェックを行います。Mamiya Leafでは、撮影データの安全のためこの項目を常にオンにしておくことをおすすめしています。

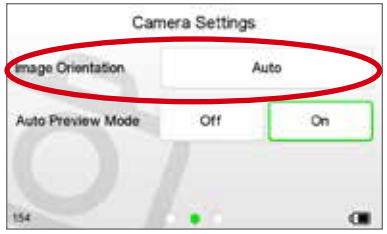
7.5 保存先

保存先は撮影した画像データをどこに保存するかを選択します。デフォルトの状態では「オート」が選択されており、Leaf Credoデジタルバックが自動で保存先を選択します。この場合、パソコンとの接続>CFカードとなり、CFカードを入れた状態でパソコンと接続をするとパソコンに撮影画像が保存されます。また、撮影中に万が一パソコンと接続しているケーブルが抜けてしまった場合は自動的にCFカードに保存を開始します。

Note:Credoデジタルバックは、CF、FW、USBのどれかを選択することに より、保存先にコンパクトフラッシュもしくはUSB、FireWire800を設定することができます。またCredoデジタルバックがPCに接続されておらず、カードスロットも空の場合は、エラーメッセージが画面に表示されます。







7.6 ファイル形式

Credoデジタルバックは2つのモードのRAWデータ形式でファイルを保存することができます。その形式はIIQ L と IIQ S(IIQはIntelligent Image Quality Rawの略)です。

IIQ Lは デフォルトの設定で処理後のTIFFファイルのおよそ1/3のファイルサイズ となります。IIQ Sは、さらに小さめのファイル形式で処理後のTIFFファイルのおよそ1/5のファイルサイズとなります。

7.7 カメラモード

カメラモードメニューには2つの選択肢があります。

ノーマル　通常はこのモードで使用します。

RZ67ProIID　このモードは、マミヤRZ67ProIIDカメラボディに使用するときに最適化するよう設計されています。

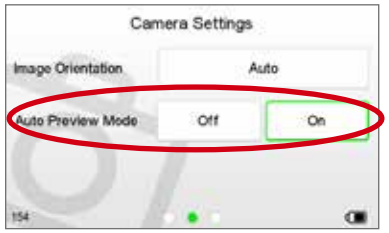
7.8 レイテンシー

Credoデジタルバックのセンサーはスタンバイ状態のとき、消費電力を削減するためスリープ状態になっています。そのため撮影する直前にレイテンシーと呼ばれる信号を送って、センサーを起動させる必要があります。Credoデジタルバックと645DF+を使用している場合、推奨設定はノーマルレイテンシーです。テクニカルカメラ、ビューカメラや特定のマニュアルのカメラで作業している場合にのみ、ゼロレイテンシーに変更してください。

7.9 イメージの方向

Credoデジタルバックは撮影した画像が縦位置か横位置かを自動で記録します。

「自動」では、デジタルバックに内蔵されたセンサーを利用して撮影時の縦横を判別し記録します。真俯瞰撮影など正しく縦横が自動で判断できない場合は、強制的に0、90、180または270の角度で記録することも可能です。



7.10 自動プレビューモード

自動プレビューはオン、オフが可能です。撮影直後に画像を確認するには、オンを選択します。同じ画面のまま撮影を続けるにはオフを選択します。

7.11 ディスプレイ

ディスプレイに関係するメニューには「明るさ」「ディスプレイ消灯時間」があります。

明るさ

液晶画面の明るさを周辺環境に合うように調整します。デフォルト設定は80%ですが、明るい屋外などの照明では、100%まで増加させることができます。スタジオなどの低照度環境での作業時、明るさを下げる選択をすることもできます。

明るさの設定を変更は、画面の明るさのみに影響します。露出警告、ヒストグラム、撮影された画像の露出には影響しません。

ディスプレイ消灯時間

5秒、20秒、1分、5分後にCredoデジタルバックのバックライトがオフになります。ディスプレイが常にオンになるように”常にオン”オプション を使用して設定することもできます。

7.12ビープ音

Leaf Credoデジタルバックで撮影をすると、次のショットの撮影準備が完了した合図にビープ音がなります。

このビープ音はシングル、マルチ、なしの3種類を選択することが可能です。初期設定ではシングルですが、周囲が騒がしい時には聞き取りやすいマルチ、また静かな環境でビープ音を鳴らしたくない場合はなしを選んでください。

7.13日付時間

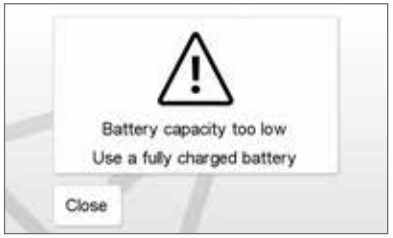
日付を合わせるには画面の数字を指でスクロールして正しい日付と時間を表示させます。数字を変えると画面下の中央に「セット」というボタンが現れるのでそれをタップして決定します。
設定した日付はEXIF情報に書き込まれます。

Leaf Credoデジタルバックが長時間使用されていなかった場合、内蔵時計がリセットされている場合があります。その場合、起動時に日付時間を入力するパネルが自動的に現れます。

7.14言語(L)

初期設定では英語になっていますが日本語も選択可能です。

Note: もし、このメニューで読むことができない言語が選ばれた場合でも、メニューの項目に(L)という文字がついていますので、それを目当てに言語を変更してください。



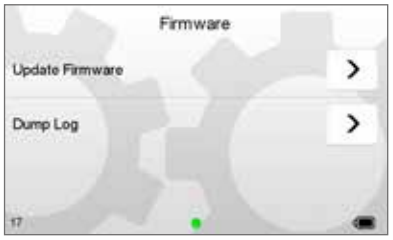
7.15 デフォルトに戻す

Leaf Credoデジタルバックを工場出荷時の設定に戻します。Okを押すと初期値に戻り、ユーザーの設定したセッティングがすべて初期設定に置き換わりますのでご注意下さい。

7.16 ファームウェア

ファームウェアを常に最新にすることによって、新しい機能の追加や不具合点の修正などLeaf Credoデジタルバックを最適な状態に保ちます。

1. ファームウェアアップデーターを下記よりダウンロードしてください
   www.mamiyaleaf.com/firmware.asp
2. ファームウェア（拡張子が.fwr）をコンパクトフラッシュ（CF）カードにコピーしてCredoデジタルバックにセットします。
3. ホームスクリーンからセットアップメニーを選びます。
4. スクロールして4枚目のメニューを探し「ファームウェア」から「ファームウェア　アップデート」を選びます。
   このときCredoデジタルバックのバッテリーはフルに充電されたものをお使いください。バッテリー残量が少ないと警告メッセージが表示されます。
   Okをタップしてアップデートを開始します。
5. プログレスバーが表示されアップデート中であることが確認できます。このときに、絶対にバッテリーを取り出さないでください。
6. 数分で完了したことを知らせる画面になり、Credoデジタルバックが自動的に再起動すればファームウェアアップデートは完了です。



ファームウェアリストア

この項目を選んで実行すると工場出荷時のファームウェアに戻ります（Credoデジタルバックをカメラから外して実行してください）。

ログを書き出す

Credoデジタルバックの動作状況をCFカードにログファイルとして書き出します。サポートで必要となる場合があります。

7.17 情報

Leaf Credoデジタルバックのハードウェアやファームウェアのバージョンを表示します。最新のファームウェアアップデーターが更新された場合などに、この項目をチェックしてアップデートが必要かどうか確認します。

スクロールすることで内部のファームウェアバージョンなど各種設定がチェックできます。

Mamiya
M UP
C
S
L

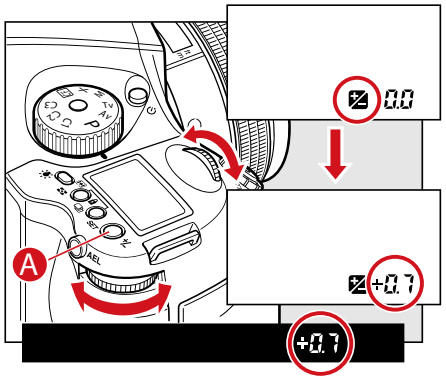
Notice:

露出補正機能を使用して写真を撮影した後は、必ず露出補正ダイヤルを0に戻してください。

露出補正機能は、AEロックがされている時使用可能です。

露出補正値の幅を変えることができます。

最大補正値は、±3もしくは±5のいずれかで設定することができます。



露出モード	露出補正時のディスプレイ表示	
P	プログラムAE	露出補正値
Av	絞り優先AE	
Tv	シャッター優先AE	
M	マニュアル	メーターとセットしした露出の誤差値
X	シンクロモード	表示なし

9.0 645DF+の高度な機能

9.1 露出補正

被写体と背景の明るさが著しく異なっているときや、画面全体が黒いものまたは白いものなど被写体の状況によっては露出不足（アンダー）や反対に露出過度（オーバー）になることがあります。また、意図的に露出オーバーまたは露出アンダーの作品を演出するときに露出補正を使用します。

Note: 露出オーバーや露出アンダーの画像は、Capture Oneのハイダイナミックレンジツールと露光ツールを用いて作成することもできます。

露出補正ダイヤルのアイコン ±

1. 露出補正ボタン Ⓐ を押すと外部液晶表示に“ ± ”が表示されます。

前ダイヤルまたは後ダイヤルを左に回すとプラス補正、右に回すとマイナス補正ができ、外部液晶表示またはファインダー内液晶表示で露出補正値を確認できます。

2. 撮影が終わったら、露出補正ボタン Ⓐ を押して露出補正値を“0.0”にします。外部液晶表示の露出補正マークが消えて、露出補正値が解除されます。

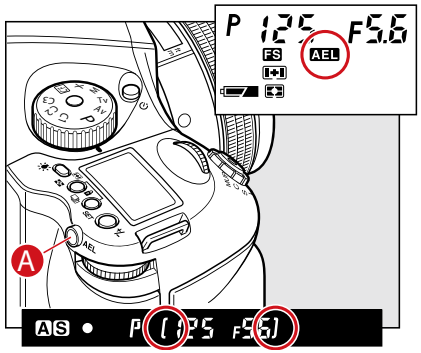
Notice:

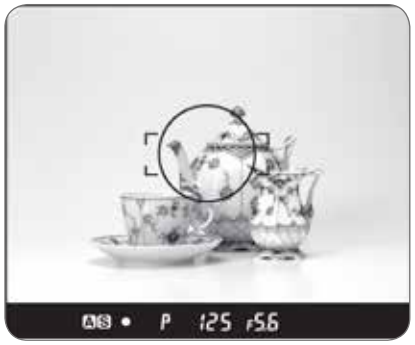
AE撮影を継続して行うと、ファインダー内液晶表示の[　　]表示が点滅し、AEロックが継続されていることを表します。

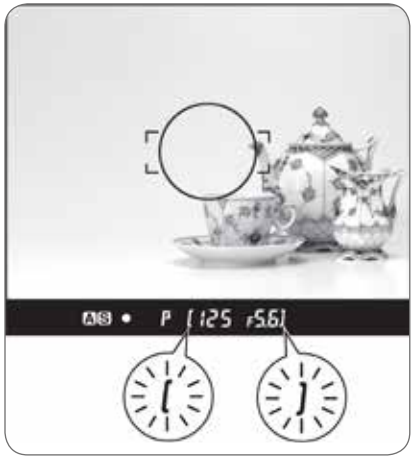
ドライブダイヤルを“L”（電源OFF）にするとAEロックは解除します。

露出モード“M”（マニュアルモード）、“X”（シンクロモード）ではAEロック撮影はできません

露出モード“M”（マニュアル）で測光値差表示がされているときにAELボタン Ⓐ を約1秒間押すとワンプッシュシフト機構が働き、測光結果にそったシャッター速度にシフトします。







9.2 AEロック撮影

AEロック撮影は、測光する被写体とピントを合わせる被写体が異なる場合や、撮影範囲の一部に部分測光モードなどで露出を合わせたいときに便利です。また、露出を変えないで連続撮影をする場合などにも使用できます。

AELボタンを押すと構図を変えても露出が変わらないようにロックできます。

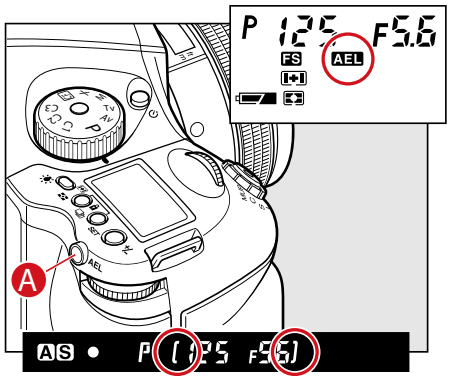
1. ドライブダイヤルを回して“S”もしくは“C”にします。

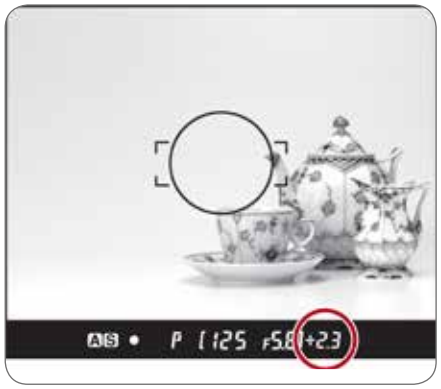
2. 露出もーのドダイヤルを回して“P”、“Av”、“Tv”のいずれかを選択します。

3. 測光する被写体にピントを合わせ、グリップ背面のAELボタン Ⓐ を押します。ファインダー内液晶のシャッター速度値と絞り値を囲むように[ ]が表示され、露出値が固定されたことを表します。

4. 撮影する構図にカメラを構え直し、シャッターを切ります。

5. AELボタン Ⓐ を押して、AEロックを解除します。





Notice:

AEロックの解除方法を変更することができます。C-11 AEL function lock/unlock mode [AEL]

シャッターボタンの半押しでAEロックが出来るように設定できます。AE lock mode. C-10 Release button [HALF]

AELボタンとAFLボタンの機能を入れ替えることができます。C-09 AEL & AFL button [AEFL]

通常撮影またはミラーアップでのAEロック撮影時にも露出補正およびオートブラケットが併用できます。

9.3 測光値差表示について

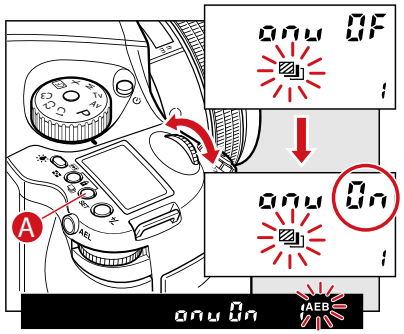
AELボタン Ⓐ を押し続けると、ファインダー内液晶表示に測光した露出値と構図を変えたときの露出との差が表示されます。
明暗差の大きな被写体などで、どの明るさの被写体まで再現できるかの目安になります。

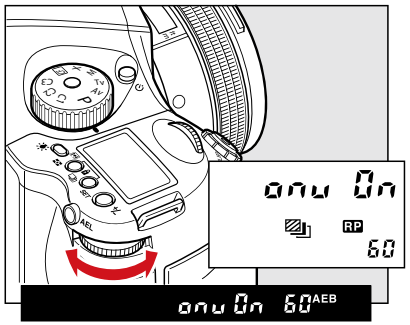
設定値と測光値の差が6EVを越えると、アンダーのときは“- u -”、オーバーのときは“- o -”の表示をファインダー内液晶表示に表示します。

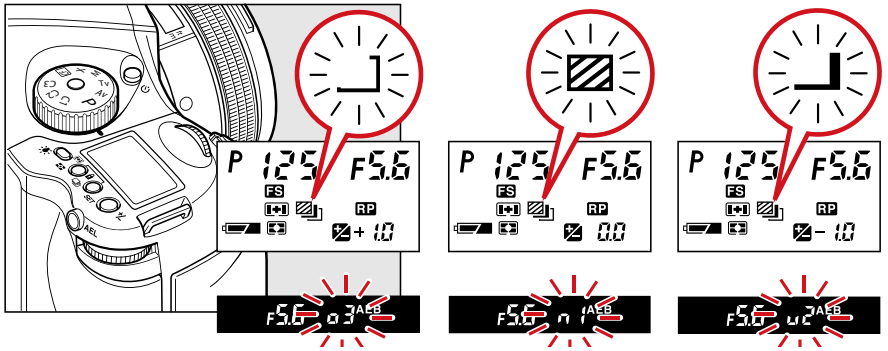
AEロック設定後に、前ダイヤルまたは後ダイヤルを回すと、AEロック設定時の露出量を変えずに絞り値およびシャッター速度を変えることができます。

露出モード“P”（プログラムAE）のときはプログラムシフト PH / PL に変化し、“Av”（絞り優先AE）、“Tv”（シャッター優先AE）では、それぞれシャッター速度、絞り値の組合せで変化します。

Notice:
オートブラケット撮影をOFFにする時は前ダイヤルで“On”の表示を“OF”に変更してください。







9.4　オートブラケット撮影

露出補正値の決定しにくい被写体を撮影するときや適正露出での撮影以外に少しずつ露出を変えて撮影する場合（適正露出、アンダー、オーバー）に使用します。

1. ドライブダイヤルを“S”または“C”にします。
“S”にすると1コマ撮影になり、1コマずつシャッターボタンを押して撮影します。“C”にすると連続撮影となり、シャッターボタンを押すと3コマ連続して撮影されます。

2. オートブラケットモードボタン Ⓐ を押してオートブラケットモードにします。
外部液晶表示にオートブラケットモードマークがf点滅表示します。オートブラケットモードマークが点滅中に前ダイヤルを回して“On”にします。

3. シャッターボタンを押して撮影します。
オートブラケット撮影中は、シャッターボタンを半押しするとファインダー内液晶表示に撮影順序とオートブラケットマークが点滅表示します。また、外部液晶表示は、オートブラケットマークの点滅とブラケットのステップ幅が表示され、撮影順序の確認ができます。

4. オートブラケットモードを撮影せずに無効にする
オートブラケットボタン Ⓐ を押し、前ダイヤルを回して“On”の表示を“OF”にします。通常の表示に戻るには、オートブラケットボタン Ⓐ もしくはシャッターボタンを半押しします。

AE Settings Under Auto Bracketing Mode

	露出モード	内容
P	プログラムAE	シャッター速度が変化
Av	絞り優先AE	シャッター速度が変化
Tv	シャッター優先AE	絞り値が変化
M	マニュアル	シャッター速度が変化
X	シンクロモード	設定できません

Notice:

露出補正を行うと補正値を加えた露出値でオートブラケット撮影が可能です。

1コマ撮影(S)の場合

1コマごとにシャッターボタンを押して撮影します。
撮影中は、露出値を固定せずそのつど測光を続け測光値に対してオートブラケット(自動段階露出)をします。

連続撮影(C)の場合

シャッターボタンを押すと設定したオートブラケットコマ数を撮影して停止します。シャッターボタンを押すことにより繰り返し撮影を行います。基準となる露出値は1コマ目を撮影するときに固定されます。

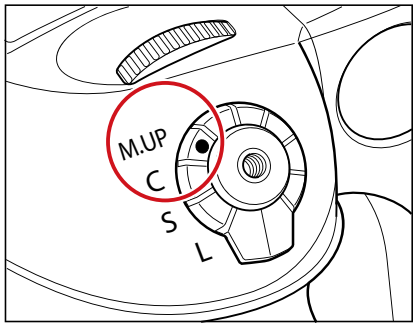
※オートブラケット撮影中に記録容量がオートブラケット設定枚数より少なくなると、オートブラケットアイコンが点滅し自動的にオートブラケットモードを解除します。

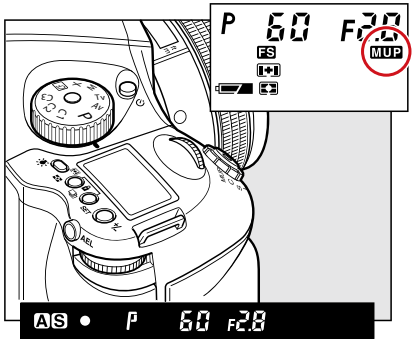
Notice:

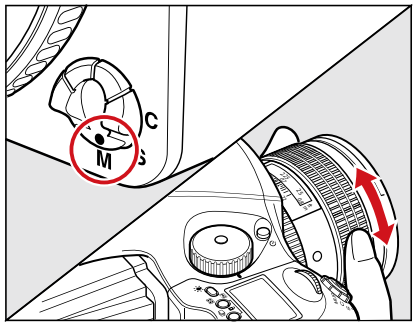
ミラーアップ撮影時に、オートブラケットモードを設定するとオートブラケット撮影ができます。

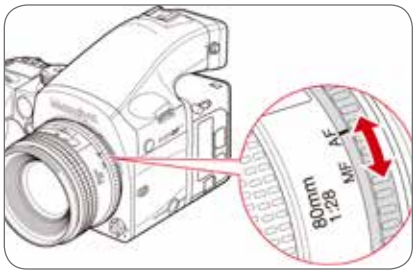
ミラーアップ状態を保持し続けると測光保持時間終了後、ミラーアップ撮影が解除されます。

ミラーアップ撮影中にレンズを取り外すとミラーアップが解除されます。









WARNING:

ミラーアップ状態のときに、太陽にレンズを向けて放置すると、レンズより射し込んだ太陽光が焦点を結び、シャッター幕が破損するおそれがあります。

9.5 ミラーアップ撮影

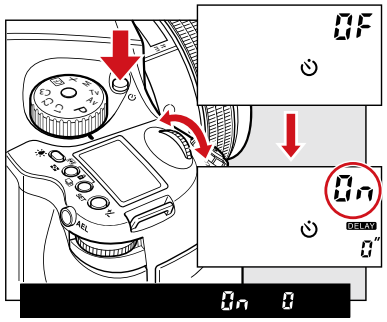
あらかじめミラーを上げておき、撮影のときはシャッターのみを作動させるため、スローシャッターでの撮影や望遠レンズでの撮影、接写、複写の撮影などで、わずかなショックでも避けたい場合に使用します。
カメラブレを防ぐために別売の電磁ケーブルレリーズRE401と三脚を併用してください。

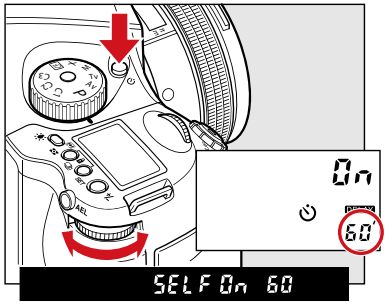
1. ドライブダイヤルを“M.UP”にします。
2. フォーカスモード切り替えレバーを“S”（シングルフォーカスモード）にします。
3. 露出モード設定ダイヤルを回して、“P”（プログラムAE）、“Av”（絞り優先AE）、“Tv”（シャッター優先AE）のいずれかを選択し、好みのシャッター速度または絞りをセットします。
4. ファインダーをのぞいて、シャッターボタンを半押ししてピント、構図を決めます。
5. シャッターボタンを全押しするとミラーが上がります。
6. もう一度シャッターボタンを押して撮影します。

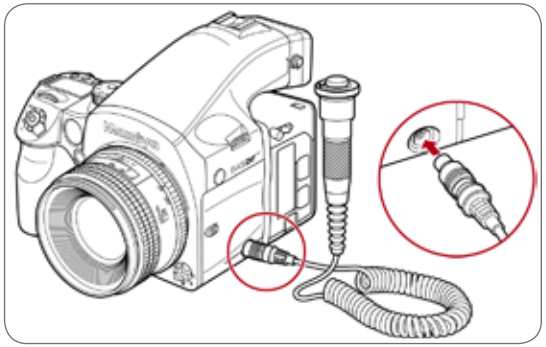
マニュアルフォーカスの場合

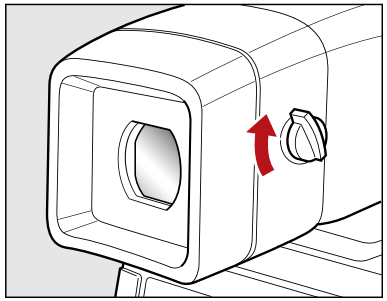
操作手順はオートフォーカスを使用した手順3.までは同じです。

4. フォーカスモード切り替えレバーを“M”（マニュアルフォーカスモード）にします。
5. ファインダーをのぞきながら、シャッターボタンを半押しして測光、ピント、構図を決めます。
6. シャッターボタンを全押ししてミラーを上げます。
7. もう一度、シャッターボタンを押して撮影します。









9.6 ミラーアップディレイ撮影

ミラーアップ設定後、セルフタイマーを設定してシャッターボタンを押すとまずミラーが上がり、設定した時間後にシャッターが切れる撮影方法です。別売の電磁ケーブルレリーズRE401等がない場合にカメラブレの防止になります。

操作手順は、オートフォーカスを使用した手順3.までは同じです。

4. セルフタイマーボタンを押し、前ダイヤルを回して“On”にします。
5. 後ダイヤルを回して、作動時間を設定します。0.5秒、1～10秒は1秒ごと、10秒～90秒は10秒ごと、2分～10分は1分ごと、10分～60分は10分ごとに設定できます。
6. ファインダーをのぞいて、シャッターボタンを半押ししピントと構図を決定します。
7. シャッターボタンを全押しするとミラーが上がり、セルフタイマーが動作します。設定した時間後にシャッターが切れ、ミラーが戻ります。

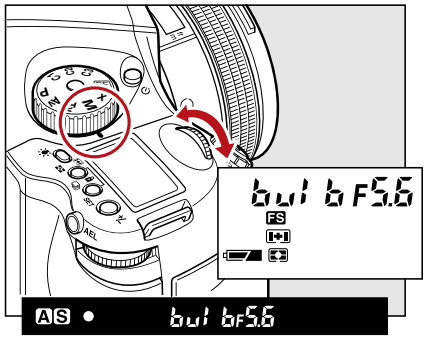
補助レリーズ接点

ミラーアップ撮影、長時間露光、低速シャッター撮影などは、別売の電磁ケーブルレリーズRE401や遠隔撮影のリモートコントロールRS402を使用します。補助レリーズ接点は、これらの付属品を使用するときのコード差し込み口です。
使用する場合は、補助レリーズ接点カバーを取り外してください。取り外したカバーは紛失しないように保管してください。

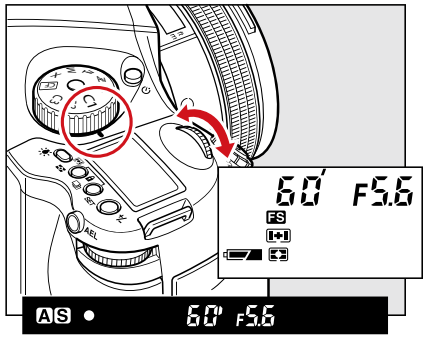
アイピースシャッター

カメラの後に明るい光源があるときやファインダーをのぞかずにシャッターボタンを押すときに使用します（ファインダーからの入光による露出誤差を防ぎます）。

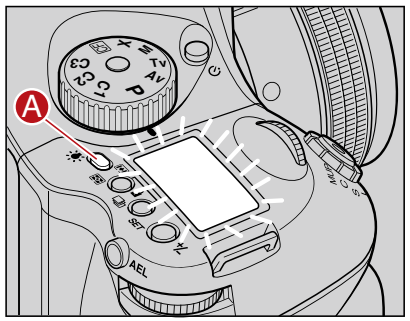
Notice:
bulb（バルブ）撮影は電子制御のため、撮影中も電池を消耗します。新しい電池と交換し、撮影してください。



Notice:
tIME（タイム）を設定すると、シャッターボタンを押すごとにシャッターの開閉を繰り返します。
tIME（タイム）撮影は電子制御のため、撮影中も電池を消耗します。新しい電池と交換し、撮影してください。



Notice:
バックライトをONにしているときにシャッターボタンを押したりバックライトボタン Ⓐ を押すとバックライトはOFFになります。



9.7 長時間露出撮影

30秒より長い時間の露光をする時は、シャッター速度を“bulb”（バルブ）にします。カメラブレを防ぐために、別売の電磁ケーブルレリーズと三脚を併用してください。

1. 露出モードダイヤルを回して“M”（マニュアル）にします。

2. 前ダイヤルを回して、“blub”（バルブ）を選択し、後ダイヤルを回して絞りを設定します。

3. 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。シャッターボタンを押している間、シャッターは開いたいます。

長時間露出の設定

bulb（バルブ）撮影以外にも長時間の設定が可能です。

前ダイヤルを回して、撮影時間を設定します。
設定時間は1、bulb（バルブ）、tIME（タイム）、2、4、8、15、30、60分です。

9.8 バックライトボタン

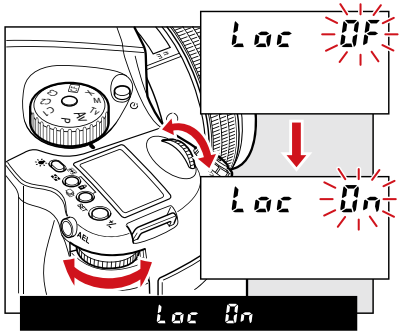
夜景や暗い場所での外部液晶表示の確認は、バックライトボタン Ⓐ/☼ を押します。バックライトは、無操作のとき約20秒間点灯します。

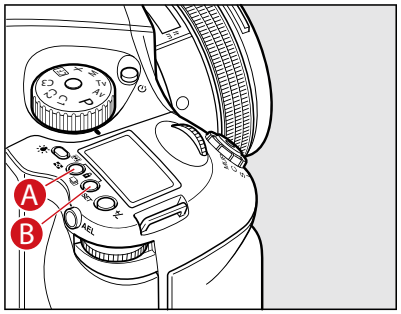
Notice:

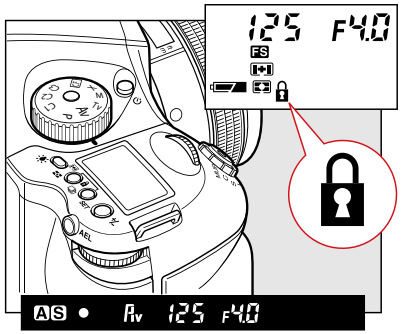
1秒経過すると自動的に登録されます。

露出モードが“P”（プログラムAE）のときは、ダイヤルロックを設定していてもロックしません。

ダイヤルロック設定中でも、各種設定時には前ダイヤルまたは後ダイヤルの使用が可能です。







9.9 前·後ダイヤルロックの設定と解除

露出モードが“Av”（絞り優先AE）、“Tv”（シャッター優先AE）、“M”（マニュアル）、“X”（シンクロモード）のとき、設定したシャッター速度や絞り値を固定したいときに設定します。

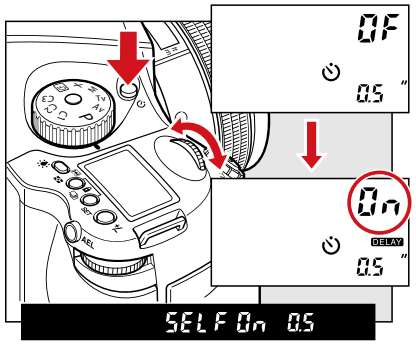
測光モードボタン Ⓐ とオートブラケットモードボタン Ⓑ を同時に約1秒間押し、“On”を点滅表示させます。

解除するときは、設定方法と同じように操作して“OF”を点滅表示させます。

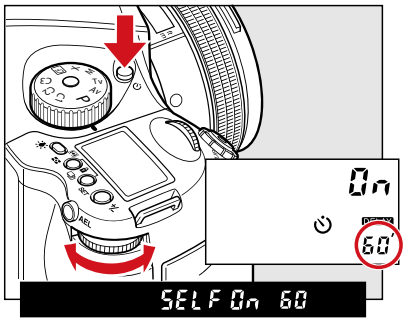
ダイヤルロックが設定されると外部液晶表示にダイヤルロックアイコンが表示されます。

設定すると前ダイヤルまたは後ダイヤルを回してもシャッター速度や絞り値は変化しません。

Notice:
セルフタイマーモードを作動中に解除するには、電源OFF(ドライブダイヤルを“L”)にすると解除されます。



Notice:
セルフタイマー設定後、ドライブダイヤルを“M.UP”(ミラーアップモード)にするとミラーアップディレイ撮影ができます。



9.10 セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから、設定した時間後にシャッターが切れます。セルフタイマーランプが点滅し、シャッターの切れる3秒前は点滅が早くなりシャッターが切れます。記念写真な撮影者自身も一緒に写りたいときに便利です。

1. 撮影するときは、カメラを三脚にしっかり固定してください。
2. セルフタイマーボタンを押して、セルフタイマーモード にします。
3. 前ダイヤルを回して、セルフタイマーモードを“On”にします。
4. 後ダイヤルを回して、作動時間を設定します。0.5秒、1～10秒は1秒ごと、10秒～90秒は10秒ごと、2分～10分は1分ごと、10分～60分は10分ごとに設定できます。
5. ファインダーを見て構図を決め、ピントが合っていることを確認してからシャッターボタンを押すとシャッターが切れます。

セルフタイマーモードの解除

1. セルフタイマーボタンを押して、セルフタイマーモードにします。
2. 前ダイヤルを回して“OF”にします。

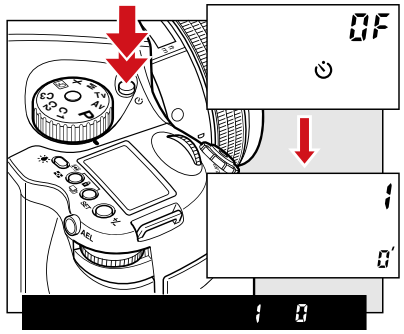
Notice:

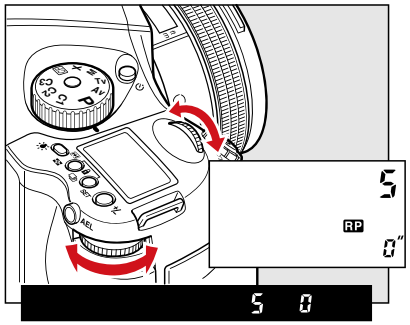
リピート回数（繰り返し回数）は、外部液晶表示にカウントダウン表示します。

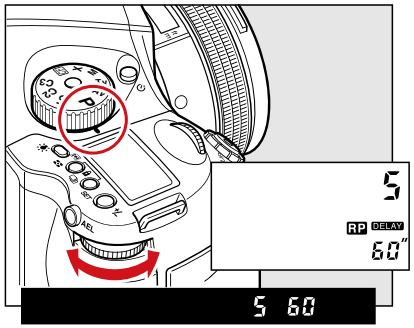
インターバルモードを作動中に解除するには、電源OFF（ドライブダイヤルを“L”）にしてください。また、ドライブダイヤルを“M.UP”の位置にするとミラーアップディレイ撮影が可能です。ミラーアップディレイ撮影中は外部液晶表示に“AEL”が表示されます。

オートブラケット撮影時にインターバル併用撮影はできません。

カメラの後に明るい光源があるときやファインダーをのぞかずにインターバル撮影を行うときは、アイピースシャッターを閉じてください。







9.11 インターバル撮影

設定した繰り返し回数とインターバル時間で自動的に撮影をすることができます。雲の動きや昆虫のふ化する様子などの定点撮影が可能です。

1. 撮影するときは、カメラを三脚にしっかりと固定してください。

2. セルフタイマーボタンを2度押ししてインターバルモードにすると外部液晶表示に“I”が表示されます。

3. 前ダイヤルを回して、リピート回数を設定します。2回から10回までは1回ごと、10回から60回までは10回ごと、もしくは“On”（無制限）に設定可能です。

4. 後ダイヤルを回して、インターバル時間を設定します。0秒（インターバル時間なし）、1秒から10秒までは1秒ごと、10秒から90秒までは10秒ごと、2分から10分までは1分ごと、10分から60分までは10分ごとに設定できます。

5. ファインダーを見て構図を決め、ピントが合っていることを確認してからシャッターボタンを押すとシャッターが切れます。

6. 作動後インターバルモード設定は自動的に解除されます。

インターバルモードの解除

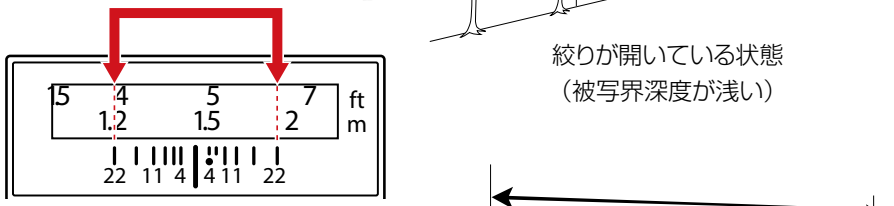
1. セルフタイマーボタンを2度押してインターバルモードに入ります。

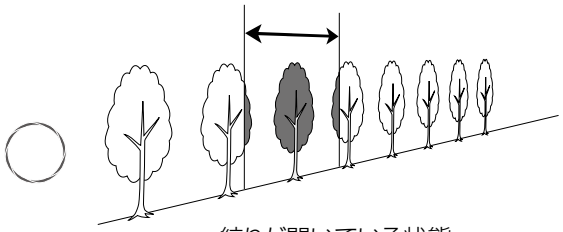
2. 前ダイヤルを回して“OF”にします。

9.12 被写界深度

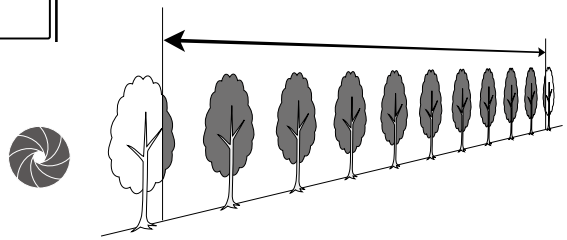
ピントを合わせた距離の前後にも、鮮明に写る範囲があります。この範囲が被写界深度です。被写界深度はレンズの絞りを絞るほど深くなり、絞りを開くほど浅くなります。

被写界深度目盛りには左右一対の絞り数値が表示されています。一対の絞り数値の間の距離が被写界深度を表します。

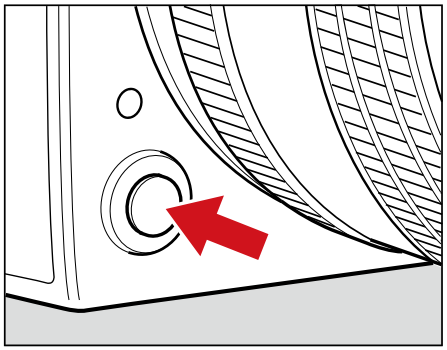




絞りが開いている状態
（被写界深度が浅い）



絞りが絞り込まれている状態
（被写界深度が深い）

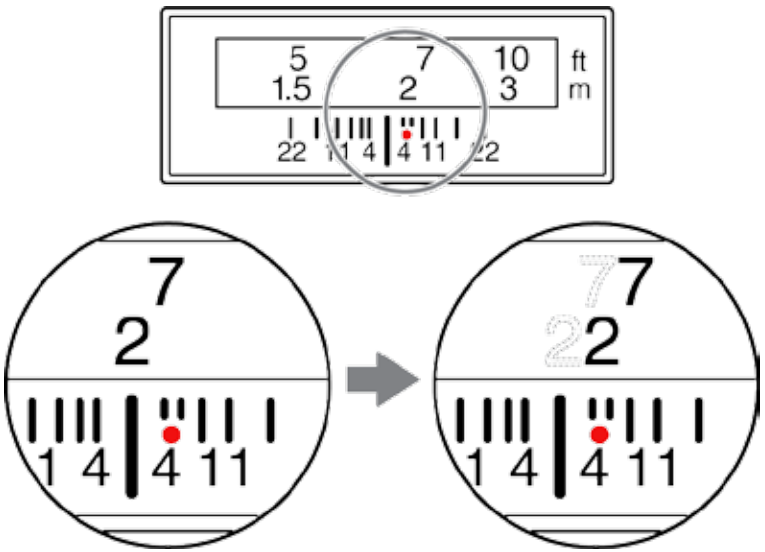


プレビュー機能

プレビューボタンを押し込むと、カメラが設定した絞り値の被写界深度（ピントの合う範囲）をファインダー上で確認できます。

ピントを合わせた後、プレビューボタンを押し込むと設定された絞り値まで、絞りが絞り込まれます。

Notice:
プレビューボタン操作中、シャッターは切れません。



Notice:
赤外撮影ではAE撮影はできませんthe AE is based on visible light.

9.13赤外撮影

デジタルバックは可視光での使用を前提に調整されています。そのままでの赤外撮影は困難です

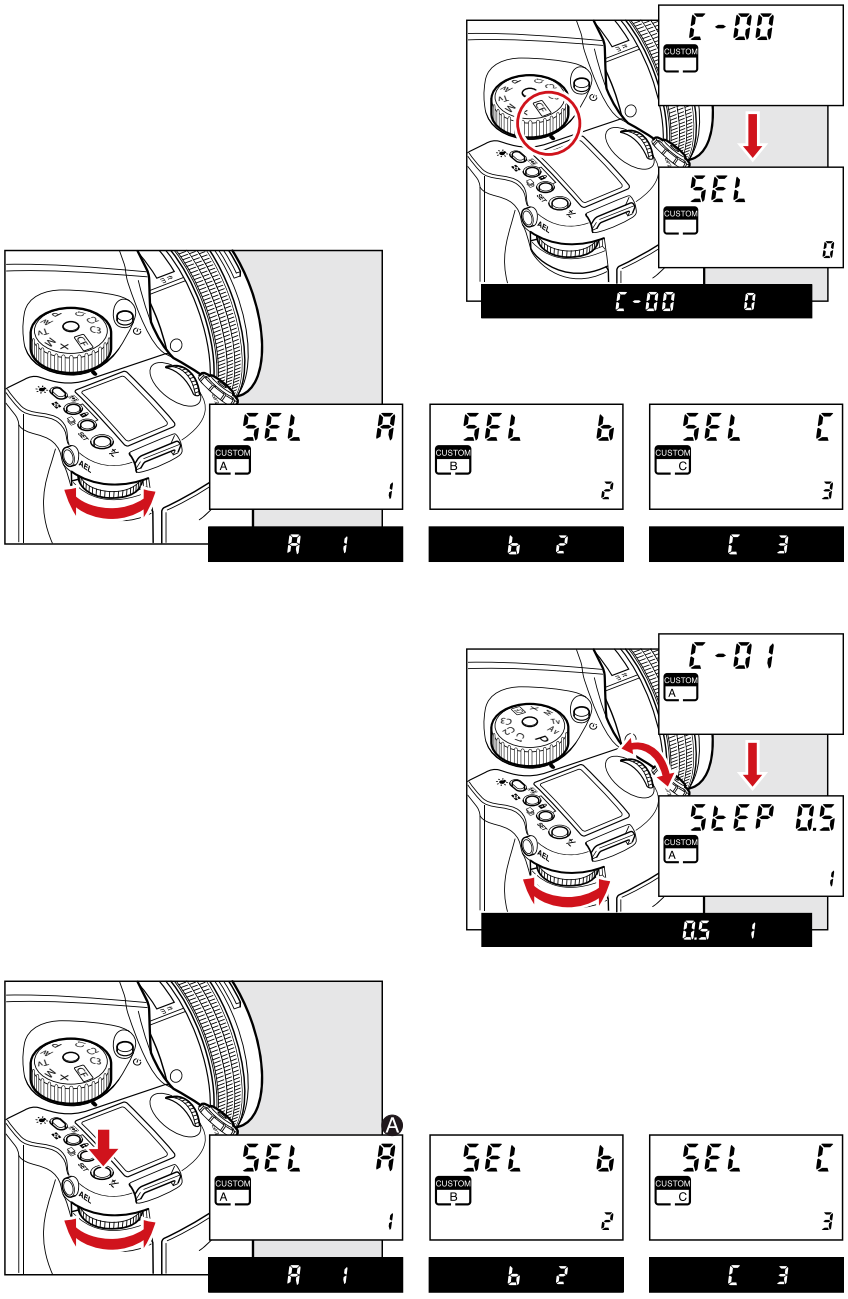
赤外撮影をする場合は専用のデジタルバックが準備されています。ピント位置の調整等が必要なため,単にIRフィルターを取り外しても正しく撮影できません。

精度を要求する作業が必要なため、IRフィルターの着脱については PHASE ONE社で行う必要があります。また、ご自身で取り外された場合は 保証対象外となりますのでご注意下さい。

赤外撮影をご検討の方はお近くの販売店様にご相談下さい。

また、レンズの距離指標は可視光の設定になっています。赤外撮影時には赤いドット分ピント位置をずらして撮影して下さい。

カメラ内の露出計は可視光を読み取るように設計されているため、赤外撮影時は使用できません。



9.14 カスタムファンクション

カスタムファンクション設定は,カメラの機能を撮影目的に合わせた使用方法や撮影者の好みに合わせて設定できる機能です。カスタムファンクション の設定は、A·B·Cの3つまで登録でき、屋内用、屋外用、ポートレート用など、撮影に合わせた設定が登録できます

C-00は初期設定(デフォルト)です。カスタムファンクションの設定は出来ません。

設定方法

1. 電源をONにします。
2. ドライブダイヤルを“S”もしくは“C”にします。
3. 露出モード設定ダイヤルを回して、“CF”(カスタムファンクションモード)にします。
4. 後ダイヤルを回してバンク(A·B·C)を選択します。
5. 前ダイヤルを回して設定したいカスタムファンクション番号を選びます。

カスタムファンクションをすべてリセットするには

露出モードダイヤルをCFに設定して5秒間+/-ボタンを押すと、すべてのカスタムファンクションが工場出荷時のデフォルトへリセットされます

ユーザーファンクションの初期化

1. 露出モードダイヤルを回して、“CF”(カスタムファンクションモード)にします。
2. 後ダイヤルを回して、初期化したいバンクA·B·Cを選択します。
3. SETボタンを長押し(1秒以上)するとバンクA、BまたはCに設定されていた項目がすべて初期設定(デフォルト)に戻ります。

Note: カスタムファンクションはCredoデジタルバックのメニューから簡単に行うことが可能です。

9.15 カスタムファンクションの種類と内容

C-00 カスタムファンクション　バンク設定[SEL]

0: None (default=0)
1: A
2: B
3: C
“0”を選択した場合はカスタムファンクションの設定は出来ません。初期設定(デフォルト)のみの使用となります。0: None (default=0)

C-01 露出値/補正値ステップ幅 [StEP]

シャッター速度、絞り値、露出補正値のステップ幅を設定します。
0: 0.3 (1/3EV step: 初期設定)
1: 0.5 (1/2EV step)
2: 1.0 (1EV step)

C-02 レンズ絞り値保持 [IrIS]

レンズ交換時、交換したレンズの絞り値がどう設定されるかを選びます。初期設定は“する”で、交換前のレンズ絞り値を表示します。
0: する(前の絞り値:初期設定)
1: 絞り開放
2: 最小絞り

C-03 スリープタイマー [HOLd]

カメラの電源を入れてから無操作状態が続くとスリープするまでの時間を設定します。初期設定は15秒です。
0: 15 秒
1: 30 秒
2: 60 秒
3: On
On(スリープしない)に設定した場合は、電池の消耗にご注意下さい。

C-04 バッテリータイプ [batt]

外部液晶表示パネルのバッテリー残量表示を正しく表示させるため使 用するバッテリーのタイプを設定します。
0: 一次電池(アルカリマンガン電池、リチウム電池:初期設定)
1: 二次電池(ニッケル水素電池、ニッカド電池)
2: 二次電池(リチウムイオン電池)

C-05 オートブラケット回数 [Stno]

オートブラケット撮影時の撮影回数を設定します。
0: 3(初期設定)
1: 5
2: 7

C-06 Mモード時前後ダイヤルの入れ替え [dF]

M(マニュアル)モード時の前後ダイヤルを入れ替えます。
0: 前ダイヤル:シャッター速度 / 後ダイヤル:絞り値
1: 前ダイヤル:絞り値 / 後ダイヤル:シャッター速度

C-07 モード副ダイヤル機能停止 [d_AC]

初期設定ではPモード時の後ダイヤルは前ダイヤルと同等の機能を割り当てられているが、それを解除します。
0: しない(初期設定)
1: する

C-08 ダイヤル回転方向切替 [d_dI]

シャッター速度、絞り値、露出補正の電子ダイヤルの回転方向(数値の増減 方向)を決定します。
0: CW: しない(左:減少 右:増加)[OF] 初期設定
1: CW: する(左:増加 右:減少)[On]

C-09 AEL / AFLボタンの入れ替え [AEFL]

前後のAEL/AFLボタンの機能を入れ替えます。
0: しない (前: AFL, 後: AEL) [OF]
1: 入れ替え (前: AEL, 後: AFL) [On]

C-10 シャッターボタン半押し時AEロック･AFロック動作 [HALF]

シャッターボタン半押し時のAEロック･AFロック動作を設定します。
0: AF 動作(初期設定)
1: AF & AE 動作
2: 機能なし

C-11 AEL(AEロック)設定方法 [AEL]

AELボタンを操作してAEロックする方法を設定します。初期設定"0"(1回で解除)ではAEロックを操作した後にシャッターを切ると解除します。"1"(する)ではAELボタンを押すとAEロック、もう一度押すとAEロックが 解除されます。"2"(しない)ではAEロックボタンを押下中AEロックに設定されます。

0: 1回で解除 初期設定

1: 維持する

2: 押下中のみ維持

C-12 AFロック方法の設定 [AFL]

AFLボタン操作時のAFロックの方法を設定します。AFLボタンを押すとAFロックする方法と、AF動作してAEロックしAEロックする方法から選択します

0: する(AFロックのみ) 初期設定

1: する(AF動作/AEロック)

2: 再押しで解除

C-13 ワンプッシュシフト動作 [OnEP]

M(マニュアルモード)時のワンプッシュシフト動作をシャッター速度でするか絞り値でするかを設定します。

0: シャッター速度をシフト [tv] 初期設定

1: 絞り値でシフト [Av]

2: しない[no]

C-14 AF補助光 [AF_L]

被写体が暗いときに自動的にAF補助光が発光し、AF動作を行います。

0: する [On] 初期設定

1: しない [OF]

C-15 後幕シンクロ [FLSY]

動きのある被写体をストロボ撮影するとき初期設定では被写体の動く先に光の光芒が現れますが、光芒を被写体の後ろに写し込むように設定できます。

0: 先幕シンクロ 初期設定

1: 後幕シンクロ

C-16 ブザー [bu]

SETボタンを押す等の動作によりブザーが鳴ります。

0: AF合焦時オン 初期設定

1: オン

2: オフ

C-17 作動シャッターの選択(P・Av・Tvモード時) [Sh_P]

P・Av・Tvモード時、レンズシャッターを装着していてもフォーカルプレーンシャッターでの撮影に切り替えることができます。

0: 自動切り替え(最高1/800秒) 初期設定

1: レンズシャッターのみ

2: フォーカルプレーンシャッターのみ

C-18 作動シャッターの選択(M・Xモード時) [Sh]

P・Av・Tvモード時、レンズシャッターを装着していてもフォーカルプレーン シャッターでの撮影に切り替えることができます。

0: 自動切り替え 初期設定

1: レンズシャッターのみ

2: フォーカルプレーンシャッターのみ

C-19 AF制御[AF_2]

オートフォーカスの速度優先(初期設定)もしくは精度優先を決定します。

0: 速度優先

1: 精度優先

C-20 AF微調整

ピントの微調整を行うことが可能です。カスタムファンクションのバンクA、B、C共通の設定となります。

50: 初期設定

1～49: 前方へ移動

51～99: 後方へ移動

C-97 デジタルバック識別

0: マミヤZDバック以外のデジタルバック 初期設定

1: マミヤZDバック

C-98 レンズファームウェアバージョン

現在のバージョンが確認できます。

C-99 ボディファームウェアバージョン

現在のバージョンが確認できます。

Liquid Crystal Display

Due to the limitations of the space and letters, words and letters on the LCD are abbreviated.

Display examples of the main LCD

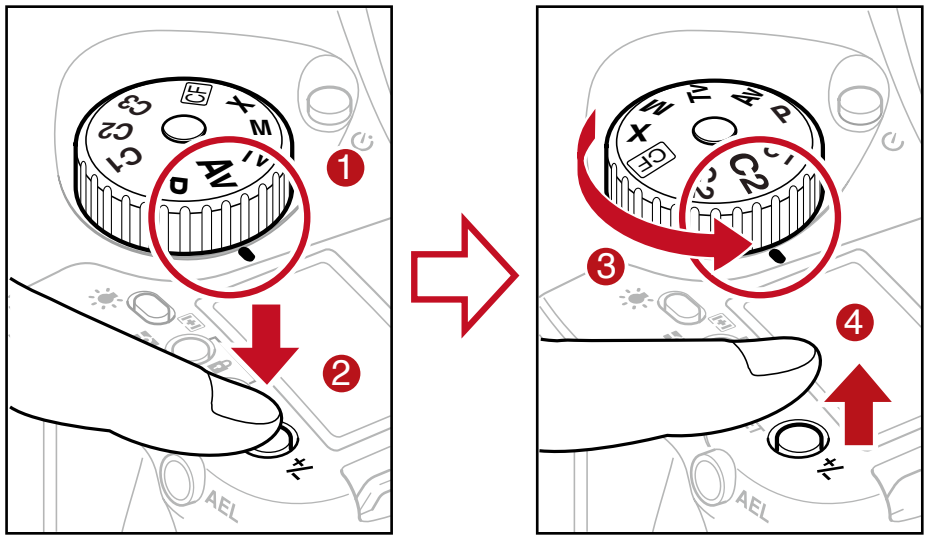
On	ON
OF	OFF
Err	Error
+	+ (Plus)
u	Under
o	Over
n	Normal
Loc	Lock
SELF	Self Timer
bulb	bulb
buSY	Busy
db	Digital Back
LS	Lens Shutter
CAP	Capture
rP	Repeat
TIME	Time
bAtt	battery

Display examples in the custom function mode

SEL	Selection
StEP	Step
Iris	Iris
HOLd	Hold
bAtt	battery
Sno	Shot No.
dF	Dial function
d_AC	Dial action
d_di	Dial direction
AEFL	AE, AF lock
HALF	Half press
AEL	AE lock
AFL	AF lock
OnEP	One-push exposure
AF_L	AF assist light
FLSY	Flash sync
bu	Buzzer
Sh_P	Shutter in Program
Sh	Shutter in Manual
AF_2	AF second mode

カスタムファンクション設定一覧

No.	項目	(0)初期設定	1	2	3
C-00	ユーザーファンクション設定		A	B	C
C-01	露出値、補正値ステップ幅	1/3 EVステップ	1/2EVステップ	1 EV ステップ	
C-02	レンズ絞り値保持設定	する	開放	最小	
C-03	測光保持時間	15秒	30秒	60秒	ON
C-04	使用電池	アルカリ	NiMH·NiCD	Lithium-Ion	
C-05	オートブラケット段数	3	5	7	
C-06	Mモード前後ダイヤル入れかえ	前:Tv　後:Av	前:Av　後:Tv		
C-07	Pモード副ダイヤル機能停止	しない	する		
C-08	ダイヤル回転方向	しない(左:現象　右:増加)	する(左:増加　右:減少)		
C-09	AEL / AFLボタン入れ替え	しない	する		
C-10	シャッターボタン半押し時 AE、AFロック動作	AF動作	AF動作 / AEロック	機能なし	
C-11	AEロック方法	する(1回で解除)	する(維持する)	ボタン押下中	
C-12	AFロック方法	ボタン押下中	AF動作後ロック	する(維持する)	
C-13	ワンプッシュシフト動作	シャッター速度をシフト	絞り値をシフト	しない	
C-14	AF補助光	する	しない		
C-15	後幕シンクロ	しない	する		
C-16	ブザー	AF合焦時ON	ON	OFF	
C-17	作動シャッター選択 (P、Av、Tv)	自動切り替え	レンズシャッターのみ	フォーカルプレーンシャッターのみ (レンズシャッター装着時)	
C-18	作動シャッター選択 (M)	自動切り替え	レンズシャッターのみ	フォーカルプレーンシャッターのみ (レンズシャッター装着時)	
C-19	AF制御	高速制御	高精度制御		
C-20	AF微調整	50:(デフォルト) 1～49:(前方へ移動) 51～°99(後方へ)移動			
C-97	デジタルバック認識	ZDバック以外	Mamiya ZDバック		
C-98	レンズファームウェアバージョン				
C-99	ボディファームウェアバージョン				



※イラストは、露出モード“Av”（絞り優先AE）で設定した内容をC2モードへ記憶させる例

Notice:
電源をOFFにしても“C1”、“C2”または“C3”モードに記憶させた設定は保持します

9.16 C1、C2、C3モード

モードダイヤル“C1”・“C2”・“C3”に各種設定を記憶させて、瞬時にその設定条件で撮影することができるモードです。

記憶できる項目は露出モード“P”（プログラムAE）、“Av”（絞り優先AE）、“Tv”（シャッター優先AE）、“M”（マニュアル）、“X”（シンクロモード）、フォーカスエリア、測光モードです。

記憶方法

1.“C1”、“C2”または“C3”モードに記憶させたい設定をカメラにセットします。

2.SETボタンを1秒以上押し記憶させる表示がでたらSETボタンを押したまま、モードダイヤルを“C1”、“C2”または“C3”に回して、AETボタンから指を離します。

“C1”、“C2”または“C3”モードで撮影中の設定内容の変更が可能です。ただし、“C1”、“C2”または“C3”モード以外で撮影した後、再度、“C1”、“C2”または“C3”に回しても設定内容は変更されません。

9.17 ハッセルブラッドVレンズ用マウントアダプター

PhaseOneカメラはフォトグラファーが創造的な作品を作ることができるようにいろいろな種類のレンズがマウント可能です。そのためにハッセルブラッドVレンズ用のアダプターが準備されています。フルマニュアルの操作と なりますが、サードパーティーから発売されているハッセルブラッドV対応レンズを使用することが可能です。

注意:サードパーティ製品が原因のエラーや損傷は保証の対象外とされています。

9.18 マウントアダプターの取り付け

マウントアダプターをセットするには、マウント上の白いドットとカメラの白いドットを一致させ、ゆっくりと時計回りに回します。このとき無理に力を加えないようにていねいに扱ってください。

このマウントアダプターはCarl Zeiss/Hasselblad V、そしてHasselblad 200シリーズのレンズを使用することができます。

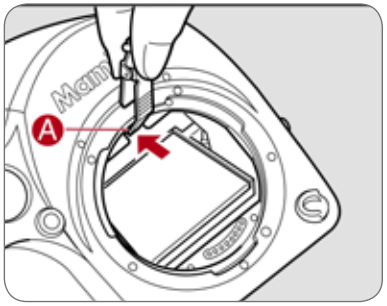
Notice:

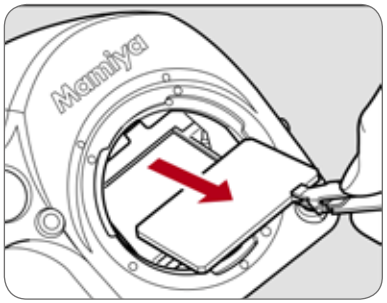
ファインダースクリーンはアクリル樹脂で出来ているため、柔らかく傷がつきやすいので取り扱いは十分に注意して下さい。

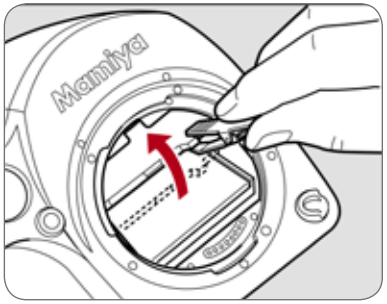
ファインダースクリーンに指紋や汚れがついたときは、きれいな柔らかいガーゼで拭き取って下さい。溶剤は使用しないで下さい。また、ゴミの付着の場合はブロアーで吹き飛ばすようにして下さい。

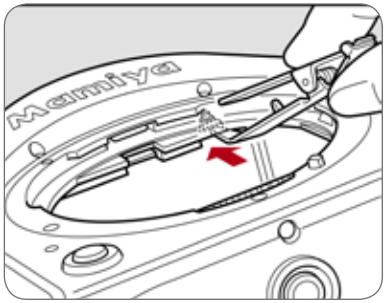
ナフタリンやホルマリン等化学薬品のガス が発生する場所に長時間放置すると、ファインダースクリーンに悪影響を与えますので注意して下さい。

交換時にミラーに触れたり傷を付けないよ うにご注意下さい。









10.0メンテナンス

Phase One 645DF+は、特別なメンテナンスは必要ありませんが、制度を要求されるツールであるため細心の注意を払って扱って下さい。何らかの理由でカメラが長期間使用されていない場合は、必ず撮影の前にテスト撮影を行うことをお勧めします。

頻繁に使用される製品は、ぜひ定期的に点検するよう、お願いします。また、カメラ、レンズやデジタルバックに万が一不具合が見つかった場合、絶対にご自分で修理しようとせず、お近くの販売店にご相談ください。

10.1 ファインダースクリーンの交換

1. デジタルバックがカメラに装着されている状態で、ドライブダイヤルを“L”（電源OFF）にしてレンズを外します。

2. カメラ前上部のスクリーン脱着レバー Ⓐ をスクリーン取り出しピンセットの先端で押し上げると、ファインダースクリーンが降りてきます。

3. スクリーン取り外しピンセットで、スクリーンの突起部をはさんで、キズつけないように取り出します。

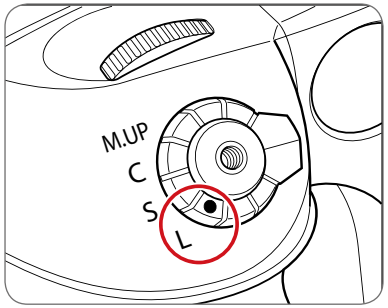
4. 使用するスクリーンの突起部をスクリーン取り外しピンセットではさんで、スクリーン取り付け枠に乗せます。

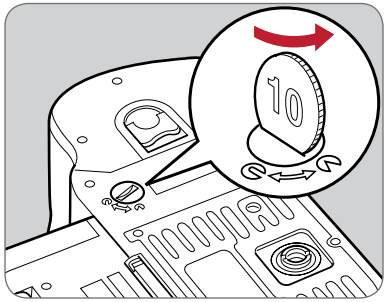
5. スクリーン取り外しピンセットの先端でスクリーン取り付け枠の突起部をカチッと音がするまで持ち上げると、ファインダースクリーンがボディに固定されます。

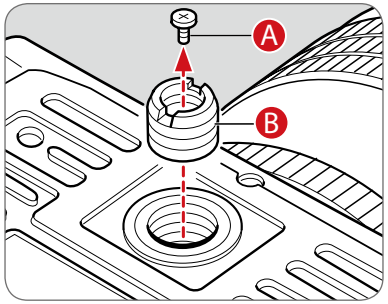
Notice:

保温バッテリーソケット使用時は、グリップ部分のバッテリーソケットには電池を入れないで下さい。

保温バッテリーソケット使用時にグリップ部分のバッテリーソケットにバッテリーが入っていると、発熱することがあります。







10.2 バッテリーについて

カメラやバックを長い期間使用する予定がない場合は、ソケットに電池を放置しないでください。接続面は常に清潔で乾燥した状態に保管してください。

保温バッテリーソケット

電池性能が低下する寒冷地など気温の低い場所での撮影に保温バッテリーケースPE401（別売）を使用します。

1. ドライブダイヤルを“L”（電源OFF）にします。
2. キャップを外します。
   硬貨などを使用して保温バッテリーソケットのキャップを外します。
3. ボディから電池を取り外します。
   バッテリーケース取り外しツマミを回して、ボディからバッテリーケースを取り出し、電池を外します。
4. 保温バッテリーケースPE401をボディに接続します。
   電池の入った、保温バッテリーケースの接続コードプラグをソケットに差し込みます。
5. 電池を外したバッテリーケースを募のディに取り付けます。
   バッテリーケース取り外しツマミを回して、ボディに空のバッテリーケースを取り付けます。

10.3 三脚ねじ / 補助レリーズ接点

すべての接続面は、常に清潔で乾燥した状態を保ってください。

一般の三脚よりねじの太い3/8インチねじ付きの三脚をお使いになるときは、ボディ底部の三脚穴の中の小ねじ Ⓐ をプラスドライバーで外します。三脚取り付け穴の溝にコインを当て、三脚ねじアダプター Ⓑ.を取り外します。

電磁シャッターレリーズ使用時は、ボディ右側面の下部にある接点カバーを取り外して下さい。

10.4 カメラ液晶のエラー表示

こんな表示がでたら...

液晶表示		原因と処置の方法	
外部LCD	ファインダー内部LCD	原因	処置
	▶ ◀	*1コマ撮影モード“S”撮影中、オートフォーカスでピントが合わないときに表示し、シャッターは切れません。 *M645レンズを取り付けて、F5.6より絞り込んだときに表示されます。	·再度ピント合わせを行うか、フォーカスロック撮影またはマニュアル撮影を行います。 ·レンズの絞り値をF5.6より明るくします。
batt	batt	*電池が無くなると表示されます。	·新しい電池に交換します。
-no- db	-no- db	*カメラにデジタルバックがついていないときにシャッターボタンを押すと表示されます。シャッターは切れません。	·カメラにデジタルバックを取り付けます。
CUSTOM		*カスタムファンクション設定でユーザーを選択しないでカスタムファンクションを設定すると表示されます。	·カスタムファンクション設定の内容を変更する前にユーザーを選択してください。
	- U - - O -	*マニュアルモード撮影のとき設定値と測光値の差が5EVを越えたとき表示されます。	絞りまたはシャッター速度を変更します。
F- -	- -	*レンズが取り付けられていないときに表示されます。 *M645レンズを取り付けたときに表示します。	·カメラにレンズを取り付けます。
Err-01 Err-02 Err-03 Err-04 Err-05 Err-06 Err-07		*“Err”表示が点灯したときは、撮影中に何らかの異常を検出しました。	·新しい電池と交換し再度シャッターボタンを押しても、“Err”表示が解除されない場合はサービスセンターにご相談下さい。

*カメラ注意マーク は、カメラに何らかの異常を検出したときに点滅表示します。

10.5 レンズのメンテナンス

レンズ内側の光学系には絶対に指で触れないでください。ブロアーやレンズブラシ、付属の乾いた布などを使用して、レンズ内側の光学系は常に清潔な状態に保持してください。

接点には触れないでください。乾いた布またはブラシのいずれかを使用して、接点を常に清潔な状態に保持してください。

レンズは防水ではありません。万が一濡れた場合は、すぐに布で拭き乾かして下さい。塩風等にさらされた場合は、布を湿らせ、十分にしぼってから拭きとって下さい。

10.6 デジタルバックのメンテナンス

IRフィルターのクリーニング

Leaf Credoデジタルバックがカメラに装填されていない場合は、必ず保護カバーを付けて保管して下さい。IRフィルターに埃や汚れが付着したまま除去されないと、画像に影響を与える場合があります。

10.7 IRフィルター

IRフィルター(赤外線除去フィルター)は取り外せないようにセンサーの上に取り付けられています。このフィルターは下記の理由で絶対に外さないでください。

- IQデジタルバックのピント精度が狂います
- クリーンルームの環境下でないと、フィルターとセンサーの間にホコリ等が入り込み、画像に悪影響をあたえます。
- IQフィルターを外した場合はPhaseOneの保証対象外となります。

10.8 Mamiya 645DF+ カメラボディ仕様

- オープン設計。幅広い用途に対応可能。
- プロの使用を想定した堅牢で耐久性のある設計
- 人間工学に基づいた使いやすいボディデザイン
- Mamiyaデジタルレンズ、Mamiya AF/AFDレンズ、マウントアダプター（別売）使用でHasselblad Vレンズ使用可能
- 1/4000秒から60分までのシャッタースピード
- 1/1600秒までのフラッシュシンクロ

Mamiya 645DF+は、その優れた画質と小型カメラの機動性、操作性を両立したデジタルバック専用レンズ交換式オートフォーカス全自動電子制御一眼レフシステムカメラです。

ファインダー、ワインダーを僕ディに一体化し、最高速度1/4000秒のメタルフォーカルプレーンシャッターを搭載し、35mmカメラの約3倍あるセンサーとビューファインダーは、見やすさと精密な画角·ピントを提供します。

20項目以上のカスタムファンクション機能を搭載して、撮影者の好みや目的に合わせてカメラの機能や設定内容を変更できます。

カメラタイプ	645判オートフォーカス一眼レフカメラ
レンズ	Mamiyaデジタルレンズ、Schneider-Kreuznachレンズシャッターレンズ、Mamiya 645 AFD用レンズ Hasselblad Vシリーズ互換レンズ
デジタルバック	オープンプラットホーム
オートフォーカス	TTL位相差検出方式
シャッター	1/4000秒～60分
フラッシュシンクロ	フォーカルプレーン:1/125秒以下 レンズシャッター:1/1600秒～1秒 （一部レンズは1/1000秒～1秒）
測光方式	TTL開放測光、中央部重点平均測光、部分測光、可変比率測光（A-S AUTO）
ミラーアップ撮影	ドライブダイヤルにより可能
ファインダー	固定式プリズムアイレベルファインダー 倍率0.71倍。視野率95%。視度調整機構
フォーカシングスクリーン	交換可能 ノーマル·センサーサイズ·方眼マット
セルフタイマー	2秒～60秒までセット可能
レリーズケーブル	シャッターボタンにケーブルレリーズ取り付け可能 電子シャッターケーブル用端子装備
プレビュー機能	カメラ前面にプレビューボタン装備
三脚穴	1/4と3/8使用可能
電源	単三電池（アルカリ、リチウム、ニッケル水素、ニッカド）6本、または専用充電式リチウムイオンバッテリー
カスタムファンクション設定	3つカスタムモード カスタムファンクションはダイヤルとボタンを使用して設定可能
大きさ	153 x 128 x 152 mm (W x H x D)
重量	1.03 kg（ボディのみ）

内容は予告なく変更することがあります

10.9 Mamiya 645DF+ Housing Specification

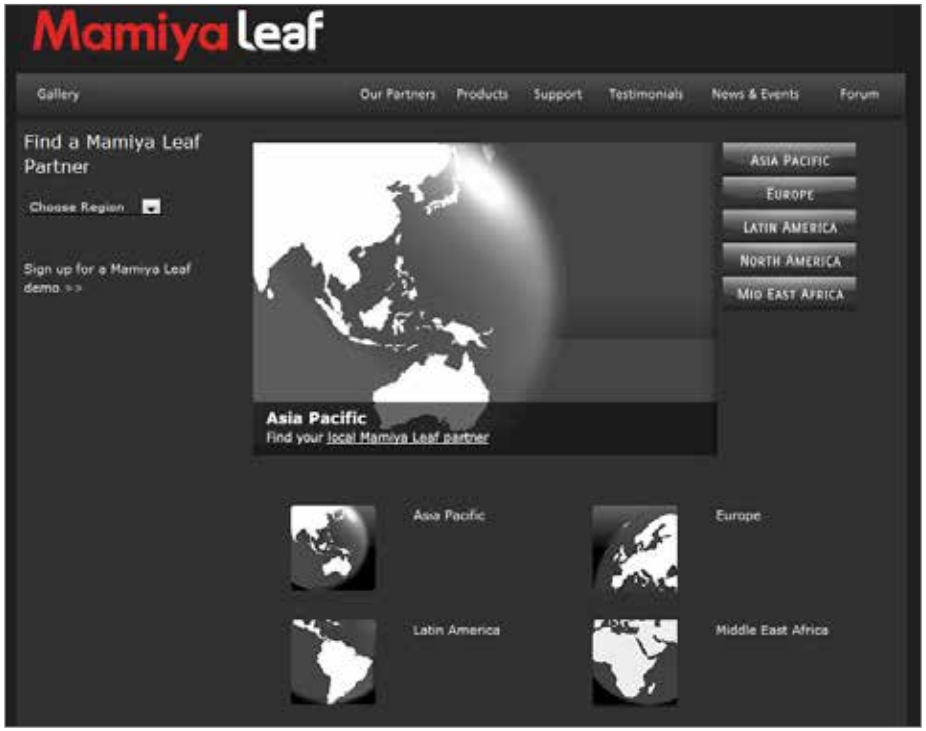
Camera type	6 x 4.5 cm format, electronically controlled focal plane shutter, TTL multiple mode AE, AF single lens reflex.
Actual Image size	56 x 41.5 mm.
Lens mount	Mamiya 645 AF Mount, compatible with M645 Mount (manual focus confirmation, focus aid, stopped-down exposure metering).
Viewfinder	Fixed prism viewfinder magnification x0.71; built-in diopter adjustment (-2.5 to +0.5, optional diopter correction lenses provide adjustment ranges of -5 to -2 diopter and 0 to +3 diopter); built-in eye-piece shutter.
Focusing screen	Interchangeable, Matte (standard), Checker, and Microprism Type C for Non-AF M645 lenses.
Field of view	94%* of actual image.
Viewfinder info	Focus mark, defocus mark, warning mark, aperture value, shutter speed, metering mode (A, S, A/S), exposure compensation value (difference between set value and metered value) and flash ready/OK lamp with TTL Metz connection.
Viewfinder Masking	The image area of the Mamiya 645DF+ cameras is approximately 56 x 42 mm. A viewfinder mask is only needed for the Credo 40 model. Viewfinder masking is not necessary for Credo 80 and Credo 60 models as their light sensitive CCD measures 53.9 x 40.4 mm.
AF method	TTL phase difference detection method; sensor: CCD line sensor (I+I type); operating range: EV0 to EV18 (ISO 100).
Focus area	Displays the focus area in the viewfinder screen.
AF assist beam	Activates automatically under low light, low contrast.
Range	9 m (when using AF 80 mm f/2.8 D lens).
AF lock	By pressing the shutter release button halfway down in the AF-S mode, or by pressing the AFL button.
Exposure modes	Aperture-priority AE, shutter-priority AE, programmed AE (PH, PL setting possible), and manual.
AE metering mode	TTL metering, center-weighted average (Av), spot (S), and variable ratio (A-S auto).
Increments of shutter	Both the shutter speed and the aperture level can be set to 1/3 or speed and aperture 1/2 using the electronic dial lock function.
Metering range	EV 2 to EV 19 (with ISO 100 and AF80 mm f/2.8 D lens).
Exposure compensation	Expandable to ±5 EV.
AE lock	With AEL button; canceled by pressing the button again. When **AEL** button is pressed, exposure compensation and metering difference is displayed in the viewfinder (+-6 EV, 1/3 steps in M mode).
Shutter	Electronically controlled vertical metal focal plane shutter (vertical travel).
Shutter speed	AE 30 to 1/4000 sec (1/8 step), manual 30 to 1/4000 sec (1/2 or 1/3 steps), X, bulb (Bulb, electronically controlled), tIME, shutter curtain protection mechanism.
Auto bracket shot	Enable with auto bracket button (3 frame shots, 5 frame or 7 frame shot with auto bracketing). Specify 1/3, 1/2, 2/3 or 1 EV steps.
Flash sync	X contact point, 1/125 sec. Sync speed can be changed away from terminal.
Flash control	TTL direct flash control, supports Metz SCA 3002 system (SCA 3952 Adapter).
Mirror up shot	Select by pressing the mirror up button.
LCD displays	Program AE mode icon, sync mode icon, shutter speed, aperture, custom function icon, user function icon, focal plane mode icon, lens shutter mode icon, AE lock icon, auto focus lock icon, mirror up icon, focus area icon, auto bracketing icon, Self-timer icon, repeat mode icon, delay mode icon, remaining battery power icon, spot metering icon, dial lock icon, flash compensation icon, exposure compensation icon, exposure compensation, delay time.
Sync terminal	X contact (sync speed 1/125 sec).
Cable release socket	On shutter button.
Remote-control terminal	On side of body; electromagnetic cable release RE401 and RS402.
Self-Timer	Self-timer intervals can be set from 0.5 to 90 sec: 0.5 to 10 sec by the sec, 10 to 90 sec in 10 sec units, 2 to 10 minutes by the minute and 10 to 6 minutes in units of 10 minutes.
Depth-of-field confirmation	Preview Button on body.
Custom settings	20 items.
Tripod socket	U 1/4 in and U 3/8 included.
Power requirements	6 AA-size batteries (alkaline-magnesium, lithium, nickel-hydride or nickel-cadmium rechargeable batteries), rechargeable Li-Ion battery pack.
External power socket	An external battery case can be connected.
Size & weight	6 X 5 X 6 in / 153 X 128 X 152 mm (W x H x H) 2.3 pounds / 1030 g (body only).

* This information is based on a linear (horizontal/vertical) measurement.

11.0ソフトウェア

Capture One Proは、プロフェッショナル用のRAWコンバーターであり、画像編集ソフトウェアです。また、カメラを接続しての撮影、画像の整理、編集、シェアそして印刷を素早く、柔軟かつ効率的なワークフローでサポートします。

Capture Oneに関する詳細情報は、http://help.phaseone.com/ をご覧ください。また、このオンラインユーザーガイドは、WindowsとMac上のCapture Oneの[ヘルプ]メニューから呼び出すことが可能です。



12.0　ユーザーサポート

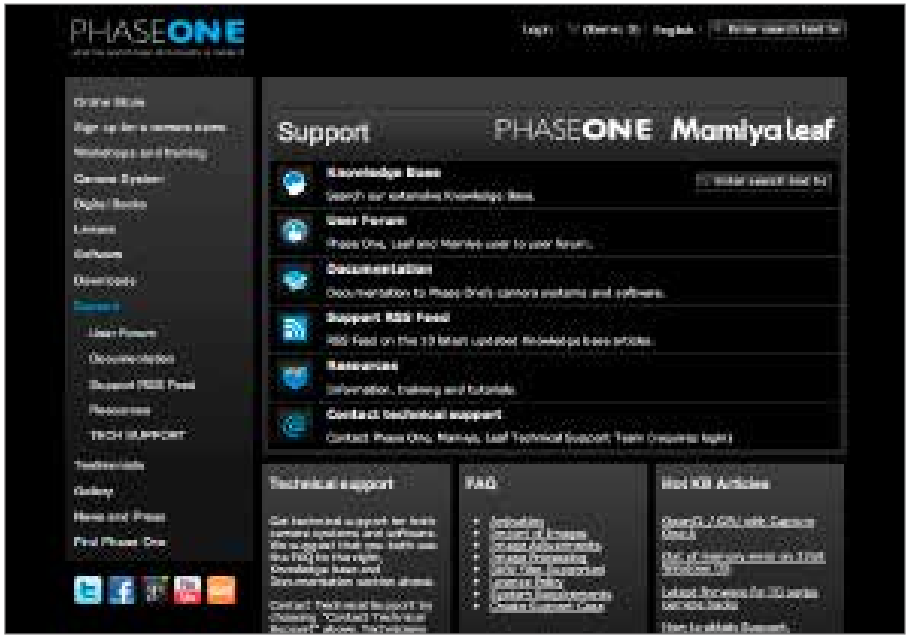
Mamiya Leafはすべての製品に対し、ワールドクラスのサポートとサービスを保証します。
アップデートされた最新のサポートポリシーは、www.phaseone.com を ご確認ください。

ワールドワイドのサポート体制

ユーザーは世界中のどこでMamiya Leaf製品をお求めになっても、その国々でのパートナーによってサポートを受けることが可能です。

各国のMamiya Leafのパートナーは、Mamiya Laefのユーザーに対して機器が継続して使えるように、トレーニング・保証規定・アップグレードなどを提供しています。これらはお求めの販売店経由でユーザーに届けられます。

Mamiya Leafのパートナーの情報はhttp://www.mamiyaleaf.com から検索可能です。



12.1 Webでの情報

Mamiya Leafでは様々なコンテンツ·知識を含むたくさんのオンラインリソースを提供しています。ユーザーガイド、Capture Oneやデジタルバックのマニュアル等の詳細情報は www.mamiyaleaf.com を参照して下さい。

Knowledge Base（英文）

Phase Oneのサイトでは多くのユーザーの質問に対する詳細な回答を提供しています。このサイトはMamiya Leafの質問等も受け付けることができ、すべてのMamiya Leafオーナーは、この「セルフサービス」サイトを無料で利用することができます。

Capture Oneオンラインサポート（一部英文）

Phase Oneのサポートページでは、テクニカルサポートチームや全世界のユーザーが様々な有益な情報を共有しています。http://support.phaseone.com

また、各国の代理店が独自のWEBページやセミナーを実施しています。

Mamiya LeafオフィシャルYouTube

Mamiya Leaf のオフィシャルYoutubeチャンネルには、様々な事例紹介、テクニック等の情報がアップされています。
http://www.youtube.com/leafcamera

Twitter（英文）

Mamiya Leafのアカウントをフォローしてください。最新の製品情報やプロモーション、その他たくさんの情報を得ることができます。

twitter.com/leafimaging

Mamiya leaf

http://www.mamiyaleaf.com

© 2012 65301597-A CREDO MAMIYA USER GUIDE V1.20